

JFA news



特集

フィジカル 改革

反町康治
JFA技術委員長

菅野淳
JFAフィジカルフィットネスプロジェクトリーダー

選手に聞く
遠藤航選手、室屋成選手、
宝田沙織選手

2 NO.442
2021.
情報号

JFA No.442 news

2021 2月情報号

CONTENTS

特集

フィジカル改革

003 反町康治 JFA技術委員長

006 菅野淳

JFAフィジカルフィットネスプロジェクトリーダー

010 選手に聞く

遠藤航 選手 (シュツットガルト)

室屋成 選手 (ハノーファー96)

宝田沙織 選手 (ワシントン・スピリッツ)

018 [JFA 100周年企画]

一過去への感謝、未来への決意一

第12回フットボールカンファレンス

【特別企画】

023 グラスルーツ対談 (前編)

～房総ローヴァーズ木更津FC

084 天皇杯 JFA 第100回

全日本サッカー選手権大会総括

～須原清貴JFA天皇杯実施委員会委員長

【連載】

068 隔月連載 フットボールにできること

「第100回天皇杯決勝におけるSDGs推進活動
～サッカーファミリーと共に良い社会の実現へ」

069 隔月連載 フットサル道場

ブルーノ・ガルシア フットサル日本代表監督

「自分たちに合う価値観を持とう」

070 隔月連載 サッカー心育論

中山雅雄

「じっくり育てる」

071 隔月連載 日本サッカータイムスリップ

「日本女子サッカーリーグの変遷(4)」

072 いつも心にリスペクト

大住良之

「ボールは丸い」

◎ JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

◎ JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには
世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

◎ JFAのバリュー

エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること
フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

【大会・試合】

075 2020JリーグYBCルヴァンカップ

076 #atarimaeni CUP サッカーができる当たり前に、ありがとう!

077 令和2年度第99回全国高等学校サッカー選手権大会

078 第29回全日本大学女子サッカー選手権大会

079 第29回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

080 JFA 第24回全日本U-18女子サッカー選手権大会

JOCジュニアオリンピックカップ

081 XF CUP 2020 第2回日本クラブユース女子サッカー大会 (U-18)

082 JFA 第26回全日本U-15フットサル選手権大会

083 JFA 第11回全日本U-15女子フットサル選手権大会

【記録集】

053 天皇杯 JFA 第100回全日本サッカー選手権大会

025 月刊レポート～JFAリリースインフォメーション&活動報告

028 会議レポート

039 DATA BOX

064 蹴球通信

073 日本サッカーミュージアム

087 サッカーファミリー広場

088 次号予告

※連載「クロースアップFA」は休載とさせていただきます

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©F.LEAGUE、©Walrix



選手の体を成す「正しい知識」を

日本サッカー協会（JFA）は今年、将来を見据えた策として「フィジカルフィットネスライセンス」を新設する。パワー化とスピード化が進む世界のサッカー界において、日本は「フィジカル」という分野をどのように強化する方針なのか。反町康治JFA技術委員長に聞いた。



反町 康治 JFA技術委員長 インタビュー

○オンライン取材日：2021年1月20



反町康治技術委員長

**攻めても守っても
迫力あるバイエルン**

——現代サッカーにおける「フィジカル」の重要性をどのように捉えていますか。

反町 世界最先端に君臨するヨーロッパのサッカーを見ていると、高水準のフィジカルを備えていることがトップレベルで戦うための必須条件だと言えます。2019・20

シーズンのUEFAチャンピオンズリーグを全勝で制したバイエルンの選手たちは90分間休むことなく動き続けていました。プレーの強度を維持しつつ、攻守で主導権を握ろうとするサッカーが今後のトレンドになることは間違いありません。AFCテクニカルダイレクターのアンディ・ロクスブルグさんは、「アジアサッカー連盟（AFC）が主

催する大会もヨーロッパ同様、強度が高くなりつつある」と、先日の第12回フットボールカンファレンスで話していました。まさにその通り。日本でもインテンシティ（プレー強度）やデュエル（球際の争い）という言葉が浸透しています。1対1の強さと持続力を兼ね備えた選手が真の一流と認識されていることの証しではないでしょうか。

——フィジカルが強い選手の定義も時代とともに変化しているんですね。

反町 一般的に「フィジカルが強い」というと、体格に恵まれていて筋肉隆々で高いボールに対して強いといった具合に身体能力の高い選手を思い描きがちです。でも、現代サッカーで求められるのは、連続して動くことができ、競り合ってもバランスを崩さない選手です。

——連続して動く、ですか。

反町 人間はもともと前に出ていく力、すなわち推進力を備えています。でも、サッカーの試合で後ろに戻る力は、チームの戦術に左右されます。それは、「FWはそこまで守備をしなくてもいいよ」というチームもあるからです。その一方で、FWにも守備的な役割を与え、「戻る」や「プレスバック」という言葉が浸透しているチームは、相手ボールになったとき、後ろに戻ります。バイエルンのエース、レバンドフスキ

いから(笑)。つまり一定のレベルに達したのであれば、心・技・体の中でも「体」を整える必要があります。理想はボールを使いながらフィジカルを磨くことですが、ボールを使いながら体幹を鍛えるのは難しい。時間と労力、そしてしっかりとやるには費用もかかるものなんです。だから、高価な器具を使わず、限られたスペースで、かつ自体重で体幹トレーニングをするなど指導者には工夫が求められます。あとは、身につけた知識をサッカーという競技に結びつけることです。

——具体的にどのようなことでしょうか。

反町 ボディービルダーのような筋肉をまとうことがサッカー選手としての可能性を広げるかということ、必ずしもそうではないということ、キープポイントは、鍛えた体をサッカーに生かすことであって、鍛えることが目的になってはいけません。

また、個人だけではなくチームとして万全な状態をつくるためのフィジカルも意識してほしいと思います。これは極端な例ですが、試合の前日に筋トレをしたら、選手は合の前日に筋肉痛になって最高のパフォーマンスを発揮できないでしょう。試合から逆算し、選手の体調をどう整えるかを掘り下げて考えることです。選手個々と向き合い、細かいところまで観察するとい

う作業は、成長速度が異なるU・12年代やU・15年代、そしてU・18年代で特に求められます。また、年齢という枠にとらわれず、柔軟に対応することも重要です。

——責任重大ですね。

反町 当たり前と思っている知識も、勉強しなければ間違っているかもしれません。例えば、試合の前日はなるべく炭水化物を摂取して持久力アップにつなげ、試合後はできるだけ早く失われたエネルギー源を補うための炭水化物とタンパク質を摂って疲弊した筋肉の回復を促すことなどを知らない指導者は多い。勉強しなければ分からないわけですね。

全ての指導者に最低限でもいいから正しい知識を持ってもらいたいという思いが根底にあって、だからこそ、C級ライセンスを持つていればフィジカルフィットネスライセンスのC級を受講できるようにしました。逆に、ライセンスを保持していない指導者がフィジカルC級を取得したいといっても、それは不可能。あくまでも付加ライセンスとして一般的なサッカーの知識を備えてからフィジカルの重要性を学んでいただければと思います。

——今後、フィジカルコーチがフィジカルライセンスを持つことはスタンダードになると考えますか。

反町 AFCの主催大会では、フィ

ジカルライセンスを持つていないコーチングスタッフはベンチに座ることができません。今後、Jリーグの指導者もフィジカルについて学ぶ必要性が出てくるかもしれません。ライセンスの観点でいうと、男性だけではなく、女性のためのコースも設ける予定です。今年、WEリーグが開幕するのもその理由の一つですが、女子も男子同様、強化していく必要があるからです。女子選手のフィジカルを強化しようとなったとき、女性ならではの考え方も少なからずあるでしょう。それも踏まえて女性のフィジカルコーチとして仕事してもらおうような体制づくりを整えることが大事だと考えています。

——ほかに「こんな有資格指導者にフィジカルライセンスを取ってほしい」という考えは？

反町 指導者ライセンスは持っているけどフィジカルに関する知識を備えておらず、自分たちが学生時代に教えてもらったやり方を伝えているような指導者の方には、ぜひアップデートされた正しい情報を得てもらいたいですね。われわれが高校生のときは、ただひたすら走らされて、グラウンドに倒れたらやつとやめさせてもらえた時代でしたが、それは間違っています。一年を通してのチーム強化を考えた場合、選手などの部分を伸ばせばいいかを考えてもらいたいです。そ

うすることによってチームが強くなればおのずと良い選手が輩出され、日本サッカー界の底上げにつながりますから。

——確実にシフトチェンジが進むことが理想ですね。

反町 大人になるとフィジカル面の伸びしろが少なくなりますが、それまでに行うことはたくさんあります。小学生のうちに行うことと、中学生で鍛えられることと、中学生で段階を踏んで少しずつでもいいから体を強くしていったほうがいいから、そしてポストユース年代(18歳~21歳)になったときにはプロとして一人前の体つきになって、最低限のベースが出来上がっていれば理想的です。

もちろん、一朝一夕で成り立つようなものではないと重々承知していますが、だからこそ、今、手を打っておかないと10年後にはほかの国に差を広げられたり、追い抜かれてしまいうリスクもあるわけです。フィジカルという伸びしろなど、改善する余地があるものにはどんどん着手していきましょうというスタンスです。サッカーの戦術的な部分は数年周期でトレンドが生まれ、それに対抗するための戦術も生まれます。でも、フィジカルは普遍的な要素で、その重要性は劇的には変わりませんが、レベルアップにより力を注ぎたいところです。

——最後に、読者へのメッセージをお願いします。

反町 サッカーのスタイル、戦い方やポリシーなど、自分の考え方や指針を個人やチームに反映させるのは良いことだと思っています。ただ、知識があつた上で指導すること、知識がないのに強引に指導することとは異なります。日本の指導者は向学心を備えているので、互いにコミュニケーションを取り、オープンマインドを意識しながら広範囲にわたって吸収してもらいたい。それは、教える側が上から目線で、教わる側が受け身で、ということではありません。今の世の中、教える側が受講者の意見を聞くことによつて学ぶ場面ばかりです。これからは同じ指導者として情報を共有しながら、日本サッカー界の発展に尽力していきましょう。



女性のフィジカルコーチが増えれば、女子選手への理解が深まり、日本女子サッカー全体の底上げにつながっていくはずだ

世界と戦う上でも、技術を発揮するための土台となるフィジカル向上は避けては通れない



いことを詰め込んで厳しいトレーニングを行っている指導者にとつては、選手個々の体を見つめ直し、チームが目指すサッカーや戦術に必要な体力強化、体づくりを考える時間にもなったと思います。コロナ禍にあって、フィジカルの大切さは再認識していただけたかなと思います。

世界で戦うため、そして個人に合ったものを

——選手の育成と強化において、フィジカルの重要性は常にうたわれています。フィジカルフィットネスプロジェクトとしてどのようにアプローチしていきますか。

菅野 日本サッカー協会（JFA）は「JFAの約東2050」を果たすため、2030年までFIFAワールドカップに出場し続け、ベスト4に入る

という中期目標を立てています。それが10年後に迫る中、プロジェクトはそこを見据え、「世界で戦えるフィジカルの構築」「個人の特性に合ったフィジカル要素の向上」などを掲げています。

——育成・強化やチームづくりとともに、フィジカルの向上も図っていくということですね。

菅野 私は常々、JFAが掲げる「Japan's Way」に関して少し間違った捉え方をされているのでは、という疑問を抱いていました。

Japan's Wayは、敏しよ性やスピード、テクニクといった日本人の良さを全面に出して戦うことと捉えられていると思います。確かにそうしないと、日本人が世界トップレベルに比肩するには難しい部分もあります。その一方で、「パワー系のトレーニングをしてもど

うせ駄目だから日本の良さを追求するんじゃない」という声も聞こえてきます。

——駄目だと思いつている節がある。

菅野 そうです。例えば、高いテクニクを持っていても、相手に強く体を寄せられたときにそれを発揮できなかつたら意味がありません。パワーを全面的に押し出して戦うという

のではなく、日本人の良さを発揮するためにパワーづくりは必要だと考えるべきです。世界のサッカーを見ても、パワーなどのフィジカル要素の向上は避けては通れないものになっていきます。そのことは昨年、ナショナルコーチングスタッフ会議でも話をして、各カテゴリー日本代表の監督やスタッフと共有しています。

——世界と互角に戦うためのフィジカルとはどういうものなのでしょう。

菅野 まず、「フィジカルとは何か」を考えたいとき、「体格」と言われることがあります。けれど、なかなか身長は変えられませんよね。では何を替えるのか。先ほど話したように、技術を発揮するための土台となるフィジカルは非常に重要です。相手に体を寄せながらも軸足で踏ん張って次のプレーに移る、ボールコントロールのときに体の軸がぶれないなどです。

体幹トレーニングやムーブメントパレオレーションなどはだいぶ浸透してきていますが、もう一段階、レベルアップが必要でしょう。

——フィジカルといっても、単にパワーのことだけではないということですね。

菅野 サッカー界でも、フィジカルに対して共通認識が図られていない部分があります。重りを持った筋力トレーニングは体が硬くなるとか、不要な筋肉をつけると体が重くな

るなど否定的な考え方も多い。ですが、われわれはボディビルダーを育成するわけではありません。当たり前負けたくない、でも重くなり過ぎない。そうした姿を目指していけば、世界で戦える体になっていくと思っっています。

——日本人もフィジカルを高めることで世界の強豪国に打ち勝つことができる。

菅野 19年のラグビーワールドカップでは、日本人選手もパワーを発揮し、世界の強豪を相手に結果を残しています。われわれとしても、日本人の良さを引き出すためのフィジカルをしっかりと考えていきたいと思っています。

——「個人の特性に合ったフィジカル要素の向上」についても教えてください。

菅野 パワーやスピードの話はしましたが、最低限のベースは共通だとしても、求められるフィジカルはポジションによって異なります。FWやDFの選手、中盤のテクニカルな選手もいる中で、どうすれば自分の力を発揮できるかという点において、個人個人に合ったフィジカルフィットネスがあると思うんです。

育成年代のトレーニングを考えると、選手の身長伸び方もそれぞれ異なりますし、年齢で区切れるわけでもありませんよね。個々の成長段階、ポジション、性格などに合わせたトレーニングを開発していくべきだ

と思っっています。

10年計画を立て、体づくりを見直していく

——それらを踏まえて、当たり前じゃないための体づくりをテーマに、「10年計画」を立てました（次ページ右下参照）。この計画を打ち出す上で意識したのはどのような部分ですか。

菅野 10年後に20歳を迎える選手たち、すなわち現在10歳前後の選手たちに対して何ができるか、ということに軸に考えました。

これまでの考え方は、小学生以下は動きづくりを重点的に行い、中学生でスタミナ、高校生でパワーをつけるといった流れがありました。自重を使った筋力トレーニングは中学生になってから、といった認識がそれにな



成長の個人差などに合わせた、オーダーメイドのフィジカルトレーニングが今後は必要となる

——年代やカテゴリーを問わず、受講してもらいたいですね。

菅野 年齢も性別も問いません。今年3月に開催予定のコースでは、WEリーグクラブの指導者向けコースも考えています。女性のフィジカルコーチの養成も課題の一つですので、どんどん輩出していきたいですね。

——フィジカルB級やA級はより専門的な内容になっていくのでしょうか。

菅野 フィジカルB級およびA級は、AFCフィットネスコーチングコースと互換性を持たせたいと考えているので、その内容をスライドさせつつ、より日本人に特化したところをプラスしていくように考えています。

フィジカルA級はプロチームの指導を目指すフィジカルコーチを対象としており、サッカーS級ライセンスを持つ監督と共にチームづくりができる

フィジカルコーチ養成をイメージしています。最終的には、フィジカルA級を持つ人が増えて、いずれはヨーロッパなどのクラブで活躍する時代がくれば良いなと思っています。あるいは、日本人監督が海外チームの指揮を執るといふときに、その片腕としてフィジカルA級を持つフィジカルコーチと共に戦うというのが理想です。

「楽しく強く」
フィジカルイメージを変えたい

——フィジカルフィットネスプロジェクトとして、今後の展望をお聞かせください。

菅野 プロジェクトメンバーには、われわれ現場の人間のほかに、多くのエビデンスを出してくれる大学の先生方もいます。現場と研究や科学といった視点を組み合わせながら、いろいろなことを現場に取り入れていきたいと思っています。また、男女の各カテゴリー日本代表にフィジカルコーチを配置するようになりませんが、そのサポートもさらに充実させていきたいと考えています。

今年からフィジカルフィットネスライ

フィジカルフィットネスライセンスの概要

フィジカルの知識を持った指導者およびフィジカルコーチを養成するための指導者ライセンス(付加ライセンス)。2021年度より、フィジカルフィットネスC級コーチ養成講習会(20名×4コースで実施予定)を開催し、2022年度以降、順次、B級、A級を立ち上げる予定。フィジカルB級およびA級はそれぞれ2年かけて受講し、ライセンスの取得とし、1年目(前期)終了後、1年の実践を経て2年目(後期)が受講可能となる。

——年代やカテゴリーを問わず、受講してもらいたいですね。

菅野 年齢も性別も問いません。今年3月に開催予定のコースでは、WEリーグクラブの指導者向けコースも考えています。女性のフィジカルコーチの養成も課題の一つですので、どんどん輩出していきたいですね。

——フィジカルB級やA級はより専門的な内容になっていくのでしょうか。

菅野 フィジカルB級およびA級は、AFCフィットネスコーチングコースと互換性を持たせたいと考えているので、その内容をスライドさせつつ、より日本人に特化したところをプラスしていくように考えています。

フィジカルA級はプロチームの指導を目指すフィジカルコーチを対象としており、サッカーS級ライセンスを持つ監督と共にチームづくりができる

フィジカルコーチ養成をイメージしています。最終的には、フィジカルA級を持つ人が増えて、いずれはヨーロッパなどのクラブで活躍する時代がくれば良いなと思っています。あるいは、日本人監督が海外チームの指揮を執るといふときに、その片腕としてフィジカルA級を持つフィジカルコーチと共に戦うというのが理想です。

「楽しく強く」
フィジカルイメージを変えたい

——フィジカルフィットネスプロジェクトとして、今後の展望をお聞かせください。

菅野 プロジェクトメンバーには、われわれ現場の人間のほかに、多くのエビデンスを出してくれる大学の先生方もいます。現場と研究や科学といった視点を組み合わせながら、いろいろなことを現場に取り入れていきたいと思っています。また、男女の各カテゴリー日本代表にフィジカルコーチを配置するようになりませんが、そのサポートもさらに充実させていきたいと考えています。

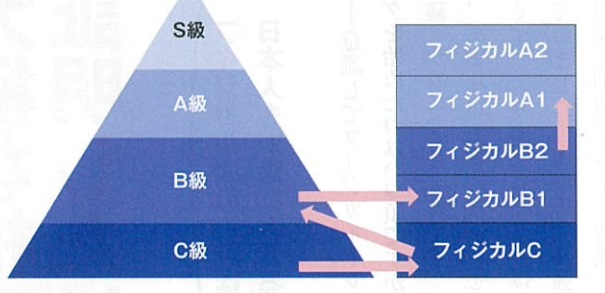
今年からフィジカルフィットネスライ

フィジカルフィットネスライセンスの概要

フィジカルの知識を持った指導者およびフィジカルコーチを養成するための指導者ライセンス(付加ライセンス)。2021年度より、フィジカルフィットネスC級コーチ養成講習会(20名×4コースで実施予定)を開催し、2022年度以降、順次、B級、A級を立ち上げる予定。フィジカルB級およびA級はそれぞれ2年かけて受講し、ライセンスの取得とし、1年目(前期)終了後、1年の実践を経て2年目(後期)が受講可能となる。

JFAフィジカルフィットネスライセンスの概要

フィジカルの知識を持った指導者およびフィジカルコーチを養成するための指導者ライセンス(付加ライセンス)。2021年度より、フィジカルフィットネスC級コーチ養成講習会(20名×4コースで実施予定)を開催し、2022年度以降、順次、B級、A級を立ち上げる予定。フィジカルB級およびA級はそれぞれ2年かけて受講し、ライセンスの取得とし、1年目(前期)終了後、1年の実践を経て2年目(後期)が受講可能となる。



S級	フィジカルA2
A級	フィジカルA1
B級	フィジカルB2
C級	フィジカルB1
	フィジカルC

[各級の概要]

フィジカルC級

目的

- ・基礎的知識を持ったフィジカルコーチの育成
- ・ジェネラルなコーチが広く一般にフィジカルの知識を身に付ける

⇒傷害を予防し、日本人のフィジカルの土台づくり
育成年代を中心にフィジカルの基礎をつくる

スケジュール
4日間で取得

受講資格
サッカーC級ライセンス保有者

フィジカルB級

目的

- ・専門的知識を持ったフィジカルコーチの育成
- ・ジェネラルなコーチがより深くフィジカルの知識を身に付ける

⇒日本人選手のフィジカルパフォーマンスの向上
今まで課題とされてきたフィジカルを弱点にしない

スケジュール
5日間×2回(2年で取得)

1年目(前期)をフィジカルB1、2年目(後期)をフィジカルB2とする

受講資格
サッカーB級ライセンスおよびフィジカルC級ライセンス保有者

フィジカルA級

目的

- ・プロリーグで活躍できるフィジカルコーチの育成
- ・プロ監督と一体となってアジア、世界で活躍する

⇒日本人選手のフィジカルパフォーマンスの向上
世界で活躍する選手の育成・輩出

スケジュール
7日間×2回(2年で取得)


1年目(前期)をフィジカルA1、2年目(後期)をフィジカルA2とする

受講資格
フィジカルB級ライセンス保有者

——フィジカルイメージを変える、非常に重要な言葉ですね。

菅野 ネガティブなイメージを持ちながらトレーニングをしても効果は上がりません。苦しいと思うトレーニングを、どうポジティブに取り組んでもらえるようにするか。矛盾することではあるけれど、楽しくなければ長続きしませんし、効果も半減してしまおうと思うんです。私は27年間、プロチームのフィジカルコーチとして選手たちに寄り添いながら取り組んできました。こうした思いを講習会でも伝えていきたいと思えますし、その考え方が全国に広がってほしいです。その上で、日本サッカーがさらなる高みに行けるように力を尽くしていきたいと思っています。

「楽しい講習会にしたい。フィジカルB級をスタンダードにして、意欲のある方にはB級、A級を取得してもらいたい」と菅野リーダーは意気込む(写真はイメージ)



にするメニューを組んでもらっています。

——体の動かし方を学んだことで、ピッチ上のパフォーマンスは変わりましたか。

遠藤 僕の場合、日本のパーソナルトレーナーからも教わっているのですが、いちがいにドイツのメニューだけで変化したとは言えないのですが、良くなっています。ボランチというポジションは、クレバーさも必要ですが、フィジカルコンタクトを避けては通れません。ただ思い切りパンと相手に当たればいいのかといえば、そうではない。体を当てたときに、いかにバランスを崩されないようにするのが大事。178センチの体でも十分に戦えます。

——体格で劣っていても負けな

と。
遠藤 日本では、海外の選手には体の強さで勝てないから、スピードやアジリティー（敏捷性）で勝負しようという考え方もありますが、僕はそうは思いません。フィジカルを鍛えれば、日本人でもヨーロッパの選手たちと球際で対等に戦えます。むしろ、僕はそれを証明したい。実際、僕はボランチとしてブンデスリーガでプレーできています。しっかりとした準備をすれば、大柄な

選手たちにも競り勝てます。そこはほかの日本人がもつとトライしているところだと思っています。日本にいる頃からそう思っていましたし、ヨーロッパに来て、さらにそれを実感しています。

手にしたフィジカルを いかにピッチで生かすか

——ベルギーのシント・トロイデンでヨーロッパの1年目を過ごしました。フィジカル面の苦労はなかったのですか。

遠藤 ベルギーでは特に戸惑うことはありませんでしたが、ドイツのシュツットガルトに移籍したときに

は、練習のインテンシティー（強度）の高さに驚きました。組織で守ることもありますが、1対1の争いが多い上、激しい。これから日本代表が世界で通用するチームになっていくためにも、一人一人のフィジカルをもっと高めていく必要はあると実感しています。ボールホルダーに対して厳しく奪いにいける選手がもつと出てきてほしいです。

——日本とドイツでは、フィジカル強化の考え方は違うと思いますか。

遠藤 出発点が違います。ドイツは試合中に疲れない状態をできるだけ長く維持するためにフィジカル

「い」という考え方を持っています。シーズン前のキャンプでもボールを使った実践的な練習を多めに組み込み、コンディショニングを上げていきます。

——日本サッカー協会ではこれまでに以上にフィジカルを強化しているという指針を打ち出しており、今年、フィジカルフィットネスライセン

スが新設されます。
遠藤 フィジカルライセンスを取得する指導者には選手のフィジカルを基盤を整えた後、その体をうまく使えるような指導もしていただければ助かります。けがを予防するためのメニューだったり、100%以上の力を発揮できるようにしたり、パツと思ひ浮かぶだけでもいろいろとあります。一定のフィジカル水準に達した選手側からすると、体の機能性が高まるような指導を受けたいところだと思います。

——遠藤選手も早くから身体操作に特化したトレーニングに取り組み

——今後、さらに高いレベルで戦う上でフィジカル強化は必要だと思いませんか。
遠藤 これ以上、体重を増やすようなことはしなくてもいいです。それよりも体の動かし方を追求していけば、まだまだ伸びしろはあると思っています。自分が鍛えてきた体を100%以上に使いこなせるように、これからは貪欲にトレーニングを継続していきます。



湘南ベルマーレ、浦和レッズとJリーグでプレーしていたときにフィジカルの基盤を強固にした。入念な準備が、現在の活躍にもつながっている

トレーニングをします。体が疲れないための準備です。日本の場合、疲れた状態や肉体的に追い込まれた状態でも、いかにスプリントできるかに重きを置いていると思います。

シーズン始めの体のつくり方も180度異なります。日本では走る練習が多い印象ですが、ドイツの指導者は「サッカーに必要なフィジカル能力は、サッカーをしないと身につかない

と出てきます。今、ドイツでは、バイエルンのロベルト・レバンドフスキらが取り組んでいることで知られる脳波トレーニング「ニューロアスレチックトレーニング」が話題です。このトレーニングをすると、例えば、首を振りながらボールを受けたときなどに、より鮮明にボールや周囲が見えるようになったりという効果があるようです。情報化社会の今、フィジカルのベースは鍛えさえすれば、誰もががつくることができると。サッカー選手としての違いが生じるのはその後で、手に入れたフィジカルをいかにピッチで還元するかが問われています。



「もともと線は細いが当たり負けしない」という室屋だが、FC東京加入後からトレーニングに着手し、世界でも対等に戦えるフィジカルになった

と思います。もちろん、ブラジル人選手のスピードに対して「すごく速いな」と感じることはありましたが、フィジカルの差を痛感させられることはなかったです。

トレーニングで 体を正しく使う方法を学ぶ

——本格的に筋力トレーニングを始めたのはプロになってからですか。

室屋 そうですね。明治大学でも腕立てや腹筋をしたり、同級生と

ベンチプレスで何キロ持ち上げられるか競ったりはしましたけど、本格的にはやっていませんでした。FC東京でも、いわゆる筋トレはやってないんです。FC東京には上松大輔さんというコンディショニングアドバイザーがいらっ

しゃって、上松さんが提唱するのは、けがをしない体づくり。例えば、ベンチプレスだったら腕や胸といった体の一部しか鍛えられないですし、筋肉で固める感じになる。一方、上松さんのトレーニングは、重りを持ちながら体全体を使ってエクササイズをして、正しい体の動かし方を学ぶ感じです。

——トレーニングの効果は感じましたか。

室屋 けがをしなくなりました。足も速くなったと思います。踏ん張れるようになったというか、無理な体勢でも耐えることができて、そこからぐいっと前に進めるようになりま

した。変なバランスの崩し方をしないから、周りから見れば体が強くなったように感じるかもしれないですが、「体を正しく使えるようになった」ということだと思います。

——昨年8月にはドイツのハノーファー96に移籍しました。フィジカル面において、日本との違いは感じますか。

室屋 ドイツの選手は体が大きく、太いですし、足が長いですね。ボールを奪いに行っても、日本でやっていたときよりも足を伸ばさないといけないので、移籍したばかりの頃はすごく疲れを感じました。あと、練習場やスタジアムの芝が日本のように短くきれいに整えられていないので、滑りやすいんです。それも疲れを感じる要因でした。でも、やっているうちに慣れてきましたし、踏ん張っているうちに鍛えられたのか、今は疲れを感じなくなりました。ボールを奪うコツも分かってきたので、やはり慣れは大事だと思っています。

——そういう意味では、青森山田時代の、雪の中のサッカーも足腰が鍛えられた要因ではない

ですか。

室屋 確かに、それはあるかもしれません。あと、自分に関して言えば、奪いに行つて飛ばされても、何度も奪いに行けるタイプなんです。そうしたメンタル面も重要だと思います。何度もトライする中で体が慣れてきたり、鍛えられていく。でも、そこで腰が引けてしまつと、「自分はフィジカルが弱い」という先入観を持つてしまいますから。

——慣れということでは、昨年10月に行われた日本代表のヨーロッパワールドカップで室屋選手が自分よりも体の大きな選手に対して空中戦で競り勝っていました。そのプレーもドイツで身についたものですか。

室屋 慣れだと思っています。慣れと「行ける」という自信です。フィジカルが弱いという先入観があると自信を持ってませんし、自信がないと躊躇（ちゅうちょ）してしまひ、遅れてしまふ。自信があれば、先に体をおつけたり、競り合いで先手を取れたりする。だから、慣れと自信は大事だと思っています。

——18年のFIFAワールドカップロシアの「デュエル」の勝率で、

日本代表は試合開始から60分まではほぼ互角ですが、60分以降は上位進出チームから大きく劣つていたそうです。世界との差を縮めるためにはどのようなことが必要だと思えますか。

室屋 正解が分からないから難しいのですが、日本人が体格に優るヨーロッパの選手に普通にぶつかって勝つのは容易ではありません。でも、技術や走力は通用するので、そういった部分を生かして勝負していかないとダメだと思います。もちろんセンターバックとか話は別ですが、攻撃の選手やサイドバックは技術や敏しいう性、走力や持久力でカバーできると思えますし、実際、そうした部分において日本人はすごいとドイツに来てあらためて感じています。あと、自分がどういった選手になりたいかにもよると思います。

空中戦などの競り合いに強い選手になりたいなら、やはり鍛えないといけないですし、技術や敏しいう性で勝負したければ、そこまで本格的に鍛える必要はないと思います。自分自身は体を大きくする必要はないと感じていて、その分、速く動ければ体格の差はカバーできると思っています。

速く動ければ体格の差はカバーできると思っています。

表に選出されるようになってから、スピードを上げるためにどの筋肉を強化する必要があるかなど知識を少しずつ学び、目的を持ってトレーニングに取り組めるようになりました。代表で集まる期間だけフィジカルトレーニングをしても意味がないので、所属チームでも自主的に取り組むことが大切で、一回一回の代表合宿で成長した自分を見せられるようになっていています。

フィジカルトレーニングは意識によって効果も変わる

——15年にU-16日本女子代表に選出されて以降、各年代でアジアの大会やFIFA女子ワールドカップにも出場されました。印象に残っている試合はありますか。

宝田 18年に優勝したFIFA U-20女子ワールドカップのアメリカ戦です。グループステージ1戦目で日本が1-0と勝ちましたのですが、アメリカの迫力やパワーに押されて苦労した印象が強く残っています。フランスもスピードやパワーがすごいです。世界の強豪国はスピードや1対1の球際の強さ、迫力が違いますね。

——その中でも通用すると思う自身のプレーとは？

宝田 自分に関してはほとんど劣っていると言っても過言ではないくらい、海外の選手は体も大きくて強くて速いです。ただ、ボールさばきで

相手のタイミングをずらす、意表を突くパスは通用すると感じているので、そこをもっと磨いていきたいですし、スピードやフィジカルももっと強化して世界との差を縮めていきたいと思っています。

——そのために今、意識して強化している部分はありますか。

宝田 「軸」を大切にしています。相手をぶつかられても耐えられる軸づくりを意識して、体幹トレーニングやチューブトレーニングに取り組んでいます。1対1のボールキープも体の強さだけでなく使い方も大事なので、そこを意識してやっていますね。当たり負けすることも減りましたし、球際でボールを奪いされる数も増えてきたので、成果が出ていると感じます。

——目標やお手本にしている選手はいるのですか。

宝田 岩渕（真奈）さんや菅澤（優衣香）さんはフィジカルが強く、ボールの扱い方もすごくうまいなと思っています。岩渕さんは身長は低いのですが当たり負けしないんです。1対1の部分もすごく上手で、どんな体の使い方をしているのかなとか、どうやってボールを扱っているのかなと、いつも観察しています。

——コンディション管理も体づくりには重要です。気をつけていることを教えてください。

宝田 一番は食事です。栄養をバラ

ンスよく取るということと、夜更かしせずにちゃんと睡眠を取っています。JFAアカデミーは寮生活だったので食事や生活面でも規則正しい生活を送っていましたし、それが今も習慣になっています。

——JFAアカデミーではスマホの使用時間なども指定されていますもんね。

宝田 22時以降は使用禁止で、22時半には消灯でした。今も22時くらいになると眠たくなります（笑）。

——体に染み込んでいるんですね。育成年代の選手や指導者にフィジカルトレーニングで伝えたいことやアドバイスはありますか。

宝田 フィジカルは意識次第でトレーニングの効果が違ってきます。「やらないといけない」ではなく「やろう」という前向きな気持ちが必要

れば続かないと思いますし、一つ一つのトレーニングにどのような効果があるかを理解して取り組むことが大切だなと。

実は私が「何のためにこの筋トレーニングをしているんだろう」と思いながらやっていた種目もあつたんです。筋肉に効いていることは分かるけどサッカーにどうつながっているんだろうと。最初はチームのみんながやっているから、与えられたメニューだからやっていたのですが、その目的や必要性を理解してから「やろう」という意識に変わりました。サッカーとフィジカルトレーニングがどう結びついているのか、理解しながらやるとプレーにも違いが表れてくると思います。

アメリカへの挑戦 全てにおいて成長したい

——宝田選手はJFAアカデミーにゴールキーパー（GK）とフイールドプレーヤー（FP）の両方で合格して入校し、どちらもプレーされていますか。

宝田 中3まではGKも少しやっていました。GKの練習も楽しくて好きだったので、自分はゴールを決める方が好きだと思い、高一からFPに絞りました。

——ポジションもGK、DF、MF、FWと全て経験されていますね。

宝田 複数のポジションでプレーす

るのは楽しいですね。中途半端かなと考えるとときもありますが、どのポジションでもプレーできることは自分の強みであり、チームにとっての強みでもあると思っています。

——少し話は変わって、小さい頃はサッカー以外のスポーツも経験されていたのですか。

宝田 サッカーと陸上をしていました。姉が陸上のクラブチームに入っていて、母も走ることが好きだったので、なぜか私も連れられて結構小さいときから長距離を走らされました。駅伝にも出ていました。

——それが今の強みにもなっているのでしょうか。

宝田 当時はただ走る、ということが苦手でしたが、陸上の経験がサッカー選手としての土台にもなっていると今思うので走っておいてよかったなと今は思っています。

——今年はアメリカのワシントン・スピリッツに移籍し、アメリカ女子プロサッカーリーグ（NWSL）に挑戦します。どう成長していきたいですか。

宝田 フィジカル、1対1の強さ、少ないチャンスの中でも得点する、という部分ですね。すべてにおいて成長したいです。フィジカルの強い選手、スピードのある選手とプレーできる環境に身を置くことでさらに成長できると思っています。世界に通用する選手になりたいです。



当初、セレッソ大阪堺レディースではGKとDFで登録。MF、FWと数々のポジションを経験し、どのポジションからでも得点に絡むなどプレーの幅を広げた



100th
Anniversary
since 1921

英国から伝えられたとされるサッカー。
多くの人々の熱意と努力によって支えられ、歴史をつないできました。

世界が遅か速くにあった時代、戦争によって孤立した時期、大規模な自然災害——。
過酷な試練に翻弄されながらも、先人たちは決して諦めることなく夢中でボールを蹴り、
失敗と挑戦を繰り返しながらその裾野を広げました。

長い年月を経て、日本サッカーは多くの人々に愛されるスポーツとなり、
世界の強豪と渡り合えるまでに成長しました。

日本サッカー協会は 2021年、創立100周年を迎えます。
わたしたちはこの節目を機に、過去に想いを馳せ、
サッカーがもたらす感動と興奮、そこから広がる友情の輪、
サッカーを通じて養うことができる倫理観や社会規範など
サッカーが持つさまざまな価値を見出したいと考えます。

そして、日本サッカーの存在意義を深く心に刻み、次なる飛躍に向けた「決意」とします。

過去への感謝、 未来への決意

JFA100周年



2日目(1月10日) 高い山の頂を目指して~ JFA 2005年宣言の実現に向けて

FIFAワールドカップ日本/韓国が開催された2002年以降のユース年代の育成やグラスルーツは大きな変化を遂げてきた。ここでは「JFA 2005年宣言」の実現に向けたロードマップ作成の経緯や、それぞれの年代での成果について語り合った内容を抜粋・要約してお送りする。

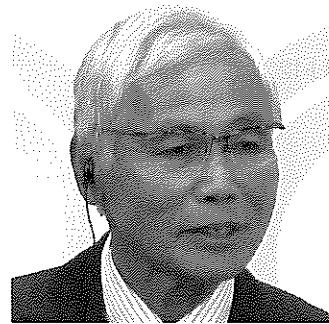
【登壇者】



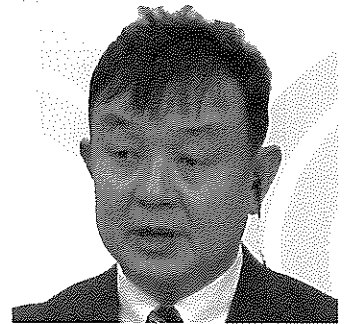
池内豊
JFAユース育成ダイレクター



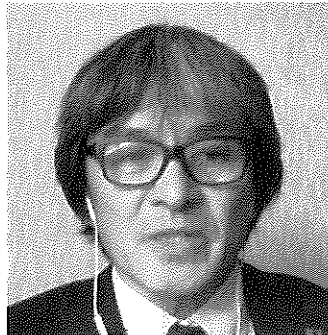
布啓一郎
元JFAユース育成ダイレクター



眞藤邦彦
JFAインストラクター



小野剛
JFA副技術委員長



鈴木淳
JFA指導者養成ダイレクター



中山雅雄
JFA技術委員会普及部会長



川俣則幸
JFA GKプロジェクトリーダー



星原隆昭
JFAナショナルトレセンコーチ関西チーフ

「JFA 2005年宣言」 実現のためのロードマップで 目指した姿

池内 まずは「JFA 2005年宣言」の実現に向けて「ロードマップ」を作成した経緯を振り返りましょう。

布 川淵三郎キャプテン(当時)が2005年宣言を出された後、「2005年のワールドカップで優勝する」という目標を達成するには多くの壁を乗り越えていかなければならないということで「ロードマップ」の作成に取り掛かりました。ただ、それ以前から小野さんいろいろな取り組みを進めていました。

小野 以前から高校サッカーの指導者の間では「リーグ戦をやらなければならぬ」という声が上がっており、U-20日本代表コーチとユースダイレクターを兼任していた時に「JFA Youth Development Plan」を作りました。当時は学校の部活動とクラブチームが交わる公式戦がなかったため、このプランの中でリーグ戦の実施や「代表強化、ユース育成、指導者養成」という三位一体の強化策と小学生年代の規則変更などを提言したのですが、当時はなかなか

かJFA内では重視されませんでした。そこで、10年後を目指した「ロードマップ」という形で一つずつ取り組んでいこうという流れにし、JFA内でコンセンサスを得ることができました。

布 目標を達成するには世界との差を縮めなければなりません。その差がどれくらいあつて、どのように詰めていかなければならないのかを全員で共有することが最初は難しかったですね。ただ、各都道府県の関係者の方々が徐々に賛同し、協力してくれたおかげで具現化させていくことができました。最初は猛反対にも遭いましたが、ご自身の意見をはっきり言ってくれる方ほど、いざ、実行するとなつたときには推進する力になってくださいました。

池内 「ロードマップ」の一環として03年にJFAエリートプログラムを立ち上げ、06年に団体の少年の部をU-16化しました。すると、07年からU-17日本代表がU-17ワールドカップに4大会連続で出場しました。17、19年にはU-17、U-20の両代表が2大会連続で年別のワールドカップに出場していずれもベスト16と、着実に成果が出ています。

小野 以前はなかなか世界大会に

8人制サッカーについて

菅原由勢 (AZアルクマール / オランダ)

「ピッチが狭くて人も少ないので、とにかくボールを持ったならシュートを意識していた。どこからでもシュートを狙えるようなピッチの大きさと人数の少なさだったので、シュートレンジやシュートの意識は8人制から学んだと思う」



する形を進めました。

池内 これらの活動の成果と課題についてはいかがでしょうか。

鈴木 トレセン、エリートプログラム、国体、代表という流れができたことは大きな成果だと思います。それとともに、トレーニン

しまうことが課題として挙げられると思います。

池内 その後、国体のU16化を進めました。これによって何がどう変わったのでしょうか。

小野 国体のU16化は、キャリアのブランクを解消するためにどうしてもやらなければならないことでした。中学3年生から高校1年生にかけてのキャリアがつかなくて両者(年代)が変わるようになりましたし、その副産物として、各年代の指導者が関わりを持ちながら自分たちの地域で選手を育てていくという気持ちが芽生えました。

布 国体U16化の問題点として、U17、U18の強化が滞ってしまっているのではないかと懸念もありましたが、U17年代での地域対抗戦をスタートさせ、国体後をフォロー

星原 トレセンの問題点として、特にU12年代の場合、親御さんが熱心になりすぎて、お子さんに過度な期待をかけ、毎日サッカー漬けになってしまう子が結構いました。そういった点については一緒に

トレセン・エリートプログラムは、技術の高い選手を発掘することに優れている？

エリートプログラム経験者

2018年代表メンバー

→山口敏、原口元気、宇佐美貴史、柴崎岳、中村航輔

2019年アジアカップメンバー

→富安健洋、原口元気、柴崎岳、中島翔哉、南野拓実、堂安律、北川航也

(1989年生まれの選手からエリートプログラムがスタート)



①エリートプログラムU-13⇒U-20日本代表 **51回**のキャンプ

富安選手 **31回**参加

堂安選手 **33回**参加

②U-18・U-19・U-20代表⇒**50試合**の国際試合 **75%**出場

解決策を考えていかなければならないですね。

設以降、JFAはさまざまな改革を実施してきました。

川俣 組織全体のオーガナイズ、指導内容も考え直す時期に来ていると思います。もう一点、選手の選考についても、どんな観点で選べばいいのかは各年代で変わってくると思います。今後、選手の数が増えていく中で、タレントを取りこぼさず、確実に見いだすこと、そこに適切な刺激を与えることも大切です。

眞藤 「ロードマップ」の5本目の柱として、日常で質の高い指導を受ける環境をどうつくっていくかというところで指導者養成の改善に取り組み、キッズリーダーやGKコーチの養成、A級コーチU-12、U-15を立ち上げました。また、ライセンス講習会では事前、事後課題や間の学習を導入し、受講のしやすさ、学びの深さを進めるためにリフレッシュ研修会やeラーニングのシステムを作りました。

指導者養成の変革

池内 04年のJFA公認指導者登録制度の創

小野 指導者養成は指導者が恩恵を受けるもの、という考えではなく、いい勉強をして、いい指導をして選手に還元してほしい、というスタンスに変えていったことが大きな変革でした。

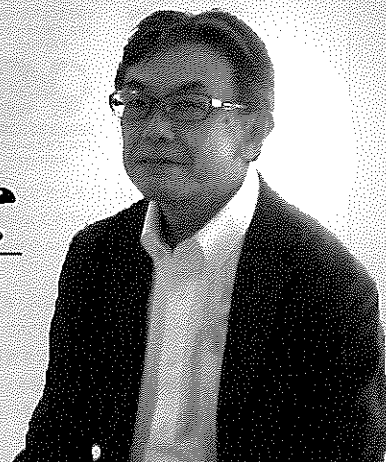
久保建英 (ハタフェ CF / スペイン)
「いろいろな選択肢や遊びに触れている中で一番自分に合っていると思ったのがサッカーだった。物心付く前からボールを蹴っていて、そこからずっとサッカーから離れることなく今に至る」

眞藤 A級コーチU-12については、U12年代に対してクオリティの高い指導をするにはどうするかを考え、B級を取得した後、A級U-12の講習を受ける形になりました。

小野 これはUEFA(欧州サッカー連盟)のカシファレンスでも非常に反響があり、多くの国から問い合わせをいただきました。指導

元日本代表、カレン・ロバートさんが

野球人気の地に サッカークラブを つくった理由



日本サッカー協会(JFA)指導普及部の松田薫ニグラスルーツ推進グループ長が、JFAグラスルーツ推進・賛同パートナーを訪問して話を聞く「グラスルーツ対談」。今回は、千葉県木更津市に拠点を置く「房総ローヴァース木更津FC」のカレン・ロバート代表との対談をお送りする。

○対談日：2020年11月4日

育成年代のクラブを 設立した理由

松田 房総ローヴァース木更津FCは、JFAのグラスルーツ推進賛同パートナー制度の中の「施設の確保」「引退なし」「女子サッカー」「障がい者サッカー」「社会課題への取り組み」の5つに賛同しています。

カレン はい。

松田 今回の対談では、なぜクラブをつくろうと思ったのか。そしてグラウンドや施設をどのようにして作ったのかなど、賛同パートナーの方々の参考になるような話を聞かせていただければと思います。

カレン はい。よろしくお願ひします。

松田 元Jリーグ選手が育成年代のクラブをつくり、グラウンドまで作ったというケースはあまり聞いたことがありません。カレンさんはオランダやイングランドなど、海外でのプレー経験も豊富なので、ヨーロッパの影響を受けたのかなと推察しますが、クラブ設立のきっかけはどのようなものだったのでしょうか。

カレン 僕は茨城県の土浦市で生まれて、小学3年生までつくば市でサッカーをしていました。その後、小学4年生から中学生(ジュニアユース)までは柏レイソル、高校では市立船橋でプレーさせてもらい、千葉県にお世話になりました。

松田 レイソルジュニアで全国優勝、レイソルのジュニアユースでは全国3位、市立船橋でも全国優勝をしていますね。

カレン すごく良い環境でサッカーをさせてもらっていたんだなと、プロになってあらためて感じました。ヨーロッパでプレーする中で将来のことを考えていたときに、漠然とですが「千葉県に恩返しをしたいな」と思い立ち、すべてはそこから始まりました。そのときは、縁もゆかりもない木更津にクラブをつくるとは思いませんでしたが(笑)。

野球人口の多い木更津に クラブを創設した経緯

松田 船橋や柏でクラブをつくるビジョンもあったと思いますが、なぜ木更津だったのでしょうか。

カレン 船橋市にJクラブがないこともあって、最初は船橋市で



イオンモール木更津に創設されたサッカーグラウンド
フットサルコート3面の広さがある

スクールを立ち上げて、少しずつ積み上げていこうと考えていました。それで2013年に千葉県の佐倉市や白井市で、市立船橋時代の仲間とスクールの始めて「5年以内には自前のグラウンドを持ちたいね」という話をしていました。

松田 サッカー関係者にとって、グラウンドの所有は誰もが描く夢ですよ。

カレン そうしたらあるとき、木更津に良い物件があることを知りました。それがイオンモール木更津です。将来的にはクラブチームをつくりたかったので、フットサ

日本サッカー協会（JFA）および各リーグ・連盟等のリリース情報、活動内容を報告します。

JFAリリースインフォメーション&活動報告 月刊レポート

日本サッカー協会

2021年国際審判員として32名を登録

JFAは2021年の国際審判員として下記32名を申請した結果、国際サッカー連盟（FIFA）から全員が承認された（1月8日発表）。

カテゴリ	名前	生年月日	登録年	所属
主審	佐藤隆治	サトウ リュウジ 1977年4月16日	2009	愛知
	飯田淳平	イイダ ジュンペイ 1981年8月14日	2011	東京
	山本雄大	ヤマモト ユウダイ 1983年3月4日	2011	京都
	木村博之	キムラ ヒロユキ 1982年1月30日	2014	北海道
	荒木友輔	アラキ ユウスケ 1986年5月2日	2017	東京
	笠原寛貴	カサハラ ヒロキ 1989年4月8日	2020	福岡
	唐紙学志	カラカミ サトシ 1978年8月28日	2013	静岡
	山内宏志	ヤマウチ ヒロシ 1979年1月20日	2014	東京
	三原純	ミハラ ジュン 1981年6月16日	2017	鳥取
	嵯城巧	タカギ タクミ 1982年1月9日	2017	神奈川
副審	平間亮	ヒラマ リョウ 1985年5月18日	2018	宮城
	西橋勲	ニシハシ イサオ 1986年8月27日	2018	大阪
	野村修	ノムラ オサム 1989年6月26日	2019	兵庫
	武部陽介	タケベ ヨウスケ 1986年3月16日	2020	大阪
	渡辺康太	ワタナベ コウタ 1990年9月21日	新	大阪

カテゴリ	名前	生年月日	登録年	所属
女子主審	山下良美	ヤマシタ ヨシミ 1986年2月20日	2015	東京
	小泉朝香	コイズミ アサカ 1988年8月26日	2017	熊本
	兼松春奈	カネマツ ハルナ 1990年4月25日	2019	大阪
女子副審	杉野香紗	スキノ アササ 1990年7月5日	新	宮城
	手代木直美	テシロギ ナオミ 1980年9月12日	2013	北海道
	萩尾麻衣子	ハギオ マイコ 1979年12月26日	2015	大阪
	坊間真琴	ボウゾノ マコト 1980年8月5日	2015	東京
	緒方実央	オガタ ミオ 1986年9月6日	2019	大分
フットサル	小崎知広	コザキ トモヒロ 1978年5月26日	2011	大阪
	小林裕之	コバヤシ ヒロユキ 1980年3月14日	2012	大阪
	藤田武志	フジタ タケシ 1982年11月29日	2015	大阪
	大矢賢	オオヤ タツバサ 1984年12月19日	2018	三重
女子フットサル	松尾久美子	マツオ クミコ 1980年2月7日	2015	徳島
	晝間久美	ヒルマクミ 1981年4月13日	2015	東京
ビーチ	宮崎真理	ミヤザキ マリ 1983年5月14日	2018	東京
	波多野祐一	ハタノ ユウイチ 1981年3月26日	2015	三重
	佐藤誠	サトウ マコト 1980年7月28日	2016	福岡

高円宮記念 JFA 夢フィールドのクラブハウスが千葉市都市文化賞2020を受賞

高円宮記念 JFA 夢フィールド（千葉県千葉市）のクラブハウスが、千葉市が主催する「千葉市都市文化賞2020建築文化部門 優秀賞」を受賞した。1月26日、千葉市役所で表彰式が行われ、JFAの田嶋幸三会長が出席した。

千葉市都市文化賞は2011年、都市文化の向上と魅力あるまちづくりを推進するために創設されたもので、良好な景観形成に寄与すると認められる建築物や活動などを対象に授与している。2020年度は33件の応募からJFA夢フィールドを含む7作品が表彰された。

JFA夢フィールドのクラブハウスは、幕張海滨公園とサッカー施設が一体となったデザインで、幕張地域を象徴する施設であるとして優秀賞に選出された。

■田嶋幸三JFA会長

JFA夢フィールドが千葉市都市文化賞を受賞したことを心からうれしく思います。夢フィールドは、千葉県、千葉市をはじめとする多くの皆さまのご理解、ご協力の下に開設したトレーニング施設です。開設にあたり、ご支援いただいた皆さまにあらためて感謝申し上げます。オリンピックイヤーの今年は、スポーツの価値を発信し、スポーツ文化を発展させる重要な年です。JFA夢フィールドが、代表強化、選手育成、指導者養成、普及の一大拠点としての機能をより高めていくとともに、地域のスポーツ文化を支える場所であり続けることを強く願っています。

JFAアカデミー

JFAアカデミー福島女子10期生の沼尾圭都選手がアルビレックス新潟レディースに加入

JFAアカデミー福島女子10期生の沼尾圭都選手が2021シーズンより、WEリーグのアルビレックス新潟レディースに加入することが内定した（1月21日発表）。

【プロフィール】

名前 : 沼尾圭都（ぬまお けいと / NUMAO Keito）

ポジション : MF

生年月日 : 2003年3月31日

身長/体重 : 163cm / 57kg

所属元 : JFAアカデミー福島

所属歴 : 今市FCプログレス

日本女子サッカーリーグ

2020プレナスなでしこリーグ/プレナスチャレンジリーグ表彰式を実施

日本女子サッカーリーグは1月17日、2020プレナスなでしこリーグ/プレナスチャレンジリーグ表彰式をオンライン形式で実施した。受賞者は下記の通り。

【受賞一覧】

<チーム表彰>

■なでしこリーグ1部

優勝 : 浦和レッズレディース [3回目]

第2位 : INAC神戸レオネッサ

第3位 : 日テレ・東京ヴェルディベレーザ

フェアプレー賞 : 浦和レッズレディース [7回目]

■なでしこリーグ2部

優勝 : スフィーダ世田谷FC [初]

第2位 : ちふれASエルフェン埼玉

第3位 : オルカ鴨川FC

フェアプレー賞 : スフィーダ世田谷FC [初]



日本サッカーの発展のため、
さらなる普及や次世代選手育成の促進を。

JFA Youth & Development Programme



OFFICIAL PARTNER



TECHNICAL PARTNER

GREENPROJECT PARTNER



JYD SUPPORTER



JYD



JFA100周年記念ロゴの利用

JFA100周年記念事業を全国のサッカーファミリーに広く認知してもらうことを目的に、特例措置として「JFAシンボル」を含む「JFA100周年記念ロゴ」に限り、加盟団体およびJFA100周年記念事業の協力団体等が利用できるものとした（ただし、「JFA100周年記念ロゴ」の一切の商業利用は不可）。
なお、使用申請にあたっての承認については、JFA理事会での決議に代わり、事務局（戦略企画部）が申請の受付と承認を行うものとする。

(1) 現行の「JFAシンボル」の外部団体の利用に関する運用規則
現行、JFAシンボル（下記参照）の利用は、「会旗及び標章規則」の定めで、JFA以外の団体が意匠として使用する場合は、JFAの理事会の承認が必要となっている。

(JFAシンボル)



【参考】「会旗及び標章規則」

第5条 本協会の会旗又は標章は、本協会の事前の承認を得ない限り、徽章その他の意匠として使用することはできない。

2 会旗又は標章を意匠として使用することを希望する者は、本協会に対し、その使用目的、図案、使用範囲及び制作個数等を明記した承認申請書を提出しなければならない。

3 前項の承認の可否は、理事会において決定する。

(2) 2021年特例措置

① JFA100周年に伴う特例対象
下記の「JFA100周年記念ロゴ」



② 利用期間

2021年1月21日～2021年12月31日

③ 利用対象団体

- ・ JFA加盟団体
- ・ JFA100周年記念事業の協力団体（JFA加盟チームおよびJFA100周年記念事業の協賛団体等）

④ 利用申請・承認方法

- ・ JFA事務局（戦略企画部）への事前申請
- ・ JFA事務局での承認

⑤ 備考

「JFA100周年記念ロゴ」の一切の商業的な利用は認めない

加盟団体規則の改正

2020年12月26日の臨時評議員会において一般社団法人日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）が加盟団体（各種の連盟）として認定されたことに伴い、

本協会の加盟団体を規定した加盟団体規則を改正する。詳細はJFA公式サイト参照。

指導者に関する規則改正

掲題の規則について改正する。主な改正点は下記の通り。
その他、詳細はJFA公式サイト参照。

(1) ゴールキーパー A級コーチライセンスの新設（2019年11月14日の理事会にて決議）に伴う改正

【改正する条文】第3条・第5条・第15条・第16条・第19条

・各条文において付加ライセンスとしてゴールキーパー A級コーチライセンスを追記

(2) ゴールキーパーコーチライセンスの名称変更（2020年2月13日の理事会にて決議）に伴う改正

【改正する条文】第3条・第4条・第15条・第16条・第19条

・各条文においてゴールキーパーコーチライセンスの名称を変更

<改正前> <改正後>

ゴールキーパー A級コーチライセンス → ゴールキーパーレベル3コーチライセンス

ゴールキーパー B級コーチライセンス → ゴールキーパーレベル2コーチライセンス

ゴールキーパー C級コーチライセンス → ゴールキーパーレベル1コーチライセンス

(3) フィジカルフィットネスコーチライセンスの新設（2020年11月19日の理事会にて決議）に伴う改正

【改正する条文】第3条・第4条・第15条・第16条・第19条

・各条文において付加ライセンスとしてフィジカルフィットネスC級コーチライセンスを追記

(4) 指導者の遵守義務の対象拡大に伴う改正

【改正する条文】第20条

・保護すべき対象として選手だけでなく「その他のチーム関係者」を追記

・許容しない行為として暴力・暴言だけでなく「ハラスメント行為」を追記

(5) ライセンスを保有しない指導者への指導項目の追加に伴う改正

【改正する条文】第22条

・ライセンスを保有しない指導者が遵守義務を違反した場合などにおける指導内容に「一定期間の競技会への登録禁止」を追記

技術委員会 委員選任

技術委員会の体制強化のため、下記の者を副委員長として追加する。

名前：大橋 浩司（おおはし ひろし）

<プロフィール>

大橋浩司

生年月日：1959年10月27日

資格：S級コーチライセンス

最終学歴：大阪体育大学

所属先：JFA

サッカー歴：1975～1977年 三重県立名張桔梗丘高校

1978～1981年 大阪体育大学

指導歴：1982年 上野市立大成中学校サッカー部 監督

1985年 四日市市立南中学校サッカー部 監督

1992年 四日市市立羽津中学校サッカー部 監督

2000年 川越町立川越中学校サッカー部 監督

次ページ左上へ続く

第14回FIFAカOUNシル (2020年12月4日開催)

第14回FIFA (国際サッカー連盟)カOUNシル会議が2020年12月4日にオンライン上で行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- 1.女子選手保護の観点から出産休暇規定や産休中の給与保証など労働条件の最低基準を定める規則導入を承認した。
- 2.指導者の契約に関する雇用条件の最低基準等を定める規則導入を承認した。
- 3.FIFAと各大陸連盟のCovid-19合同ワーキンググループによる協議の結果、インターナショナルマッチカレンダーに関する下記の変更を承認した。
 - (1)男子
 - ①CONCACAF: 2021年9月、10月、2022年1月、3月の各ウィンドーに1日追加し、マッチ数をそれぞれ2試合から3試合に変更する。
 - ②UEFA: 2021年3月、9月の各ウィンドーに1日追加し、マッチ数をそれぞれ2試合から3試合に変更する。
 - (2)女子
 - ①UEFA以外の全大陸連盟: 各大陸連盟のチャンピオンシップの決勝大会のために確保していた2022年10月31日～11月20日のウィンドーを2022年1月17日～2月20日に変更する。
 - ②全大陸連盟: インターナショナルマッチウィンドーとして確保していた2022年7月4日～8月7日の期間を2022年6月27日～7月31日に変更する。
 - ③全大陸連盟: 2022年6月13日～6月21日に予定されていたType 1ウィン

ドーを同6月20日～6月28日に変更する(同6月27日～7月31日の期間で控えている各大陸連盟の決勝大会に向けた最早の選手リリース開始期間と一致させるため)。

- ④UEFA: UEFA女子EURO2022を2022年7月6日～7月31日に開催する。
[注]
女子については、所属クラブが協会に選手をリリースする期間について、以下の3通りが定められている。
Type1ウィンドー: 月曜日から翌週の火曜日の夜まで(計9日間)
Type2ウィンドー: 月曜日から翌週の水曜日の夜まで(計10日間)
Type3ウィンドー: 月曜日から翌週の土曜日の夜まで(計13日間)
- 4.第71回FIFA総会を東京開催から2021年5月21日にオンライン形式での開催に変更することを決定。
- 5.FIFAクラブワールドカップ2021を従来の7チーム参加の形式で2021年後半に日本で開催することを決定。
- 6.英国のEU離脱に伴い、同一国内(英国国内の協会間)であればEU圏内と同様に16歳～18歳の未成年移籍が可能となるよう、規則改正を承認した。
- 7.FIFA医学委員会より、脳振盪(のうしんとう)対策のワーキンググループを立ち上げ、脳振盪対策の戦略策定、教育、意識向上ほか研究を強化していく旨の報告があった。
- 8.次回FIFAカOUNシル会議を2021年3月19日に開催することを決定。

第30回AFC総会 (2020年12月9日開催)

第30回AFC (アジアサッカー連盟)総会が2020年12月9日にオンライン上で行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- 1.北マリアナ諸島サッカー協会(NMIFA)について、AFC準加盟から正規加盟への変更が承認された。

- 2.2019年監査済み財務諸表および監査報告書が承認された。
- 3.2020年修正予算が承認された。
- 4.AFC規約の規則改定が承認された。

第63回EAFF理事会 (2020年12月15日開催)

第63回EAFF (東アジアサッカー連盟)理事会が2020年12月15日にオンライン上で行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- 1.2019年12月15日に韓国・釜山で行われた第62回EAFF理事会議事録を承認した。
- 2.EAFFレフェリープログラム2020について報告された。

- 3.EAFFタスクフォースよりEAFF競技会に関する財政状況ならびに戦略について報告された。
- 4.EAFF法務委員会よりEAFF規約改正ならびに各種EAFF規則制定(EAFF選挙管理規程、EAFF規律および倫理規程、EAFF組織規則)に関する報告が行われ、本件について協議した。

第4回EAFF臨時総会 (2020年12月15日開催)

第4回EAFF臨時総会が2020年12月15日にオンライン上で行われた。決定事項は右記の通り。

- ・EAFF規約改正ならびにEAFF選挙管理規程、EAFF規律および倫理規程、EAFF組織規則の制定が承認された。

JFAアジア貢献事業 指導者海外派遣

JFAアジア貢献事業の一環として海外に派遣している指導者8名を引き続き選任する。

- (1)モンゴル/U-20、U-17女子代表 監督
名前: 河本菜穂子
保有資格: AFC A級
- (2)北マリアナ諸島/代表監督 兼 技術委員長
名前: 三田智輝
保有資格: AFCプロディプロマ
- (3)ブルネイ・ダルサラーム/代表アシスタントコーチ・GKコーチ 兼 代表チーム統括
名前: 埴田淳
保有資格: A級、GK-A級
- (4)カンボジア/U-18アカデミー 兼 U-20、U-18代表監督
名前: 行徳浩二
保有資格: S級

- (5)カンボジア/U-15アカデミー 兼 U-16代表監督
名前: 井上和徳
保有資格: A級
 - (6)カンボジア/技術委員長
名前: 小原一典
保有資格: スペインサッカー連盟公認プロライセンス
 - (7)フィリピン/ユース育成ダイレクター
名前: 平田礼次
保有資格: A級
 - (8)ネパール/地域テクニカルセンターダイレクター
名前: 築館範男
保有資格: S級
- 契約期間: 2021年2月1日～2022年1月31日

2021年度S級コーチ養成講習会受講者

2021年度S級コーチ養成講習会受講者について、2020年12月にトライアルを実施し、指導実践・面談（分析試験含む）を行った結果、下記の16名を決定した。
参考：トライアル申込者数 42名（辞退者1名除く）

<2021年度 S級コーチ養成講習会 受講者[16名]>（50音順）

順位	名前	ふりがな	性別	年齢	指導チーム	役職
1	天野 賢一	あまの けんいち	男性	45	ギラヴァンツ北九州	トップチーム ヘッドコーチ
2	今矢 直城	いまや なおき	男性	40	清水エスバルス(2020年1月～11月1日) 現在無所属	トップチームコーチ (2020年1月から11月1日)
3	大畑 開	おおはた かい	男性	39	JFAナショナルトレセンコーチ	
4	樹森 大介	きもり だいすけ	男性	43	水戸ホーリーホックユース	アカデミーダイレクター兼ユース監督
5	金正訓	きん ちよんぶん	男性	34	カマタマレ讃岐	トップチームコーチ
6	工藤 直人	くどう なおと	男性	38	FC今治	ヘッドコーチ
7	城 和憲	じょう かずのり	男性	37	JFAナショナルトレセンコーチ	
8	白井 裕之	しらい ひろゆき	男性	43	サガン鳥栖 アカデミー	ヘッドオブコーチング
9	高橋 勇菊	たかはし ゆうき	男性	42	一般社団法人 富山新庄スポーツクラブ	監督
10	辻田 真輝	つじた まさてる	男性	36	ツエーゲン金沢U-18	監督
11	中村 元彦	なかむら もとひこ	男性	49	神奈川県内各トレセン 神奈川県サッカー協会 技術担当専任	
12	羽地 登志晃	はじ としあき	男性	42	社会人県1部リーグイエローモンキーズ 徳島県少年国体	コーチ 監督
13	藤本 主税	ふじもと ちから	男性	43	ロアッソ熊本	トップチームコーチ
14	古川 毅	ふるかわ つよし	男性	48	横浜FC トップチーム	トップチームコーチ
15	宮本 ともみ	みやもと ともみ	女性	41	U-19日本女子代表 みえ高田FC、高田高校女子サッカー部	コーチ 監督、コーチ
16	吉本 岳史	よしもと たかふみ	男性	42	高知ユナイテッドSC	トップチームコーチ

指導者資格審査：2019年度S級ライセンス認定

指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、2019年度S級コーチ養成講習会を修了し、本協会技術委員会が適格と認めたと下記4名に対してライセンスを認定した。

なお、時崎氏については昨今のコロナ禍の状況に鑑み、技術委員会にて定めた「S級ライセンス認定に関する特別措置」※1に基づき、暫定的にライセンスを認定した。

名前：葛野昌宏（くずの まさひろ）

指導チーム：ヴァンラーレ八戸

生年月日：1975年7月2日

資格：2017年 A級コーチジェネラルライセンス取得

指導歴：2007～2013年 佐川印刷SC コーチ
2014～2017年 ラインメール青森 監督
2017年 愛媛国体青森県成年男子 監督
2018年 ヴァンラーレ八戸 監督
2020年 ヴァンラーレ八戸 ヘッドコーチ

名前：酒井直樹（さかい なおき）

指導チーム：日本体育大学柏高校サッカー部／柏レイソルアカデミー

生年月日：1975年8月2日

資格：2009年 A級コーチジェネラルライセンス取得

指導歴：2004～2005年 柏レイソルU-15コーチ
2006年 柏レイソルU-12監督
2007～2011年 柏レイソルU-15コーチ
2012～2014年 柏レイソルU-15監督
2015年 柏レイソルU-15コーチ
2016年 日本体育大学柏高校サッカー部 ヘッドコーチ（出向）
2016～2020年 日本体育大学柏高校サッカー部 監督（出向）

名前：高崎康嗣（たかさき やすし）

指導チーム：専修大学 サッカー部

生年月日：1970年4月10日

資格：2014年 A級コーチジェネラルライセンス取得

指導歴：1997～1998年 茨城県立土浦第一高校 コーチ
1998年 筑波大学蹴球部 コーチ
1999～2001年 東京大学ア式蹴球部 ヘッドコーチ

2002～2003年 川崎フロンターレ スクールコーチ
2004～2005年 川崎フロンターレ U-15コーチ兼スクールコーチ
2006～2011年 川崎フロンターレ U-12 監督
2012年 川崎フロンターレ U-18 ヘッドコーチ
2013年 川崎フロンターレ 地域コーディネーター
2014～2015年 川崎フロンターレ スクールコーチ
2016～2018年 グルージャ盛岡 ヘッドコーチ
2019年～現在 専修大学 サッカー部 監督
2003～2015年 神奈川U12トレセンコーチ
2013～2014年 神奈川U16 国体チーム ヘッドコーチ
2004～2005年 関東U12 NTC トレセンコーチ
2009～2010年 同上
2004～2015年 47FAインストラクター（神奈川県）
2020年～現在 同上

名前：時崎悠（ときさき ゆう）

指導チーム：福島ユナイテッドFC

生年月日：1979年6月15日

資格：2014年 A級コーチジェネラルライセンス取得

指導歴：2007年～ FCペラーダ福島 監督
2010～2011年 福島ユナイテッドFCトップチームコーチ
2012～2013年 福島ユナイテッドFC 監督
2014年～ 湘南ベルマーレユース（U-18）コーチ
2015～2016年3月 湘南ベルマーレユース 監督
2016年4月 湘南ベルマーレトップチーム コーチ
2017～2018年 湘南ベルマーレユース（U-18）監督
2019年～ 湘南ベルマーレU15EASTコーチ
2020年～ 福島ユナイテッドFCトップチームヘッドコーチ
2021年～ 福島ユナイテッドFCトップチーム 監督

※2019年度S級コーチ認定者数：10名/15名中（上記4名含む）

※現S級コーチライセンス保持者数：509名（上記4名含む）2021年1月6日現在

※1「S級ライセンス認定に関する特別措置」

国内外でのインターンシップに参加できない状況を踏まえ、条件を満たした場合に限り、暫定的にS級ライセンスを認定し、S級ライセンス保有者として活動できることとした。

以上の結果、現在の状況は次の通り。

2020年度認定団体数 : 165団体
・2020年度の新規認定団体数 : 30団体
・2019年度からの更新認定団体数 : 135団体 (152団体中) ※更新は7月15日で完了

テーマ別
・引退なし : 101団体
・補欠ゼロ : 125団体
・障がい者サッカー : 86団体
・女子サッカー : 74団体
・施設の確保 : 41団体
・社会課題への取り組み : 73団体

小学校体育サポート研修会

【目的】

小学校の体育の授業で以前はサッカーが必修だったが、現在は「ゴール型」競技のサッカー、バスケットボール、ハンドボール、ラグビーのいずれかの種目を選んで行えばよいこととなった。

より多くの学校やクラスでサッカーを選んで授業を行ってもらえるよう、JFAは、新学習指導要領に沿った、JFAが推奨する内容(※)を伝える場として、小学校の教員を対象に「体育授業サポート研修会」を開催している。教員自身がサッカーや児童とのふれあいを楽しめる授業ができる内容となっており、特に体育や運動を専門としない教員やサッカー未経験であり関心のない教員に受けてもらいたい研修会となっている。

※「新・サッカー指導の教科書」<http://www.toyokan.co.jp/book/27/b454047.html>

【開催概要】

- 1) 日程 : 2020年10月10日(土)
会場 : 四国大学(徳島県徳島市)
インストラクター : 尾形行亮氏
受講者数 : 20名
開催レポート : <https://www.jfa.jp/coach/news/00025502/>
- 2) 日程 : 2020年11月21日(土)
会場 : 豊見城市民体育館(沖縄県豊見城市)
インストラクター : 北野孝一氏
受講者数 : 4名
開催レポート : <https://www.jfa.jp/coach/news/00025824/>

※新型コロナウイルス感染の影響により、2020年の開催は2件のみとなった。

公認指導者研修会 [障がい者サッカーコース]

【目的】

「障がい者サッカー」の指導の基本を理解する。

＝サッカー指導の知識と経験をどのように障がいのある選手に適用できるかを知る。

＝今後の活動において「障がい者サッカー」に関わりを持つ機会とする。

＝サッカー指導の知識と経験、熱意にプラスして、どうしたら「障がい者サッカー」に役立つかを考える。

【開催概要】

- 1) 日程 : 2020年11月14日(土)・15日(日)
会場 : J-STEP(静岡県静岡市清水区)
インストラクター : 上野二郎氏、北野孝一氏
受講者数 : 10名

開催レポート : <http://www.jfa.jp/news/00025732/>

- 2) 日程 : 2020年11月28日(土)・29日(日)
会場 : JFA夢フィールド(千葉県千葉市美浜区)
インストラクター : 北野孝一氏、上野二郎氏、皆川新一氏、今泉幸広氏
受講者数 : 19名
開催レポート : <https://www.jfa.jp/news/00025880/>
- 3) 日程 : 2020年12月5日(土)・6日(日) ※広島県FA主催
会場 : 広島県スポーツ会館(広島県広島市西区)
インストラクター : 今堀佳明氏、北野孝一氏
受講者数 : 21名
開催レポート : <https://www.jfa.jp/news/00025944/>

※新型コロナウイルス感染の影響により、2020年の開催は3件のみとなった。

障がい者についてのハンドブック発行

【目的】

- ・「Football for All」JFAグラスルーツ宣言の実現
- ・障がい児や障がい者が誰とでも当たり前に出会えるサッカー界の実現
- ・サッカーファミリーに障がい理解を深め、障がい児・者がサッカーを楽しむ場を増やす

【概要】

A5判40ページ/80,000部

【配布先】

JFA登録チーム(JFAnews1月号同梱) 32,000部
地域FA・都道府県FA(100部×55) 5,500部
JFA・関連団体職員等 600部
日本障がい者サッカー連盟 300部
障がい者サッカー7団体(100×7団体) 700部
SDGs関連活動 10,000部
その他(希望発送対応等) 30,900部

※指導者・審判関連、特別支援学校等への配布については別途調整

【タイトル】

ひろげよう! サッカーファミリー 次の100年へ
誰一人取り残さない世界を 障がいのある仲間とともに

【趣旨(ハンドブック「はじめに」より)】

サッカーを愛する私達にとって、サッカー、スポーツを共に楽しむ仲間が増えることは喜びです。

誰もがすぐに一緒に楽しめるのがサッカーの良いところ。みんな楽しむという「当たり前」をもっと広げ、伝えていきたい。関わり、出会いを増やしたい、広げたい。それは、障がいがある人も同様です。様々な種類の障がいがあっても、サッカーはちゃんとある。サッカー、スポーツをあきらめる必要などありません。

そのためには、それを当たり前にしてくれる仲間がもっともっと必要です。既にそれを当たり前にしていただいている皆さんもいらっしゃいます。でもその一方で、そう思うけれど、気になっているけれど、踏み出せない、どうしたら良いかわからない、知らなくてわからないから不安、という人もたくさんいらっしゃるかもしれません。そんなことを考えてみたことがなかった、という人もいらっしゃると思います。そのような皆さんが、一歩踏み出せるように、考え方や事例を示し、具体的に行動してみるためのきっかけをつくりたい、というのがこのハンドブックを作成しようとする動機です。

日本サッカー協会は、2021年に100周年を迎えます。サッカーファミリー、次の100年に向けて、サッカーをもっと広く深く豊かに、誰にとってももっとも身近に。サッカーを通して共生社会の実現を目指しましょう。その力がサッカーにはあります。

1996年4月 2級審判員取得
2002年11月 1級審判員取得
2007年1月 国際主審登録

主な審判歴：〈国内〉

2011年 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ 決勝（主審）
2013年 FUJI XEROX SUPER CUP（主審）
2018年 第97回 天皇杯決勝（主審）

J1リーグ主審／副審：245試合／1試合
J2リーグ主審／副審：130試合／7試合
Jカップ戦主審／副審：49試合／0試合（2021年1月7日現在）
〈国際試合〉
AFC CHAMPIONS LEAGUE主審：33試合
2015年 AFC CUP決勝（主審）他

JFAグラスルーツ推進・賛同パートナーカンファレンス2020開催

下記の通り、JFAグラスルーツ推進・賛同パートナーカンファレンス2020を開催した。

(1)目的：

JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー制度は「引退なし」「補欠ゼロ」「障がい者サッカー」「女子サッカー」「施設の確保」「社会課題への取り組み」をグラスルーツ推進のキーとなるテーマと捉え、各テーマに沿った活動に取り組む団体を賛同パートナーとして認定し、活動を広く紹介するものである。同カンファレンスでは、賛同パートナーの活動の好事例を全国の指導者らと共有し、各々のグラスルーツでの活動の一助となることを目的としている。

(2)主催：公益財団法人日本サッカー協会

(3)開催方式：ZOOMウェビナーによる

(4)開催日：2020年11月24日・27日、12月4日・8日・11日・18日の6回に分けて開催

(5)開催時間：各回 午前7:30～8:30（1時間）

(6)参加料：無料

(7)参加者：438人（延べ人数）、153人（実人数）

(8)プログラム：7:30-7:40 オープニング、趣旨・テーマ説明、ゲストスピーカー紹介
7:40-8:10 ゲストスピーカー講演（30分）
8:10-8:30 質疑応答、クロージング

(9)スケジュール：

●第1回 11月24日（火）

【テーマ】引退なし

【ゲストスピーカー】春日イーグルス（福岡県春日市）会長 渡邊 透氏

春日イーグルスは40年前に設立された。ヨーロッパ型の総合型クラブを目指し、地域の人達が継続してサッカーやスポーツが楽しめるように、自治体の協力を得ながらクラブを運営している。子どもからシニアまで継続でき、クラブから離れても戻って来られる、みんなの居場所を実現している。

●第2回 11月27日（金）

【テーマ】補欠ゼロ

【ゲストスピーカー】見附小学校サッカークラブ（新潟県見附市）監督 大塚純一氏

新潟県の見附小学校サッカークラブは、何らかの理由で試合に出られない、あるいはサッカーを続けられなくなった子どもたちのために20年前に設立された。グラスルーツ推進・賛同パートナーになったことを機に、地元で「補欠ゼロ」の大会を開催し、「補欠ゼロ」をベースとした理念を地域に広げている。

●第3回 12月4日（金）

【テーマ】障がい者サッカー

【ゲストスピーカー】A-pfeile（アフィーレ）広島（広島県広島市）代表 坂光徹彦氏

アフィーレ広島は2013年にアンパティサッカー（切断障がい者がプレー）のチームを設立し、2015年にブラインドサッカー、2017年に電動車椅子サッカーのチームを次々に立ち上げた。現在も他のカテゴリーのチーム設立を進めている世界でも稀な障がい者サッカーの総合型クラブである。

●第4回 12月8日（火）

【テーマ】女子サッカー

【ゲストスピーカー】スフィダ世田谷FC（東京都世田谷区）代表 福田能彦氏

スフィダ世田谷FCは、なでしこリーグ2部優勝のトップチームを運営する女子サッカークラブだが、強化・育成だけでなく、ママさんチームを創設したり、小学生年代の女子サッカーの大会を開催するほか、ウォーキングサッカーなど障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しめる場をつくるなど地域に根ざした活動を行っている。

●第5回 12月11日（金）

【テーマ】施設の確保

【ゲストスピーカー】リコブエンテスクール・アカデミー（愛知県豊橋市）代表理事 江口力也氏
江口氏は、地域の人々の偏見や差別によって知的障がい児を公園で遊ばせることができなかった経験から、自己資産と融資を元手に施設を建設し、障がい者福祉事業、サッカースクール事業、施設管理事業をそれぞれ別法人で設立し、その三つの法人を連携させることによって施設の維持・管理やコーチ・スタッフの雇用を安定的に継続できる仕組みを構築している。

●第6回 12月18日（金）

【テーマ】社会課題への取り組み

【ゲストスピーカー】ブチユナイテッドアスリートクラブ（山形県山形市）監督 荒木秀和氏
荒木氏は、フットサルを通じて不登校やひきこもりの子供、障がい児などの居場所をつくり、社会から離れていった子供たちを再び社会につなぐ活動を行っている。長い間、自宅を使って自費で子どもたちの世話をしていたが、その活動が理解され、現在ではクラブハウスを保有するまでになった。

裁定委員会に関する懲罰

裁定委員会（委員長：本林徹）より報告された懲罰案件について報告する。

【事案1】

- 1.当事者：女子チームのコーチ（D級）
- 2.懲罰の種類：除名
- 3.懲罰の決定日：2020年11月20日
- 4.懲罰の理由：懲罰規程第34条第1項（5）「刑罰法規に抵触する行為を行ったとき」に該当
- 5.事案の概要：自チーム所属の未成年選手に対する繰り返しのわいせつ行為

【事案2】

- 1.当事者：第3種チームの監督
- 2.懲罰の種類：4年間のサッカー関連活動停止

3.懲罰の起算日：2020年8月1日

- 4.懲罰の理由：懲罰規程第34条第1項（5）「刑罰法規に抵触する行為を行ったとき」に該当
- 5.事案の概要：未成年児童に対するわいせつ行為

【事案3】

- 1.当事者：第4種チームの監督
- 2.懲罰の種類：6カ月間のサッカー関連活動停止
- 3.懲罰の起算日：2020年12月1日
- 4.懲罰の理由：本協会指懲罰規程第34条1項（1）「本協会の各種規程・規則に違反したとき」及び同条2項に該当
- 5.事案の概要：自チーム所属の未成年選手に対する侮辱的発言等

規律委員会に関する懲罰

規律委員会（委員長：中島肇）より報告された懲罰案件について報告する。

【事案1】

- 1.当事者：1種チームの選手
- 2.懲罰の種類：6カ月間のサッカー関連活動停止

3.懲罰の起算日：2020年11月9日

- 4.懲罰の理由：本協会懲罰規程2-6「主審又は副審に対する暴行・脅迫」および「3-7（チーム又は選手等によるその他の違反行為）」に該当
- 5.事案の概要：審判に対し繰り返しの脅迫的な暴言を吐いた。

- ① #atarimaeni CUP サッカーができる当たり前に、ありがとう!
- ② 第53回全国高等専門学校サッカー選手権大会
- ③ 令和2年度 第99回全国高等学校サッカー選手権大会
- ④ 第29回全日本大学女子サッカー選手権大会
- ⑤ 第29回全日本高等学校女子サッカー選手権大会
- ⑥ JFA 第24回全日本U-18女子サッカー選手権大会
JOCジュニアオリンピックカップ

- ⑦ XF CUP 2020 第2回 日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)
- ⑧ JFA 第26回全日本U-15フットサル選手権大会
- ⑨ JFA 第11回全日本U-15女子フットサル選手権大会

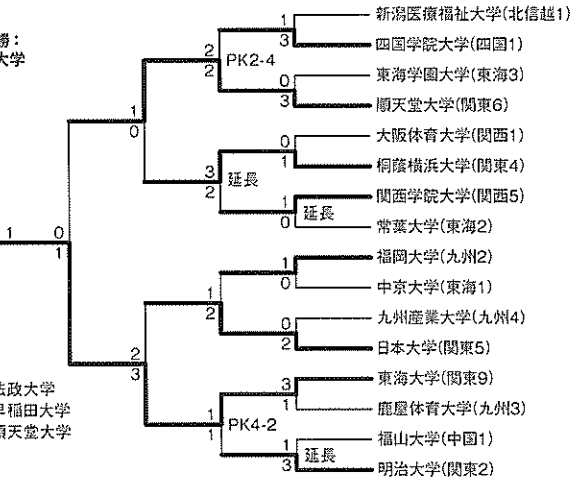
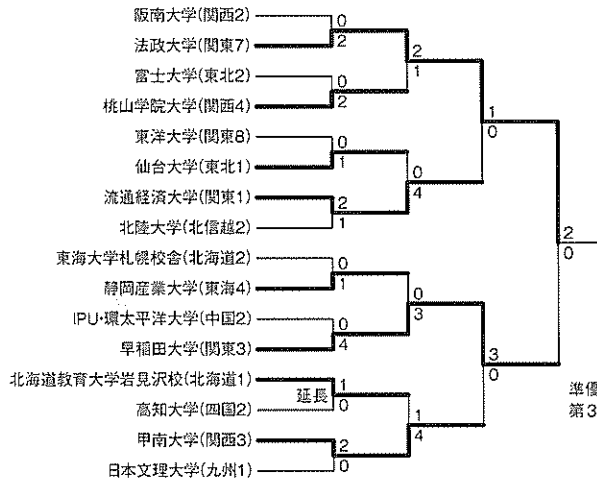
*NCS: ナショナルコーチングスタッフ、NTC: ナショナルトレセンコーチ、VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

#atarimaeni CUP

サッカーができる当たり前に、ありがとう!

一般財団法人全日本大学サッカー連盟とJFAが主催する本大会は、9地域の32チームが参加して1月6日から23日、味の素フィールド西が丘等で開催された。

※76ページに関連記事あり



準決勝

法政大学 2 (前半0-0 後半2-0) 0 早稲田大学

●2021年1月21日 11:00 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]先立圭吾 [副審]橋本真光・手塚優 [第4の審判員]岩田鉄平 ●マッチコミッショナー:松永明志 ●観衆:0人

法政(監督:長山一也):[GK](1)中野小次郎 [DF](2)森岡陸(3)高木友也(13)城和隼颯(23)関口正大 [MF](6)松井蓮之(9)平山駿<-81'(17)田中和樹>(10)長谷川元希<-90+1'(8)今泉富>(11)服部剛大<-67'(7)竹本大輝>(14)田部井涼<-87'(5)宮部大己> [FW](20)佐藤大樹<-72'(15)飯島陸>

控え:(12)大塚紀人(4)鳥居俊(16)陶山勇磨(28)佐野陸人

早稲田(監督:外池大亮):[GK](1)山田晃士 [DF](2)阿部隼人(3)柴田徹<-81'(23)中谷颯<-6>(6)大西翔也<-76'(8)田中雄大>(17)工藤泰平(22)監物拓歩 [MF](7)山下雄大(12)倉持快<-67'(27)田部井悠>(14)植村洋斗<-67'(13)杉田将宏> [FW](9)梁賢柱<-88'(31)平松祐佑>(19)奥田陽琉

控え:(16)上川琢(26)鈴木俊也(32)松高遼(33)清水駿

得点: [法政]51'・79'関口正大(1-0)(2-0)

【参加選手】

<北海道教育大学岩見沢校> 監督:安部久貴

武村勇希・伊藤蒼輝・鴨川寛也・阿部拓朗・中津和紀・渡邊秀朗・泉山凌馬・石谷海斗・松村健太・山崎健斗・工藤留依・植田敦哉・小原冠嗣・伊波寛大・菅原彬人・神野大翔・鈴木理久・遠藤颯士・梨木幸太郎・加藤由馬・藤田寛也・渡謙司・河合悠人・縄田備平・山城想真・君ヶ袋海成・原巧佑・下田友也・岡本大河・中田凌雅・小山田凌・田中光太・藤原進士郎

<東海大学札幌校舎> 監督:菅野学

坂井甫・長田龍之介・広部開斗・斎藤空良・大畑大己・小柳力暉・浄土駿介・小田一哲・早川峻央・宮谷太一・荒博人・阿部朝日・仁科宥哉・仁科星哉・樋口翔太・前田尚之・金城光希・吉行豊輝・谷口洗貴・渡辺樹・川司司恩・川崎凌・西沢勇輝・高橋温希・桑原理綺クウエ・江川将也・青木結貴・宮古弓響・水野幹太・鈴木登志峰・遠藤浩太・鈴木尚弥・木村太志

<仙台大学> 監督:吉井秀邦

井岡海都・廣木零・田桑龍輝・向山裕麻・白木玲二・伊藤啓太郎・工藤聖人・志村弘樹・相馬丞・吉村寿輝・和田昂士・宮嶋俊弥・寺田一貴・藤田一途・細山海斗・藤嶋理久・薄葉迅人・田澤蓮・鯉田太陽・堀利佑斗・齋藤耀之介・富久田和真・與那覇航和・玉城大志・得能草生・樋口颯太・人見大地・武部洗佑・佐々木翔・大澤翔・高橋優仁・波田祥太・西村碧海

準決勝

東海大学 1 (前半0-0 後半1-0) 0 順天堂大学

●2021年1月21日 13:30 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]柿沼亨 [副審]長谷川雅・斎藤雅也 [第4の審判員]野崎聡悟 ●マッチコミッショナー:松永明志 ●観衆:0人

東海(監督:今川正浩):[GK](1)宮崎浩太郎 [DF](2)面矢行斗(3)佐藤颯人(4)米澤哲哉(5)水越陽也 [MF](6)丸山智弘(11)杉山祐輝<-90'(18)藤井一志>(15)堤太閤(29)高田悠 [FW](8)砂金大輝<-77'(24)山田泰雅>(10)武井成豪

控え:(22)佐藤史騎(13)坂本翔(14)内田航太郎(16)大屋祥吾(19)湯江俊太(21)鈴木颯太(23)鈴木朝日

順天堂(監督:堀池巧):[GK](1)佐藤久弥 [DF](2)山崎大地(19)小川真輝<-69'(25)後藤裕二>(24)小林夏生(31)海老澤諒 [MF](4)寺山翼(7)杉山直宏<-90+2'(13)尾崎駿大>(15)長倉幹樹<-66'(11)塩浜遼>(16)小林里駆(26)新関成弥<-64'(23)白井海斗> [FW](18)大森真吾<-90+2'(20)梶原豊>

控え:(30)廣演顕哉(6)安島樹(14)津島幸至(32)赤澤蓮

得点: [東海]60'砂金大輝(1-0)

警告: [東海]45+1'砂金大輝

決勝

法政大学 0 (前半0-0 後半0-1) 1 東海大学

●2021年1月23日 13:02 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]川俣秀 [副審]塚田健太・金次雄之介 [第4の審判員]長峯晃希 ●マッチコミッショナー:松永明志 ●観衆:0人

法政(監督:長山一也):[GK](1)中野小次郎 [DF](2)森岡陸(3)高木友也(13)城和隼颯(23)関口正大 [MF](6)松井蓮之(7)竹本大輝<-72'(11)服部剛大>(9)平山駿<-80'(15)飯島陸>(10)長谷川元希(14)田部井涼<-88'(28)佐野陸人> [FW](17)田中和樹<-62'(20)佐藤大樹>

控え:(12)大塚紀人(4)鳥居俊(5)宮部大己(8)今泉富(16)陶山勇磨

東海(監督:今川正浩):[GK](1)宮崎浩太郎 [DF](2)面矢行斗(3)佐藤颯人(4)米澤哲哉(5)水越陽也 [MF](6)丸山智弘(11)杉山祐輝<-80'(18)藤井一志>(15)堤太閤(29)高田悠 [FW](10)武井成豪(23)鈴木朝日<-63'(24)山田泰雅>

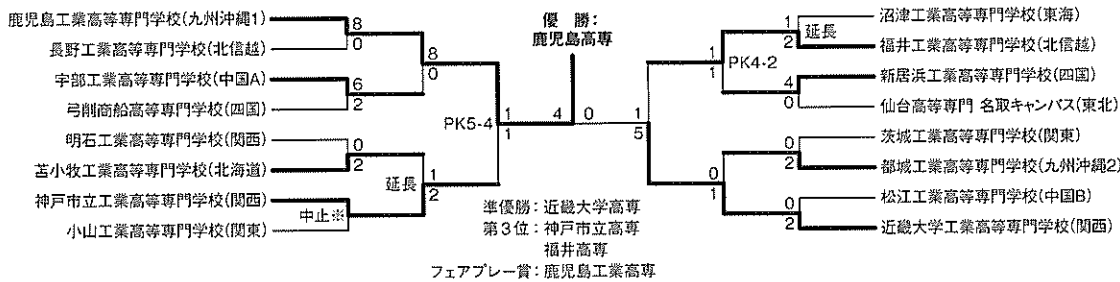
控え:(22)佐藤史騎(8)砂金大輝(13)坂本翔(14)内田航太郎(16)大屋祥吾(19)湯江俊太(21)鈴木颯太

得点: [東海]72'水越陽也(0-1)

第53回全国高等専門学校サッカー選手権大会

一般社団法人全国高等専門学校体育協会とJFAが主催している本大会は、JFAに登録（第1種）し、全国高等専門学校サッカー連盟に加盟している高等専門学校のチームであり、その団体の一員として個人登録された学生に参加資格が与えられた。今大会は12月18日～21日、9地域の16チームが参加して静岡県時之栖スポーツセンターで開催された。

※前号 82 ページに関連記事あり



※小山工業高等専門学校の出場辞退により神戸市立高等専門学校が2回戦進出

準決勝

鹿兒島工業高等専門学校 1 (前半0-0 後半1-1) 1 **神戸市立工業高等専門学校**
PK5-4

●2020年12月20日 10:00 ●時之栖スポーツセンター裾野グラウンドE1コート ●試合時間:80分、延長20分、PK ●審判員:【主審】勝又弘樹 【副審】内山直樹・縄田俊 【第4の審判員】櫻田孝太 ●観衆:30人

鹿兒島(監督:北園裕一):[GK](1)瀬戸口知希 [DF](5)白拍子祐介(6)新富洋平(13)高石健祐(20)吉野孝太郎 [MF](8)吉永大成(12)松久保寧<->HT(11)高岡泰平>(18)瀧山央貴<->62'(7)桑畑拓実 [FW](9)佐藤彪真<->HT(14)長尾賢志朗>(10)芝幸祐(19)深水徹大

控え:(16)南聖也(2)川畑秀斗(3)上野優人(4)岩川季継(15)下新原涉(17)九万田瑞空

神戸(監督:下村憲司郎):[GK](1)福本悠人 [DF](3)波多野大地(4)坂本步哉(5)酒井爽汰(6)畑勝太<->85'(14)渡辺魁人> [MF](2)竹内優斗(7)小林颯人(10)橋本拓実(13)渡瀬優太<->64'(19)朴勝基> [FW](18)福浦直人<->70'(17)永井颯太郎>(9)二本健太<->78'(8)小塩正起>

控え:(12)速洋輔(11)吉岡和志(15)塩田亮(16)川村諒真(20)岡亮佑

得点 [鹿兒島]68'芝幸祐(1-1)
[神戸]63'波多野大地(0-1)

PK [鹿兒島]先(10)○(19)×(13)○(6)○(14)○(5)○
[神戸] (2)○(7)○(5)○(4)○(10)×(8)×

【参加選手】

<苫小牧工業高等専門学校> 監督:多賀健
澤田蒼・新田佳佑・柴山寛大・山口真弥・遠藤隆生・高橋友喜・松村碧陽・水野太貴・鳥濱来央・秋山尊・山谷聡・富山晴登・秋葉一暎・山本駿・中村海晴・丸山翔平・中村悠介・鈴木将也

<仙台高等専門 名取キャンパス> 監督:油座圭祐
牛澤知樹・中澤哉太・佐々木堅人・佐藤完太・水上正喜・大友英資・平山峻輔・新妻芳斗・朝香宏飛・鈴木翼・坂波和哉・相澤慶人・友納漢大・千葉海晴・久本晟翔・山野駿斗・佐藤長新・格井爽汰・佐々木啓人・佐藤光

<茨城工業高等専門学校> 監督:関口直俊
西本健太・伊藤壮吾・小林柚佑・橋岡拓磨・小山哲史・赤尾怜・廣原明・竹垣遥平・井坂征也・五来卓・山田佳汰・梶間睦生・岡部恒汰・遠藤草太・武野内淳・高橋直也・上田翔太・根本光哉・後藤斗斗・小泉理晃

<小山工業高等専門学校> 監督:上野哲
茂呂陽真人・柴田真澄・武藤仁也・須崎心人・田熊省吾・久納翔太・伊藤輝人・山村琉空・中島颯祐・アイカル・鈴木結以・齋藤碧人・齋藤輝・荒川龍磨・海和泰成・高久晴希・狭山弘次・福田伊里・荒川龍弥・亀田拓磨

<福井工業高等専門学校> 監督:佐々和洋
金泊駿一・吳屋嵐雲・渡辺民生・尾形勇樹・鈴木大也・坂下隆造・石原史也・島田海斗・土岡龍人・石原大也・安田運太郎・岩佐明直・長田大成・川越瑠々空・前田佳成・松田僚希・下口凌馬・鈴木宏平・山下空馬・大西輝海

<長野工業高等専門学校> 監督:長坂明彦
加藤悠太・秋山心平・中島大翔・柳澤剣士・中村康太・清水友弥・山田蒼真・吉川航哉・嶋田悠太郎・宮藤慶介・宮下秀哉・宮崎真生・岡田陽・藤井義徳・中橋峻之助・川尻勘介・木村晃大・望月快風・高柳玄篤・遠藤泰成

<沼津工業高等専門学校> 監督:天田剛史
中村佑太・鎌駁也・瀬川大樹・岩崎竜生・鈴木悠斗・武田恋・小澤翔・村上陽斗・山本侑汰・坂間秀剛・服部伸也・萩田聖成・三浦宏斗・山下旺洋・芹澤快・中田優樹・中村康大・望月康平・新井進之介・岩川隼人

<近畿大学工業高等専門学校> 監督:中平泰之
黒川純誉・今西康介・高田幹衛・前川幹宜・山口和真・富永賢伸・杉村翔基・浅田悠斗・前田優希・小中運・奥永拓摩・前田周汰・三浦悠・谷野元紀・大谷英司・赤井大海・関誠心・大矢隼佑・坂和紀

準決勝

福井工業高等専門学校 1 (前半0-1 後半1-4) 5 **近畿大学工業高等専門学校**

●2020年12月20日 10:00 ●時之栖スポーツセンター裾野グラウンドDコート ●試合時間:80分 ●審判員:【主審】大橋佑祐 【副審】渡邊雄司・清水東 【第4の審判員】佐野剛希 ●観衆:35人

福井(監督:佐々和洋):[GK](1)金泊駿一 [DF](3)渡辺民生<->54'(13)長田大成>(4)尾形勇樹(5)鈴木大也(16)松田僚希<->58'(2)吳屋嵐雲> [MF](6)坂下隆造(8)島田海斗(9)土岡龍人<->66'(20)大西輝海> [FW](7)石原史也(10)石原大也(11)安田運太郎<->HT(18)鈴木宏平>

控え:(12)岩佐明直(14)川越瑠々空(15)前田佳成(17)下口凌馬(19)山下空馬

近畿(監督:中平泰之):[GK](1)黒川純誉 [DF](3)高田幹衛(10)前田優希(14)三浦悠<->79'(2)今西康介>(20)坂和紀<->74'(9)浅田悠斗> [MF](6)山口和真<->56'(17)赤井大海>(7)富永賢伸<->64'(13)前田周汰>(8)杉村翔基(11)小中運 [FW](4)前川幹宜(18)関誠心<->78'(19)大矢隼佑>

控え:(12)奥永拓摩(16)大谷英司

[福井]66'大西輝海(1-3)

得点 [近畿]29'杉村翔基(0-1)、50'、62'坂和紀(0-2)(0-3)、68'関誠心(1-4)、80'浅田悠斗(1-5)

警告 [福井]76'石原史也

決勝

鹿兒島工業高等専門学校 4 (前半1-0 後半3-0) 0 **近畿大学工業高等専門学校**

●2020年12月21日 10:00 ●時之栖スポーツセンター裾野グラウンドCコート ●試合時間:80分 ●審判員:【主審】内山翔太 【副審】内田康介・時野拓一郎 【第4の審判員】小松澤耐 ●観衆:77人

鹿兒島(監督:北園裕一):[GK](1)瀬戸口知希<->40+1'(16)南聖也> [DF](5)白拍子祐介<->78'(3)上野優人>(6)新富洋平(13)高石健祐(17)九万田瑞空 [MF](8)吉永大成<->78'(4)岩川季継>(12)松久保寧<->50'(11)高岡泰平>(14)長尾賢志朗 [FW](7)桑畑拓実(9)佐藤彪真(10)芝幸祐<->63'(19)深水徹大>

控え:(2)川畑秀斗(15)下新原涉(18)瀧山央貴(20)吉野孝太郎

近畿(監督:中平泰之):[GK](1)黒川純誉 [DF](3)高田幹衛(10)前田優希(14)三浦悠(20)坂和紀 [MF](6)山口和真<->37'(17)赤井大海→76'(9)浅田悠斗>(7)富永賢伸<->66'(13)前田周汰>(8)杉村翔基(11)小中運 [FW](4)前川幹宜(18)関誠心<->66'(15)谷野元紀>

控え:(12)奥永拓摩(2)今西康介(16)大谷英司(19)大矢隼佑

得点 [鹿兒島]38'、62'、80+3'佐藤彪真(1-0)(3-0)(4-0)、54'長尾賢志朗(2-0)

警告 [近畿]69'坂和紀

<神戸市立工業高等専門学校> 監督:下村憲司郎
福本悠人・竹内優斗・波多野大地・坂本步哉・酒井爽汰・畑勝太・小林颯人・小塩正起・二本健太・橋本拓実・吉岡和志・速洋輔・渡瀬優太・渡辺魁人・塩田亮・川村諒真・永井颯太郎・福浦直人・朴勝基・岡亮佑

<松江工業高等専門学校> 監督:一箭フェルナンド ヒロシ
青山直樹・持田泰太・河原達哉・小島岳大・安食大輝・奥井健太・中祖惟月・樋口淳紀・橋田崇志・河原圭佑・西村翼・中島愛弥・井田陸亜・松浦駿太・森山璃音・伊藤開己・本間玄人・今井啓昌・久保秀太・大野航平

<宇部工業高等専門学校> 監督:徳永敦士
横田知典・吉岡正裕・重松大輝・林諒育・鎌本琉空・柏村拓・田中裕太郎・三浦優斗・有働怜真・玉木柗人・遠藤成・橋本壮真・植田有稀・大藪魁・河本泰知・梶柚希・城戸颯太・浅里駿太郎・中村豪利・福永圭吾

<新居浜工業高等専門学校> 監督:谷脇充浩
大島武輝・井下永遠・清水迅羽・藤原優真・阿波谷康成・大宮令・明石一希・松浦遥叶・岡田歩積・熊野憲太郎・曾我部夏希・山本康平・川村雄輝・桑原尊・森高駿・栗斗哉・日浅智裕・岡本泰輝・沖元研人・松岡陸都

<明桜高校> 監督:原美彦

佐藤潤一・渡辺翔太・保坂哉汰・小野湖幸・小林心優・渡辺月斗・長江慶次郎・鎌田大輝・吉崎
暎・齋藤卓巳・嶋崎隼大・高山快・内藤蒼空・三浦栞羅・堀井真生・佐藤剛司・佐藤廉・田村仁
志・小林颯翔・竹前海来・船木俊貴・小野亮輔・増田剛琉・武藤駿明・目黒慈哉・齋藤光優・田中
將太・佐藤拓海・加藤優・中川皓星

<日本大学山形高校> 監督:矢作直樹

横田海以・渡邊暹稀・羽柴聖泰・大津飛雅・森谷澤斗・小原大和・関口快二・本間唯斗・阿部真
珠・後藤直翔・高橋崇斗・高橋祐・那須洋介・細谷海月・金子達海・岡崎瑠純・大河原陽・築達涼
太郎・桑原亮太・荒井斗希・佐藤吏矩・矢野慎之佑・佐藤秀更・鈴木哲平・細谷裕夢・志藤幹太
加藤太涉・鈴木誠司・遠藤聖浩・鈴木陽平

<学校法人石川高校> 監督:福田正信

渡辺駿・渋谷翔・池田翔・立澤希望・内道竣太郎・大津平嗣・大澤孝太・平林太郎・原田雄斗・高
田颯太・遠山翼・五十嵐叶夢・塚原蓮・衣川佳佑・佐々木崇人・森集真・渡辺航大・小椋功太郎・
平田愛斗・松澤亨・吉岡凜平・伊藤拓真・井上翔・宇野慶和・竹沢隆・倉島聡太・佐藤武流・山内
拓実・阿部吉平・杉本晃輝

<鹿島学園高校> 監督:鈴木雅人

櫻井响介・小副川虎之介・木村和輝・荒木駿輔・遠藤聖矢・瀬口雄翔・洲仲平・杉山諒・山本勇
栗原智樹・石川藍流・吉田健人・橋本一輝・佐々木輝大・水野成陸・鈴木仁也・土井紅貴・小西
慶太・石井想・大浦力・山口永遠・高田楓斗・石山玄人・エゼトベチク・大澤昌也・中嶋飛翔・
押久保弘人・菊谷大地・松村尚樹・松本治大

<矢板中央高校> 監督:高橋健二

藤井陽登・高田翔太・羽瀨莉人・坂本龍汰・新倉礼偉・島崎勝也・小出勇翔・山越結平・三河和
矢・太田爽志・森山駿・成田大泰・栗原朝陽・唐橋玖生・大畑凜生・小川心・景景虎・只友大輔・
柴田玲樹・黒澤光成・藤野和哉・升田大誠・青木凱・多田圭佑・鷹菅浩輔・久野木力丸・林廉斗・
小森雄斗・高野怜慈・藤井将矢

<前橋商業高校> 監督:笠原惠太

長谷川翔・櫻井皓介・水村悠夢・高橋洋斗・松澤匠真・本間輝・庄田陽向・倉林圭吾・上野大空・
高橋大地・櫻井涼太・中澤卓己・安原尚哉・岩田耀生・石倉潤征・大熊薫薫・坂本治樹・山口涼
太・清水葵生・木樽文流・樺澤嵩斗・小林拓海・大塚翔太・仲宗根根・永井陸空斗・今泉諒陽・三
ツ木貴大・高柳流野・伊藤健・堀井一志

<昌平高校> 監督:藤島崇之

西村遙己・青木陸・上林真斗・松葉通風・小澤亮太・生島翼・唐木晃・田島魁人・本間温土・津村
岳杜・八木大翔・小山田直人・明比岳・柴生汰・小川優介・荒井悠汰・篠田大輝・須藤直輝・井野
文太・平原陸輝・榎方豪郎・藤生哲平・佐藤海空斗・篠田翼・米陀大洋・椎谷俊輔・蛭谷遼太郎・
小見洋太・伊藤風河・井出蓮

<船橋市立船橋高校> 監督:波多秀吾

細江彦太・天川幹・田中公大・塚田祐悟・木内拓海・菅谷暁輝・石田侑貴・長田京兵・鈴木康生・
針谷室人・小笠原広将・山崎一樹・伊藤楓太・平岡陸斗・藤田大登・八木智哉・井原亮亮・岩田
夏彦・佐久間賢晃・坪谷至祐・池田虎弘・土岐泰斗・丸山侑香・高橋悠真・沼田翔太・加藤想音・
平良碧規・山本大輝・松本海帆・イジエンパ・リチャード

<堀越高校> 監督:佐藤英

古賀隆誠・菅野颯人・平野裕太・市村大基・井上太聖・近藤大暉・馬場跳高・齋藤光・大垣昂斗・
五十嵐翔・西田雄真・岡悟志・東透也・宇田川瑠琉・古澤希竜・山口輝星・日野翔太・山口諒大・
小林宏太・中村ルイシ・宇田川侑貴・東耀也・堀田五月馬・笹川陽・東館大翔・日岡ナシユ大士・
伊東東・若松隼人・尾崎岳人・金子滉也

<関東第一高校> 監督:小野貴裕

野川好誠・笠島李月・宇野翔太郎・有吉航希・鹿股翼・菅原涼太・弓氣葵・若松歩・下田凌嘉・
迫川龍空・田村耀斗・荒田颯・五十嵐敦也・高木駿・北村慶央・肥田野蓮治・藤井日向・類家暁
堀井操人・高柳鯨四郎・今谷健人・池田健人・沼田晃将・笠井佳祐・宇山輝・坂井航太・平田晟
也・森優貴・安藤慎之助・石塚浩晏

<桐蔭学園高校> 監督:八城修

松尾俊利・小堀蓮太郎・入江倫平・小田部潤・中島駿乃介・武田拓磨・青木祐人・片山楓人・江
崎人・宇野楊泰・伊規須恵祐・原大稀・山野遼飛夢・藤平一寿・小野寺迅・本多鼓跡・廣瀬隼斗・
波多野功生・大石翔希・中村莊太・飯島大地・中村勇貴・石塚一馬・阿部大輝・長澤圭剛・大澤
颯天・池田龍将・立石宗福・中本鏡介・木崎大

<山梨学院高校> 監督:長谷川大

機部圭佑・熊倉匠・山田海人・飯坂竜大・一瀬大寿・板倉健太・鈴木剛・中根悠衣・浦田拓実・加
藤豪太・石川聖功・山口宇汰・谷口航大・新井爽太・広澤灯喜・依田らい木・石川雄大・野口新
太・常盤隼人・山口文善・岩岡遼太・佐藤柊郁・佐瀬祐人・笹沼航紀・茂木秀人・イファイン・野田
武瑠・久保壮輝・鈴木健世・藤澤宇宙・佐竹祥太

<松本国際高校> 監督:勝沢勝

矢口偉英・浜田万生・三浦宙・寺部晴也・青柳颯人・渡部翔・宮嶋歩・倉持陸・柳平強・押山光
希・於保幸太郎・早乙女昂聖・遠山詠太・岸塚人・上杉優斗・宮嶋航大・舟木涉・嶋崎達生・村瀬
運也・錦織周平・苗木寿貴斗・二木陽・土井善賢・四方優斗・中山恵叶・早川宗之・山崎陽生・長
野竜治・岡野大輝・高城泰史

<帝京長岡高校> 監督:古沢徹

佐藤安悟・青田優斗・鈴木翔太郎・佐々木奈琉・三宅凌太郎・松村辰伶・桑原航太・松本大地・
和田悠希・足立瀬名・糸永誠也・鈴峰平・上野一心・湯山翔遥・川上航立・佐竹宏太・岡村空・西
山宙良・武原幸之介・廣井蘭人・吉原宏顕・酒匂駿太・石原波輝・葛岡幸大・梶山はるま・横田矩
克・笠井冠晨・岡山琉斗・渡辺祐人・山縣隼夫

<富士第一高校> 監督:大塚一朗

平地巧汰・牧優心・澤崎俊克・石垣魁星・富田侑平・桑名創・幸井捺希・女川陽生・東山英俊・本
多晃士・川浪雅規・森悠人・入江航輝・片山大治郎・今家駿輔・福岡輝・中川晨・松井元牙・鈴木
太一郎・原田文虎・高橋司・杉本和真・井口大樹・米谷爽汰・浅野鏡太・吉倉昇空・天野碧輝・津
田将・高平真玖・沢永蒼

<星稜高校> 監督:河合伸幸

山内友登・判多亮介・田中勇輝・竹内一馬・西尾友希・今村健人・中村爽月・神澤嘉大・中尾海
世・有延享一郎・辻田力・石田達己・廣島大雅・中村領優・宮原秀仁・川本虎太郎・前田一勇・伊
藤士苑・戸川期雄・河合伸信・岡田伯斗・中川小哲・天川賢心・前出悠杜・清水新志・佐々木真
之介・千葉大護・大倉篤勲・山崎陸成・橋本亮汰

<丸岡高校> 監督:小阪康弘

田邊満紀・松井優音・中出那央・新宅翔太・横山潤成・木戸太陽・飯田晃明・竹島智哉・柳谷亜
再雅・西本龍斗・山田健太・山本悟大・江原悠真・道苗慶士郎・小谷武哉・川中浩夢・東出来輝
岡田祥吾・徳川留野・新地悠司・西澤慶太・斎藤佳汰・山次鴻史朗・中村晃大・河上英瑠・田中
遥人・新堀陽斗・明間歩・小関晴人・伊藤大貴

<藤枝明誠高校> 監督:松本安司

市川泰志・佐久間瑠平・柴田真之介・三輪昭太・寺田昂弥・増田七翔・野口楓真・小林佳輝・山
本蒼太・田中太智・森田湧正・原田歩・西平圭翔・窪田右京・島尻智貴・阿部陸門・楢山良唯・中
山聰・小林洗・村松寛大・渡辺翔太・中谷未聖・吉武朋輝・賀茂大紀・瀬之口史紋・青地浩太・中
嶋光・谷澤恵人・三橋彩斗・高野雷我

<東海学園高校> 監督:鶴田道弘

岩島巧・加藤歩夢・大空陽登・小林泰知・佐藤汰一・古久根一真・木下竣太・大井崇ノ介・細江
力唯・河添寛大・山名航平・白井琉生・杉浦大夢・花井俊太・石倉康成・多道健太・宮之脇広大・
中野瑞空・尾崎稜征・多武響・越嶺之助・森田澤・大野啄未・高橋克季・伊藤社村・村上慧斗・平
岡蓮・田島暖大・黒木颯大・鈴木空翔

<海星高校> 監督:青柳隆

白井玖流・土井楓都・栗村真尋・宇田大輝・江上晃太・小林春輝・服部舜・角田雅公・増田嵩大・
岩田征也・伊藤楓人・長嶋純翔・澤田大翔・高橋柊磨・長嶋叶翔・三林瑠威・朴誠樹・大中原空
橋本周磨・三宅大暉・福地孝斗・田村風陽・園田雄飛・和泉智樹・新田夕晟・和田涼雅・水谷健
人・中村藤也・青柳宗一郎・野原弘誠

<帝京大学可児高校> 監督:仲井正剛

吉川明日・原幸大・池田契・池田陸・犬飼叶都・水野宙生・高橋宏弥・清見朝陽・糸川川侃太郎・
鈴木理貴・細野斗亜・原田逸希・熊澤伶・松本翔輝・鈴木淳之介・小宅空大・遠藤藤・渡邊真士
三品直哉・長谷川心大・西尾柳紀・関駿太郎・井上凌輔・大森涼・蒲森我・佐藤優多・松永悠基・
永井斗梧・松下人樹・安藤虎二郎

<近江高校> 監督:前田高孝

山田和季・西村竜輝・芝星斗・野村仁人・宮田遥斗・上甲海琴・前山拓海・大隅陽・那須日夏留・
松下東矢・甲斐悠悠・藤村歩夢・四塚潤樹・堀川尚紀・竹田泰知・富板優馬・前田陸・森雄大・山
中亮介・櫻井啓吾・下村哲平・濱野舞人・長瀬谷洗斗・笹井颯太・岡島翔生・幸林聖悟・中村匠
汰・浦川卓之・川口大貴・青野光馬

<京都橋高校> 監督:米澤一成

中村青・前田田村・郷田風砂・柳本升吾・山内琳太郎・小山凌・原田太陽・久末達哉・金沢一矢・
西田航士郎・井上侑星・宮嶋大輝・中野晃弥・長谷川俊泰・中川樹・米田翔太・鎌田翔太・青山
崇生・東陽平・松浦蒼波・吉田海翔・福司凜史・芳賀海斗・成迫勇太・下西電聖・木原諒・西野太
陽・永井友也・杉本蓮・川勝健慎

<履正社高校> 監督:平野直樹

杉村斗磨・熊谷有真・平尾駿輝・藤原光輝・寺本悠晟・李泰河・船田陸人・前田寛大・向晃生・村
木健斗・山田大暉・松尾伶・菅澤烈・竹藤智也・平岡太陽・後藤晴海・井谷洗一郎・鄭銀・山口泰
七・池田喜晴・赤井諒太・佐藤光風太・副伊織・神田拓海・宮路駿輔・李昇輝・廣野大河・浅野大
生・森川颯太・野村大輔

<神戸弘陵学園高校> 監督:谷純一

宮本規央・大月耀平・平井州・木谷亮太・橋本翔和・田中百々輝・小倉慶士・藤井龍馬・浅野晴
人・中島大樹・本田悠・梶家大聖・吉村瑠星・山根隆希・松井治輝・田中魁人・辻夕雲希・服部悠
希・川瀬隼・藤井唯人・岡本陸・荒谷龍星・田中祉同・徳弘匡・牧野隼也・西崎千翔・松野隼輝・
白山麟・住田賢・岩見涼汰

<山辺高校> 監督:長尾慎祐

志賀隼太・岸藤泰成・齋藤英勝・山下和真・森岡侑太郎・渡辺佑斗・池田海渡・玉井大翔・森純
人・佐野琢磨・田中大智・中川泰玖・望月拓海・平賀陸・浅倉莉久・鈴木大介・佐藤琉生・福永一
真・田口凜音・横阪航士・柳田尋斗・山口光希・西村俊哉・小川礼俊・太田凱翔・小原一力・山田
良・谷口玄哉・野田亜蓮・濱岡聖流

<初芝橋本高校> 監督:阪中義博

藤澤周弥・森涼太・住友蓮・甲斐光・松元航志・尾崎功耀・瀬浦翔太・松本凜・西本和馬・植仲一
樹・七星優斗・吉村凌太郎・岡本卓輝・大西恒輝・安藤公輝・新井聖斗・西洲啓斗・大影朋輝・大
月志浩・坂口歩夢・岡本直大・藤本聖也・宇都野京介・片山翔太郎・櫻村空・前田孝志・門倉佑
志・手開理・酒谷圭太・荻野信

<米子北高校> 監督:中村真吾

長崎勇也・森海斗・才木享明・鈴木慎之介・本混太・横山凌雅・木村混太・吾郷凌成・海老
沼慶士・青戸幸輝・土居頼生・林亮太・竹中元汰・矢野巧也・佐野航大・橋本淳史・渡部颯斗・宮
本樹・落合翔太・山田颯大・石田翔太・嶋山友太・中田来輝・高草木魁・小橋川海斗・片山颯人・
佐藤伶・岸本怜緒・延原輝・北尾陸

<大社高校> 監督:後長直樹

飯塚統麻・栗原拓也・足立輝太・園山陸・藤田隆寛・石川世皿・糸賀良祐・小川翔太・有富達哉・
井上陽登・宮本祐太郎・静岡恒星・大宮遼太・石川凜・安田爽・太田達之・持田遥香・勝部竜舞・
齋藤翼・高橋武誠・長藤光希・島貫心・皆尾文也・角凌太・高月昂希・持田優輝・瀨本日向・早川
亮大・廣戸蒼大・品川純人

<岡山県作陽高校> 監督:酒井貴政

徳本乃那・鐘真志・杉本大地・中井陸人・原田涼汰・山本修也・星川玲男・東田悠斗・森本匠・田
中隼哉・小谷斗士・小崎直人・真鍋大成・奥龍太郎・上岡悦士・中島理慶・藤本健吾・井芹凌成・
渡辺潤・西田達哉・翁林雄大・岸本桜右・田中瑠翔・池田陽多・窪田隆志・杉本翔太・大森祥平・美
瀬洋真・西村颯人・服部歩夢

【参加選手】

<【辞退】札幌大学> 監督:氏家新司
上野陽希・藤原胡桃・米田萌花・諷阿絢・佐藤玲奈・中野風華・片岡真那・二階堂馨・片岡花歌・板井紅空・井田久美子・大沼寿々歩・小野寺ゆき・吉武きらら・根本ほのか・藤彩音・甲賀桃・垣野令佳・竹山智恵・尾崎咲果・山本優夏・三澤純子

<仙台大学> 監督:黒澤尚
小野真鈴・釜坂慧・藤田真帆・金子紗季・三条理緒・豊後彩音・館崎里帆・脇田紗紗・齋藤麻月・加藤瑠菜・加藤遥・加藤愛・小河原彩花・加村ななみ・北山夢佳・菅原伶菜・小沼優真・後藤浩月・加藤更紗・西村実理菜

<八戸学院大学> 監督:畑中孝太
小林ちひろ・橋本音・小畑あすか・鈴木桃子・平山珠梨・佐藤優・奥山紗良・小林遥花・下館陽美・渋谷帆音・根本ひかる・長谷川風歌・上村果純・水野菜津美・佐藤悠乃・平原結衣

<早稲田大学> 監督:福田あや
鈴木佐和子・川端涼菜・近澤澤菜・佐々木呼子・船木和夏・樹田花蓮・井上萌・ブラフ ショーン・夏目歩実・後藤若菜・浦部美月・堀内瑠子・藤田智里・富田実侑・阪本末周・並木千夏・蔵田あかり・村上真帆・松本菜奈加・加藤希・黒柳美裕・関陽南子・笠原純乃・三谷和華奈・大森美南・高橋楓・廣澤真穂・萩原優花・吉野真央・渡邊奈美

<筑波大学> 監督:平嶋裕輔
野島優希子・大海優希・小平真帆・中戸川紗理・谷井沙樹・鈴木菜葉芽・太田芽依・押鶴散・月原優季乃・森下遥菜・玉村加捺・梶井風薫・羽岡愛望・大池布々子・橋本恵里・運輸真琴・中田貴子・山田未優羽・黒田江菜・三好真由・森本菜梨・野崎彩美・濱美苗・千葉玲海菜・大橋夏希・長谷川瑞穂・福富真菜・河部真依・向山麗

<東洋大学> 監督:石津遼太郎
和氣ななみ・今井佑香・中村未有・増淵彩乃・西垣内由唯・久保真理子・常田菜那・中村涼乃・澁澤光・根岡陽彩・藤生菜摘・秋山チエ・出未村亜美・鈴木陽奈・林のみり・常田麻友・時田富由美・塩谷瑠南・中原藍・佐々木葵・森田美紅・北川愛莉・北村美羽・村岡由梨・野口珠里・大内梨央・中谷汐音・門脇真依・堀ひより・高岸奈央

<帝京平成大学> 監督:矢野喬子
米澤萌香・戸塚さくら・新井結子・藤原瑞季・石田菜々海・佐久間未稀・長瀬あゆ・堀越柚衣・田中佑奈・久保まりあ・渡邊那奈・神田尚香・近藤彩優子・藤原桐子・河野有希・山下沙耶香・倉富祐歌・浅野綾花・小原蘭菜・露香織・富沢那那・吉岡ころろ・高杉光里・加登友佳・加藤璃子・石田永愛・今田紗良・川本和・古賀花野・日永田恵和

<山梨学院大学> 監督:田代久美子
大城聖奈・川口鈴音・伊藤楓・大原もも・濱花法子・鈴木海音・山口恵実・若下胡桃・井上歩香・小原愛生・齋藤丹里・難波桃子・吉岡かれん・内田朱夏・春山沙音・柘谷美羽・竹井帆波・甲斐碧海・上田佳奈・水野あやめ・鈴木日奈子・長江花音・上田莉帆・浜田芽菜・菅谷野々花

<日本体育大学> 監督:矢野晴之介
水口菜穂・福田まい・伊能真弥・富岡千宙・関口真衣・松永未衣奈・毛利美佑・金平莉紗・丸山ちさと・高橋恵美理・千葉菜々美・森本穂也・知久奈菜穂・渡邊真衣・下山莉子・森田美紗希・茨木美都葉・沖土居咲香・宮本美咲・高原天音・久保田明未・富吉明里・加藤ゆあ・日原莉奈・谷口清夏・李誠雅・高橋亜美・松本歩音・江藤穂乃夏・寺尾星奈

<大東文化大学> 監督:川本竜史
斎藤紗絵・堀口梨花子・三友菜菜・上林優花・齋藤久瑠美・鏡玲菜・浅田真理奈・久保田美奈・田邊有実奈・山口真梨乃・小林花鈴・高野千春・渡辺莉奈・豊原彩菜・合田蒼乃・池田千織・猿澤桃佳・宮田ひびき・山下由衣・加藤梨子・竹内千瑠・大久保香穂・志賀みづ・小林的りい・三尾梨子・中村結花・宇津木陽菜・深谷綾乃・宇田川凛花・梨本舞優

<新潟医療福祉大学> 監督:草木克洋
奏久瑠実・山田二千華・半田涼佳・和田涼花・高山菜々香・河井美月・本間詩帆・塚本奈緒・熊倉彩華・佐々木悠・清宮有貴・豊村文香・谷口愛奈・岩田亜弥・古庄和奏・土肥穂乃香・唐橋万結・篠原沙耶・近藤七海・白井ひびき・木川胡桃・村上菜央・薬師愛美・佐藤菜由・菊地春貴・前田香名子・中江萌・川下季恵・中尾奈摘・工藤聖蘭

<北陸大学> 監督:田中桜
築山七海・森田果歩・高井由衣奈・山内香林・平澤仁美・高橋まるみ・塚田夏咲・植村佳沙音・平能彩佳・川端志歩・宮下楓花・服部祐奈・高井ことみ

<中京大学> 監督:大塚利之
川口黎・岩瀬葵・石津さと子・島田響・渡邊あかり・白井美佳・栗田あすか・齋藤ゆり・山城妃南音・奥田優・上田真子・大田明子・林文香・谷口愛奈・浅井菜々美・宮木祐圭・武田瑞希・青井香々桜・服部あおい・土平秀理・風穴弓穂・齋藤虹歩・宇野京花・中込華菜梨

<静岡産業大学> 監督:本田美登里
若林祐衣・河合菜奈・砂田かほ・彦坂桃花・村上賀梨・澤田明希・櫻田彩乃・矢野粧子・柿元渚・中林美南海・小島知佳子・兼越令奈・宮下愛梨・藤田和伽・長谷川愛花・金丸翔子・高島純音・藤田桃加・三輪玲奈・佐合麻理百・越高羽菜

決勝

静岡産業大学 0 前半0-0 後半0-1 1 帝京平成大学

●2021年1月6日 13:00 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:90分 ●審判員:【主審】杉野吉紗 【副審】一木千広 / 横田碧 【第4の審判員】高橋早織 ●観衆:150人

静岡産業(監督:本田美登里):[GK](18)河合菜奈 [DF](4)村上賀梨<-77'(3)彦坂桃花>(8)櫻田彩乃(45)小島知佳子 [MF](14)兼越令奈(25)柿元渚(29)金丸翔子(32)高島純音 [FW](17)宮下愛梨(34)藤田桃加(38)三輪玲奈<-82'(24)森田和伽>

控え:(1)若林祐衣(21)砂田かほ(7)澤田明希(11)佐合麻理百(22)越高羽菜(28)長谷川愛花(35)中林美南海

帝京平成(監督:矢野喬子):[GK](1)米澤萌香 [DF](3)藤原瑞季(4)石田菜々海(6)佐久間未稀(13)長瀬あゆ(27)渡邊那奈 [MF](7)近藤彩優子<-58'(5)石田永愛>(9)河野有希<-69'(23)堀越柚衣>(10)山下沙耶香(16)小原蘭菜<-84'(33)高杉光里> [FW](11)今田紗良

控え:(21)戸塚さくら(8)藤原桐子(14)倉富祐歌(24)吉岡ころろ(31)川本和(41)日永田恵和

得点者 【帝京平成】72' 今田紗良(0-1)

<武蔵川女子大学> 監督:松下健二
矢野桃子・川田怜可・藤田七海・田中万梨乃・竹下瑠香・大原陽菜・前川恵里佳・河田環子・田村優美香・京井吉樹・服部紗英・吉川遥乃・樋口梨陽・田尻沙妃・坂本弥優・安井夏帆・竹中ひより・安井友香・河本悠希・武本菜佑・渡邊真・富浪千里・北川かれん・中野鈴那・芳山若菜

<明治国際医療大学> 監督:中村貴史
湯浅里香子・小原梨夏子・村田紀都・後藤華奈・岐部青季・岡本彩花・森一薫・三好佑作・中西菜花・中村明日葉・藤野くるみ・安河内亜実・中島遥南・山内捺美・宮井瑞奈・古賀向日葵・浅井智恵・豊田萌香・坂下深・桂田なごみ・小林千夏・高梨里美・田中有麻・福留実優・前田純香・河村祐美・岡百々花・内田葵・伊野伶奈・川崎まゆ

<姫路獨協大学> 監督:藤谷智則
平田優月・伊藤真穂・倉本恵・中野莉沙・高藤楓・浅野智里・上村彩華・野田歩花・高橋瑞紀・中村詩音・佐々木愛穂・後藤院舞那・高田莉緒・青木なつみ・倉谷也海・儀岡綾香・平野鈴空・近藤佑衣・森愛菜・藤浦恵里樹・松本和・塚田亜希子・上田桃・石橋桃子

<聖泉大学> 監督:後藤剣
橋路友加里・後藤真夏・西藤加奈・青山美里・甲斐純女・三宅莉子・荒井舞・長谷川純・山田菜里奈・栗原春樹・服部芽恵・小谷琉晏・川井朱莉・中島風花・和田向葵・川島耕明華・中島千佳・片野愛希菜・伊藤香吹・藤水遥・菅之々花・土山桃香

<徳山大学> 監督:田中龍哉
湯浅里香子・高木恵生・田中里奈・長野涼華・中村友香・松久保葵子・山内詩織・八田七海・磯田美那・池澤のあ・宮武里奈・吉村優季・永田未来・布布亜優美・神谷佳穂・原田結奈・住徳彩・塩田満彩・杉岡真里奈・久山玲奈・川瀧麗・水流あやか・高島瑞希・伊藤玲奈・矢島由芽叶・近藤千寛・下地美桜奈・松井優佳・大西純奈・阿南美里

<吉備国際大学> 監督:大田真司
杉野陽咲・西原紀恵・岡田愛海・余田清華・森田真弥・嶋木瑠南・川名遥香・杉本紗良・蓮井美空・石成優希・岡田愛叶・竹田亜里紗・阿部楓子・川名みのり・小川莉奈・井原夏稀・中野咲・山田ひら・横山萌・小森咲那・植上未来・森上浩・板倉楓・長部沙莉・西川紗奈・山下結華・加藤利佳子・藤原恵佳

<四国大学> 監督:平田英治
岡林優・山村あずき・山田萌絵・高橋美幸・南里彩・唐下真沙妃・毛利ひより・藤川麻里萌・山下涼・黒木優芽花・小谷奈々・麻生葵・原田優・田中希香・白木美涼・高橋萌々香・牧畑羅那・福原星奈・山本芽依・濱田紗妃・武田綾香・大垣晶子・甲斐千尋

<徳島文理大学> 監督:金子憲一
釘元葉月・森本真由・今西夏菜・砂川菜々子・溝口梨里加・田村菜津子・玉谷優衣・喜多桃花・清水明日香・森岡朱都・前泊怜・林菜菜美・瀬上綴南・野崎萌・中原萌唯・天羽佳菜・植田真以・西野里圭子・宇都宮彩菜・奥崎光莉・米田奈樹・篠崎真紀・福永莉子・宮崎樹・芹川理乃・高田楓佳・仲井間未麗・井上恋・榎本咲希・八十優希

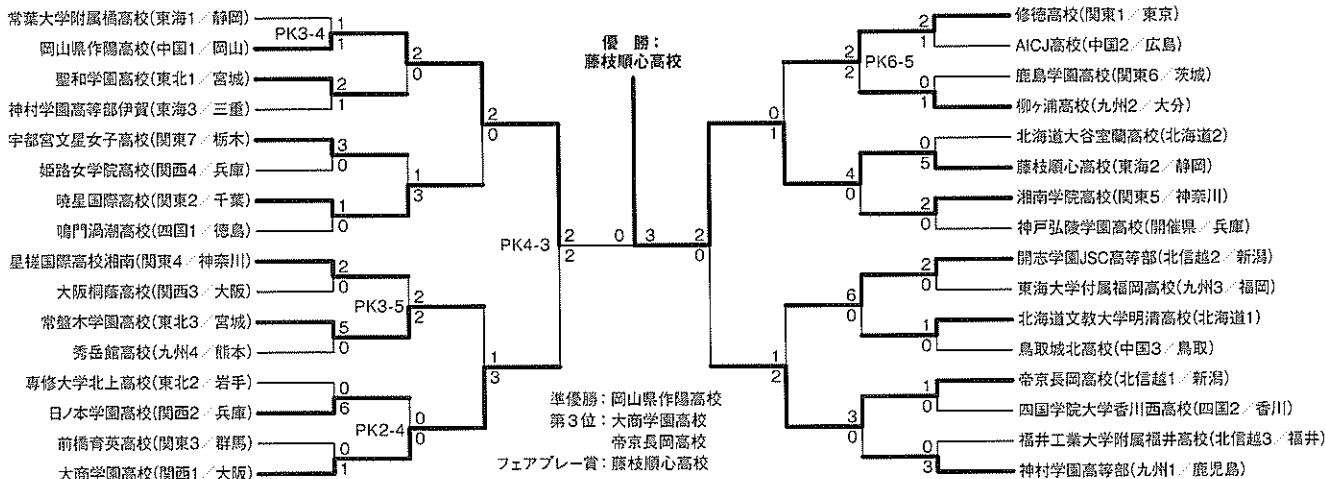
<福岡大学> 監督:門司康成
山之内佑衣・上村夢叶・永富慎・丸谷さくら・佐藤寧・小池杏実・秋元京美・富田琴音・原日輝・古庄恵実・原田優・奈須野安侑里・中島希海・西山陽菜・高良碧・安藤ちひろ・河内早苗

<佐賀大学> 監督:永富達也
高崎みずず・飯塚咲・沢本明莉・添田理未・吉村萌・山下和・中野莉沙・山田理香子・岩田朋華・山崎みず紀・平後千代美・野口和香・田中空・山口真子・田中美波・森川仁美

第29回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

神戸市およびJFAが主催する本大会は、JFAに女子登録した加盟チーム、かつ都道府県高等学校体育連盟に加盟した高校の単独チームで(全日制課程・通信制課程・定時制課程の生徒による混合は認めない)、大会参加申請締切日(2020年11月24日)までに登録された高校生の選手に参加資格が与えられた。今大会は、1月3日~1月10日に兵庫県で開催され、32チームが出場した。

※大会レポートは79ページに掲載



<福井工業大学附属福井高校> 監督:久保直也

西條叶・恒石彩華・松尾朝陽・福岡望愛・上田夏未・一井美咲・金谷しず菜・中野結生・増田涼花・三宅華鈴・岡梨・須藤光・三浦衣織・服部陽向・中川冬萌・館奈風海・榎村佳奈実・高橋菜々香・廣瀬唯奈・山崎菜歩露・深澤友季・木村瑠菜・久保華恩・奥田愛理・鈴木夏乃・向吉咲桜・濱田愛心・松本彩良・片山詠乃・茂呂優心

<常葉大学附属橋高校> 監督:半田悦子

工藤リズム・望月真妃・築地育・小林莉々子・時森結菜・小泉麻琴・白鳥佐那香・門田希香・大笹椋子・青木夕奈・内田樹梨・井出心花・小林愛佳・影山未来・福岡小梅・名和真理奈・稲葉菜々香・市川桃子・葉菜々実・芝田美穂・古見紫夕・岩崎夢依・伊藤琴音・楠原琴乃・北菜々子

<藤枝順心高校> 監督:多々良和之

山本恋菜・小野未織・仁藤千智・宮本仁奈・萩原愛心・磯部美夏・堀内意・井手ひなた・鈴木杏梨・安藤麻耶・三宅怜・大野夏実・吉田美優・木許和心・堀真綾・柳瀬楓菜・松崎花菜・丸山姫麗・浅田幸子・栗田桃子・林美希・齊藤桃花・谷穂花・高尾真莉奈・窓岩日菜・斉藤花菜・鈴木愛理沙・山田歩美・浦悠理香・正野瑠菜

<神村学園高等部伊賀> 監督:吉永輝彦

松浦葵・橋倉美邑・山下菜・北條愛翔・笹部真帆・原島亜依・伊藤日菜美・松原美夏・山口礼結・北原亜未子・別當友萌・坂口未里愛・陣内桜良・横路朱也香・宮川海美・景山涼香・中村琉愛・金子智沙子・桐野真央・曾根遥名・田中七海穂・山本真奈美

<大高学園高校> 監督:岡久契

竹下奏彩・力丸里保・井上加菜美・長尾ののか・濱岸可那子・伊東珠梨・中津留彩奈・太田綾香・福原愛彩・三浦彩夢・高橋雅・後藤萌乃美・坂本春菜・松本有未・福垣真衣・大住六花・北岡梨愛里・森文佳・佐伯綾・藤原由衣・高瀬千晶・上原すずか・森和奏・伊与田あおい・河原林紬・宮本妃菜里・高木琳・中川ひなの・鬼塚こはな・徳本華暎

<日ノ本学園高校> 監督:村上裕子

友菜奈歌・川幡風・赤羽柚寿・沖田有由・前田花依・田淵結子・竹重杏歌理・徳永雅・小島陽・村上水彩・橋根悠花・水本陽菜・田中晴菜・小鍛冶旭・山田瑞穂・嶋田華・篠田帆花・濱渦柚花・林綾羽・中垣虹衣碧・藤生理湖・菅森杏・塚本悠日・菅原真名・俣野佑果・川井心咲・栗田そら・野本花音・内田光・山下寧

<大阪桐蔭高校> 監督:安田真季

加藤杏寿・相谷亜由花・上田梨紗・東瑞望・彦阪由依・山下朝子・水上凜子・矢野愛華・中野子綾愛・徳本千夏・池田実咲・青柳来美・道下佳奈・勇田詩夕・仲西遥香・升田莉子・山元麻由・前田美海・瀧口愛梨・橋本結菜・杉村菜々子・東風・橋本みずぎ・福原萌来・林知奈・片本奈緒・大田歩美・寺岡史菜・尾野まりん・久保田珠慧

<姫路学院高校> 監督:津津美和

村上優結・田中美緒・横田唯・亀尾羽奈・原田愛・長野心菜・中尾友希乃・渡邊真帆・上野由和・安藤真桜・村山紗耶・荒木優彩・香山京子・西垣美佑・中野つづら・山口春桜・田村梓・豊島華香・古林采奈・山本蒼・高橋佑未子・沖百萌花・牛尾静里・土持千咲都・上野早彩・村野紗希・市位春陽・岩崎藍奈・黒田彩未・山本梨加

<岡山県作陽高校> 監督:池田浩子

阿部千優・草刈希羽・梶原美咲・森田舞・井原あおい・梶山朋恵・岡本亜子・阪口心音・岩本有叶・佐々木穂乃花・竹谷華歩・山踏なずな・本多実夏子・伊勢さつき・井手段祐有・江崎世来・松田陽菜乃・中野琴音・関奈々子・村上菜月・田中佳乃・福田千尋・竹之内柊花・兼島琴未・伊藤真生・大西夏奈・望月咲良・垂井咲樹・生田七彩

<AICJ高校> 監督:小川潤一

富永若葉・村本夏希・小田こころ・松川杏美・政岡那奈子・岸波優妃・和田奈々美・小山葵・本吉琴月・兎玉七星・井上歩乃華・櫻田真衣・疋田祝華・江藤佑生・鶴岡朱音・石本千弥・玉田優莉奈・小林万瑠・森田千尋・梅津真央・伊藤流佳・谷羽音・中谷和月・植野沙耶・坂本葵彩・岩土未夢・桑原藍・菅原皆都

<鳥取城北高校> 監督:秋山未空

河村心優・石川風・植田絢羽・橋本成葉・岸田月希乃・田中ちはる・市原羽聖・西村モナミ・吉田るう・藤本真衣・河上雛葵・横山奈柚子・大釜桃華・立石舞乃・田村涼那・諸住帆乃香・大澤花・岩本葵・野崎紗

<鳴門渦潮高校> 監督:佐藤城介

森松紗羅・木村優那・金澤伊純・手塚月央・宮崎亜純・杉岡美空・湯川芽依・清悠香・志津七海・井上凜花・金城来万鶴・酒井心優・森美咲・仙波結衣・長谷原彩音・去来川琳加・飯田望愛・福島凜歌・住友瑛・新居ひかり・佐久間綾乃・原田和佳・三國春・小川輝羅々・古谷優理亜・大平桃・川崎彩心・真鍋万琳・後藤希帆・由良あいこ

<四国学院大学香川西高校> 監督:菊地亜紗子

蜂須賀桃花・竹本愛・小栗栖遥・秋山来実・石丸瑠華・村村紗弥・弥園真奈・低田妃良莉・長坂彩香・木須みひろ・秋山みゆき・三宅星花・市川幸来・横田彩華・松永一紗・人見有咲・西山菜々・石橋春果・上田空那・山崎真子・森本彩輝・原田いずみ・杉本美和・浜浦美穂・金銅望海・酒野円花

<神村学園高等部> 監督:寺師勇太

若松杏海・坂口波・澤田瑞希・井手口怜央・古川陽菜・藤本日菜・神水流琴望・川浪実歩・西河詩乃・別府朋香・西口和花・河津理子・椎原惠美瑠・吉留ひなの・田上歩実・愛川陽菜・前中悠来・黒木愛理・立野ひなの・大脇聖菜・嘉数クレア姫麗・笠村凜・木戸ひなこ・稲田穂・片山真鞠・益田萌花・杉本真穂・小倉莉彩・福島莉聖・川野花歩

<柳ヶ浦高校> 監督:林和志

川内花純・中野沙和未・植木莉香・打越怜・小牧明日香・谷原彩花・富田幸実・中川亜美・宗岡胡桃・永野菜菜・篠原佐恵・安倍乃花・川添ゆづり・山口桃果・清水瑠那・黒木萌衣・和田碧・石井日菜・木田光咲・高須賀莉央・有馬寧音・鹿毛千聖・大迫弥桜・林受衍・加藤明星・三代淑世・笠紗佑里・山下颯瑠・西山遥・前田千廣

<東海大学付属福岡高校> 監督:山本ひろな

野美彩花・池田帆希・河村優子・古賀瞳・小緑瑠夏・房野瑠夏・持木楓音・吉村あかり・井上麗叶・津田杏椋子・高橋望華・谷口瑠依・徳永めい・田山有彩・香椎彩香・赤尾侑里・篠永美咲・村上純夏・津田和奏・西崎帆花・西川綾子・梅崎彩音・山田心優・赤嶺愛海・尾田すず・松田てん里・松崎こころ・斉藤彩乃・杉田幸樹・上永ひかり

<秀岳館高校> 監督:矢野君典

上原未羽・江洲佳奈彩・伊藤晶・木下咲帆・原田明子・高嶺侑珠・田中夏海・岡本聖・赤星日花莉・淵脇七海・島袋愛己・重松奏音・相浦幸桜・上柳歩美・山本春月・塩川心花・堀江莉奈・坂松麗伽・石本琉夏・長松里咲・マクナブ ケラーニ 芹華・合原幸・神野美空・新井愛海・下田和・伊崎小梅・Shin Hyorim・玉城亜海・大迫凜々香・香崎愛夢

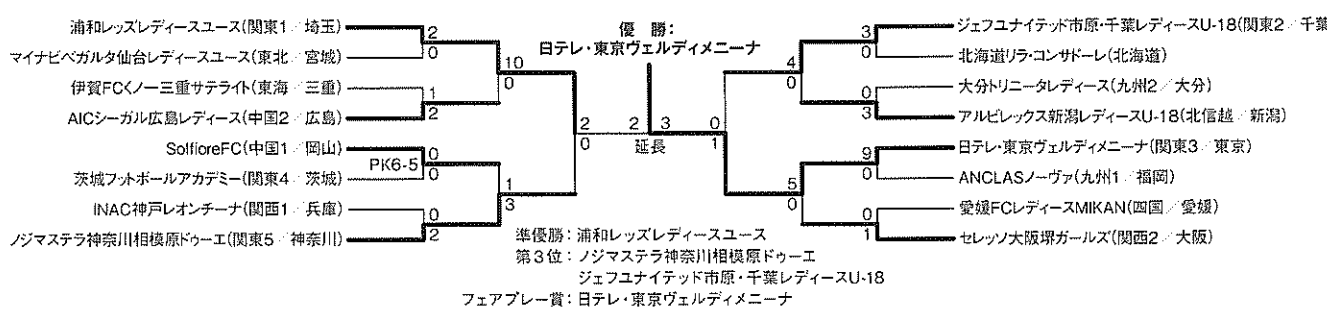
<神戸弘陵学園高校> 監督:山口実奈美

合田朱里・沖本梨央・亀谷梨桜乃・遠山清織・三丸あい・坊ノ内希愛・高垣心・高木珠羽奈・中村紅瑠子・鈴木葵生・山本真衣・尾形樹里亜・神田美咲・宮下祐奈・田畑天海・大場柚季・鈴木陽菜理・竹内彩加・佐藤由蓮・尾崎杏・河場なずな・和田依布姫・師田英利子・着倉由依・山本帆ノ果・下原璃音・村上あい・田畑真海・北野寛奈・大城綾

JFA 第24回全日本U-18女子サッカー選手権大会 JOCジュニアオリンピックカップ

JFAが主催する本大会は、JFAに女子登録した加盟チームおよび大会参加申込締切日(2020年11月24日)までに登録された2002(平成14)年4月2日から2008(平成20)年4月1日までに生まれた選手に出場資格が与えられた。今大会は1月3日~7日、大阪府のJ-GREEN堺で開催され、16チームが出場した。

※大会レポートは80ページに掲載



XF CUP 2020 第2回日本クラブユース 女子サッカー大会(U-18)

JFAが主催する本大会は、JFAに女子登録した加盟チームおよび日本クラブユースサッカー連盟に2020年8月30日までに登録された2002(平成14)年4月2日から2008(平成20)年4月1日までに生まれた選手に出場資格が与えられた。今大会は1月9日~17日、群馬県前橋市で開催され、16チームが出場した。

※大会レポートは81ページに掲載

■グループステージ

順位	グループA	日体大	メニーナ	リンド	水沢	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	日体大FIELDS横浜U18 (関東1・神奈川)		1△1	5○0	7○0	7	2	1	0	13	1	12
2	1FC川越水上公園メニーナ (関東7・埼玉)	1△1		2○1	10○0	7	2	1	0	13	2	11
3	クラブフィアールズ・リンド (北海道1・北海道)	0●5	1●2		1△1	1	0	1	2	2	8	-6
4	水ぶユナイテッドFC・ブルベス (東北1・岩手)	0●7	0●10	1△1		1	0	1	2	1	18	-17

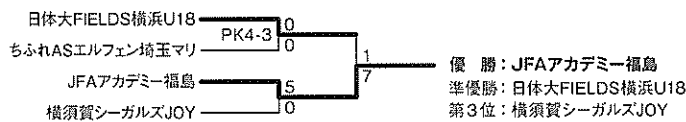
順位	グループC	福島	ザンバ	アンジュオレ	長野	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	JFAアカデミー福島 (東海1・静岡)		8○0	13○1	10○0	9	3	0	0	31	1	30
2	ザンバ/沼津レディースU18 (関東5・群馬)	0●8		0△0	7○2	4	1	1	1	7	10	-3
3	アンジュオレBINGO (中国1・広島)	1●13	0△0		2△2	2	0	2	1	3	15	-12
4	AC長野パルセイロ・ジュニアスター (北信越1・長野)	0●10	2●7	2△2		1	0	1	2	4	19	-15

順位	グループB	ちふれ	名古屋	スフィーダ	ソルフィオーレ	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	ちふれASエルフェン埼玉マリ (関東3・埼玉)		2○1	1●2	8○0	6	2	0	1	11	3	8
2	NGUラブリッジ吉野アスター (東海2・愛知)	1●2		2○1	5○1	6	2	0	1	8	4	4
3	スフィーダ宮田FCユース (関東4・東京)	2○1	1●2		4○0	6	2	0	1	7	3	4
4	ソルフィオーレFC (中国2・岡山)	0●8	1●5	0●4		0	0	0	3	1	17	-16

順位	グループD	シーガルズ	バサラ	大和	高知	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	横須賀シーガルズJOY (関東2・神奈川)		3○0	6○1	7○1	9	3	0	0	16	2	14
2	FCバサラ甲賀レディース (関西1・滋賀)	0●3		1△1	7○1	4	1	1	1	8	5	3
3	大和シルフィードU-18 (関東6・神奈川)	1●6	1△1		2○1	4	1	1	1	4	8	-4
4	高知エナジー・SCレディース (四国1・高知)	1●7	1●7	1●2		0	0	0	3	3	16	-13

○勝ち(勝点3)、△引き分け(勝点1)、●負け(勝点0)

■ノックアウトステージ



<3位決定戦>ちふれASエルフェン埼玉マリ 1-3 横須賀シーガルズJOY

準決勝

日体大FIELDS横浜 0 (前半0-0 後半0-0) 0 ちふれASエルフェン埼玉マリ
PK4-3

●2021年1月16日 10:00 ●群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場 ●試合時間:90分
PK ●審判員:[主審]一木千広 [副審]高橋早織 狩野好子 [第4の審判員]新井恵子
●観衆:0人

日体大(監督:石田直子):[GK](5)杉山美優 [DF](2)水本英里(4)川出真子(18)村松愛華(21)岡村歩実 [MF](3)石川花菜<-63'(16)山本藍->+90+2'(20)渡久地萌恵>(7)海老名琴美(11)酒井水蘭(17)西村萌 [FW](9)熊田季海<-76'(8)阪本環>(10)柴原希保

控え:(1)衣笠瑛(6)佐藤真純(22)北島千笑(24)森田帆乃夏

ちふれ(監督:大須賀まき):[GK](22)小河菜々 [DF](2)小林舞美(3)松本はな(4)藤倉杏<-37'(23)小松愛>(5)木南花菜(17)山片瞳 [MF](6)橋本采奈(10)岩瀬純弥(14)小田千尋(18)鈴木幸音(20)佐藤菜々花

控え:(8)森本陽菜(11)坂上舞(19)古川晴海(24)小池霞蓮(25)大宮琴冬音(59)長谷川璃乃

PK [日体大]先(10)○(11)○(17)○(2)×(8)×(5)○
[ちふれ] (5)○(10)○(23)○(6)×(14)×(18)×

3位決定戦

ちふれASエルフェン 1 (前半0-2 後半1-1) 3 横須賀シーガルズJOY

●2021年1月17日 10:00 ●群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場 ●試合時間:90分
●審判員:[主審]高橋早織 [副審]桐原純子 新井恵子 [第4の審判員]新井智也
●観衆:0人

ちふれ(監督:大須賀まき):[GK](22)小河菜々 [DF](2)小林舞美(3)松本はな(4)藤倉杏<-84'(20)佐藤菜々花>(5)木南花菜(17)山片瞳 [MF](6)橋本采奈(10)岩瀬純弥(14)小田千尋(18)鈴木幸音(23)小松愛

控え:(11)坂上舞(13)小田部珠涼(19)古川晴海(24)小池霞蓮(25)大宮琴冬音(46)石川杏佳

シーガルズ(監督:桑原由恵):[GK](1)田倉麗花 [DF](33)相沢凜子<-89'(42)宮内咲希>(62)浦海綾(63)大江晴花(93)清水萌衣 [MF](34)森田優乃(54)青木純(57)唐沢芽依(76)鈴木万尋<-19'(79)須藤理奈->+90+2'(27)吉田海結 [FW](14)室井胡心(67)宗田七海<-85'(24)片山羽蘭>

控え:(37)須藤藍子(51)伊藤優(96)工藤文香

得点 [ちふれ]70'鈴木幸音(1-3)
[シーガルズ]20'、45+1'森田優乃(0-1)(0-2)、50'青木純(0-3)

準決勝

JFAアカデミー福島 5 (前半4-0 後半1-0) 0 横須賀シーガルズJOY

●2021年1月16日 13:00 ●群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場 ●試合時間:90分
●審判員:[主審]桐原純子 [副審]草処和江 小林幸子 [第4の審判員]阿久津弘美 ●観衆:0人

ac福島(監督:山口隆文):[GK](1)大場朱羽 [DF](2)城和怜奈(3)佐藤朱莉<-HT(15)内村心優>(4)石川瑠音(17)佐々木里緒<-62'(5)石川くらら> [MF](7)沼尾圭都(8)渡部麗(10)伊藤めぐみ(14)松窪真心<-HT(6)玉川実奈>(16)林愛花<-52'(11)松原星空> [FW](9)太田萌咲<-HT(20)谷川萌々子>

控え:(12)服部西夕香(13)濱野穂乃香

シーガルズ(監督:桑原由恵):[GK](37)須藤藍子 [DF](62)浦海綾<-75'(65)山田ひな乃>(78)宮野碧生<-HT(33)相沢凜子>(90)彦坂優奈<-HT(67)宗田七海>(93)清水萌衣 [MF](34)森田優乃<-68'(52)木澤彩葉>(54)青木純(57)唐沢芽依(76)鈴木万尋(79)須藤理奈<-59'(63)大江晴花> [FW](14)室井胡心

控え:(1)田倉麗花(24)片山羽蘭

得点 [ac福島]4'、23'松窪真心(1-0)(2-0)、26'沼尾圭都(3-0)、43'渡部麗(4-0)、84'谷川萌々子(5-0)

決勝

日体大FIELDS横浜 1 (前半1-3 後半0-4) 7 JFAアカデミー福島

●2021年1月17日 13:00 ●群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場 ●試合時間:90分
●審判員:[主審]草処和江 [副審]一木千広 阿久津弘美 [第4の審判員]小林幸子 ●観衆:0人

日体大(監督:石田直子):[GK](5)杉山美優 [DF](2)水本英里(4)川出真子(18)村松愛華<-90+2'(24)森田帆乃夏>(21)岡村歩実 [MF](3)石川花菜<-35'(17)西村萌>(7)海老名琴美(11)酒井水蘭(16)山本藍<-74'(8)阪本環> [FW](9)熊田季海(10)柴原希保<-80'(6)佐藤真純>

控え:(1)衣笠瑛(20)渡久地萌恵(22)北島千笑

ac福島(監督:山口隆文):[GK](1)大場朱羽 [DF](2)城和怜奈(3)佐藤朱莉(4)石川瑠音<-81'(19)中村崇実>(17)佐々木里緒<-67'(15)内村心優> [MF](7)沼尾圭都(8)渡部麗(10)伊藤めぐみ(14)松窪真心<-60'(11)松原星空> [FW](16)林愛花<-HT(20)谷川萌々子>(9)太田萌咲<-56'(6)玉川実奈>

控え:(12)服部西夕香(5)石川くらら

得点 [日体大]24'熊田季海(1-2)
得点 [ac福島]3'城和怜奈(0-1)、12'渡部麗(0-2)、28'、50'太田萌咲(1-3)(1-4)、63'谷川萌々子(1-5)、78'沼尾圭都(1-6)、90+3'玉川実奈(1-7)

準決勝

インテルナショナルジャパン 3 (前半1-3 後半2-2) 5 フウガドールすみだウイングス

●2021年1月11日 10:50 ●三重県営サンアリーナ ピッチA ●試合時間:30分 ●審判員:[主審]池田幸弘 [第2審判]波多野祐一 [第3審判]松尾久美子 [タイムキーパー]増田圭佑 ●観衆:110人

Table with 2 columns of player statistics including name, jersey number, position, and status.

得点 [インテルナショナル]5'池田航大(1-1)、21'、24'松田心晴(2-3)(3-3) [フウガドール]1'竹下藍登(0-1)、15'國吉陽向(1-2)、15'、24'帆足江(1-3)(3-4)、29'小川陸(3-5)

警告 [インテルナショナル]29'池田航大

[参加選手]

<道都Jrユース> 監督:小助川真木 小野寺信・竹田風汰・加我咲大・佐々木比呂・佐々木陽空・村本柁生・福永賢心・澤内史哉・茂俣勇気・松崎大和・北嶋遥・嶋田望良・今枝羅衣摩・大槻社二郎・大館駿晴・島山泰地・鈴木大翔・小池雄大・竹内奏登・菅原瑠希也

<エスフォルソ> 監督:福田和由 櫻庭光・谷口洋斗・西木奏・木村優・阿部敏大・佐藤悠真・福田浩志・中畑樹・角田紳之輔・鈴木陸久・梅本麗空

<アスクラロ函館U-15> 監督:石田潤輝 田原樹希・中村幹・對馬柚・相原青晃・山下悠聖・竹原楓翔・小川理致・浜谷瑠璃明・青山潤・大高勇斗・山本央太郎・高杉海・山崎彪大朗・長谷川空臥・山崎凌誠・木下翔

<会津サントスFC> 監督:仲田道徳 中根優斗・小瀧和音・渡部史也・渡部風斗・馬場比呂・皆藤陽斗・渡部昊斗・遠藤圭梧・渡部輝良・渡部心・鈴木悠真

<フウガドールすみだウイングス> 監督:萩窪孝 入江悠斗・田中時桜・春日陵河・佐々木翔平・帆足江・木村海翔・福田陽仁・宮田博平・國吉陽向・小川陸・石塚丈・竹下藍登・高橋寛生・山口大輝・高木瀨那・石井想一郎・安西和輝・吉井大雅・内海翔太・湯本煌己

<長岡JYFC> 監督:山崎太一 加納崇雅・民部凌也・山本凌大・船津圭汰・中川幹士・吉原巧也・春日龍二・星光・大川風磨・内山開翔・田中雄季斗・浅井船・富永煌成・本田タイヨウ・レオン・大宮佑真・渡辺創士・原社信・田崎碧流・平澤諒珂・高萩優太

<エフスリーU-15> 監督:佐藤英行 玉木暖・犬飼曉海・後藤太一・大橋義隆・渡辺陽翔・土橋奏太・加藤祐羽・宇田崇人・齋藤悠來

<プリンカールFC> 監督:古居俊平 望月奎社・太田智也・長田涼平・大堀陽南太・松永彩吹・オラツンジ アダム・飯村太基

<FCレスタ-U-15> 監督:瀬沼大祐 北村欽浩・堀江勇佑・馬淵元気・佐波健太郎・高橋主磨・佐藤快士・長尾謙信・高橋祥吾・川瀬航輝・服部健真・山本和真・山内楓月・黒田剛峻・上久保悠杏・若園大陸・伊藤小実・吉村友樹

<インテルナショナルジャパン> 監督:若原宏昌 松本悠希・門田福・福田恒成・時澤初輝・岩本宗一郎・安田勇太・梅本國士・池田航大・大西博貴・倉内桜久・川口琥牙・松田心晴・藤原生吹・矢野涼羽・松島和樹・大西雄一朗・小林大起・橋本翔磨・三宮晃・松岡幸助

<ドリームFC> 監督:桑野賢二 米村隼馬・箱田日翔・門田登真・濱田知樹・原竜馬・長瀧陽貴・上田琥太郎・牧野修士・山崎翔真・長井瑛之介・古川晴歩・四広優馬・岩倉一樹・入澤嵩

<Jフィールド岡山F.C.> 監督:宮下俊 中務裕大・柿木温真・長谷川悠衣・西村大和・草薙尚哉・平木壯門・虫明勇咲・山本晃大・野口温人・西村研音・眞鍋隆聖・川上蒼太・太田翔仁・樋口琉生・二宮涼太郎・北村雄河・田中秀明・本田世成・蓮井樹

準決勝

プリンカールFC 11 (前半7-3 後半4-4) 7 ドリームFC

●2021年1月11日 10:50 ●三重県営サンアリーナ ピッチC ●試合時間:30分 ●審判員:[主審]大矢翼 [第2審判]増田亜希 [第3審判]山崎香織 [タイムキーパー]萩尾麻衣子 ●観衆:110人

Table with 2 columns of player statistics including name, jersey number, position, and status.

得点 [プリンカール]2'、22'、24'オラツンジ アダム(1-1)(9-5)(10-6)、3'大堀陽南太(2-1)、4'、8'、25'長田涼平(3-1)(5-1)(11-6)、5'、9'、18'飯村太基(4-1)(6-1)(8-3)、10'松永彩吹(7-1) [ドリーム]1'、13'、21'、23'、29'上田琥太郎(0-1)(7-3)(8-5)(9-6)(11-7)、13'長井瑛之介(7-2)、21'原竜馬(8-4)

警告 [プリンカール]2'、22'、24'オラツンジ アダム(1-1)(9-5)(10-6)、3'大堀陽南太(2-1)、4'、8'、25'長田涼平(3-1)(5-1)(11-6)、5'、9'、18'飯村太基(4-1)(6-1)(8-3)、10'松永彩吹(7-1) [ドリーム]1'、13'、21'、23'、29'上田琥太郎(0-1)(7-3)(8-5)(9-6)(11-7)、13'長井瑛之介(7-2)、21'原竜馬(8-4)

[参加選手]

決勝 フウガドールすみだウイングス 3 (前半1-2 後半2-2) 4 プリンカールFC

●2021年1月11日 13:50 ●三重県営サンアリーナ ●試合時間:30分 ●審判員:[主審]池田幸弘 [第2審判]大矢翼 [第3審判]波多野祐一 [タイムキーパー]山崎香織 ●観衆:120人

Table with 2 columns of player statistics including name, jersey number, position, and status.

得点 [フウガドール]10'山口大輝(1-2)、22'小川陸(2-3)、30'竹下藍登(3-4) [プリンカール]6'、9'オラツンジ アダム(0-1)(0-2)、21'、29'長田涼平(1-3)(2-4)

警告 [フウガドール]13'帆足江

<高知中学校> 監督:森本稔 榎並谷礼央・高木弾司・細川翔幸・森紺・酒井良汰・氏原輝空・狩野祐透・岡岡春陽・松井貴太・大野理智・足達柁侍郎・湯澤作・小野響輝・松田翔空

<北谷中学校> 監督:森本稔 名嘉真朝也・与那原大・浦崎康汰・瑞慶山涼生・前原琉生・長間結輝・嘉陽田蓮・新城守琉・知念寛平

<フロレンエース> 監督:福永翔 打越優歩・馬場結叶・山内輝翔・黒木功・庄司尚生・平口陸聖・本田悠翔・岩崎心・田重祐祐・宮奥偉佑・杉原拓真・吉田李優志・小橋大地・熊野弘希・古川翔大・馬渡空都・高城大和・月足光汰・山下飛宙・野田耕士朗

<津ラビドFC> 監督:澤田一雄 瀬分悠・原田海誠・大西遥・早川怜・川岸暖・中島晴信・福本開・井ノ口相太・山本伊織・野呂風晟・鳴川幸輝・上田悠翔・大山恵琉・森駿介・井内啓太・八木涼介・伊伏空久・久保貴大

DATA BOX

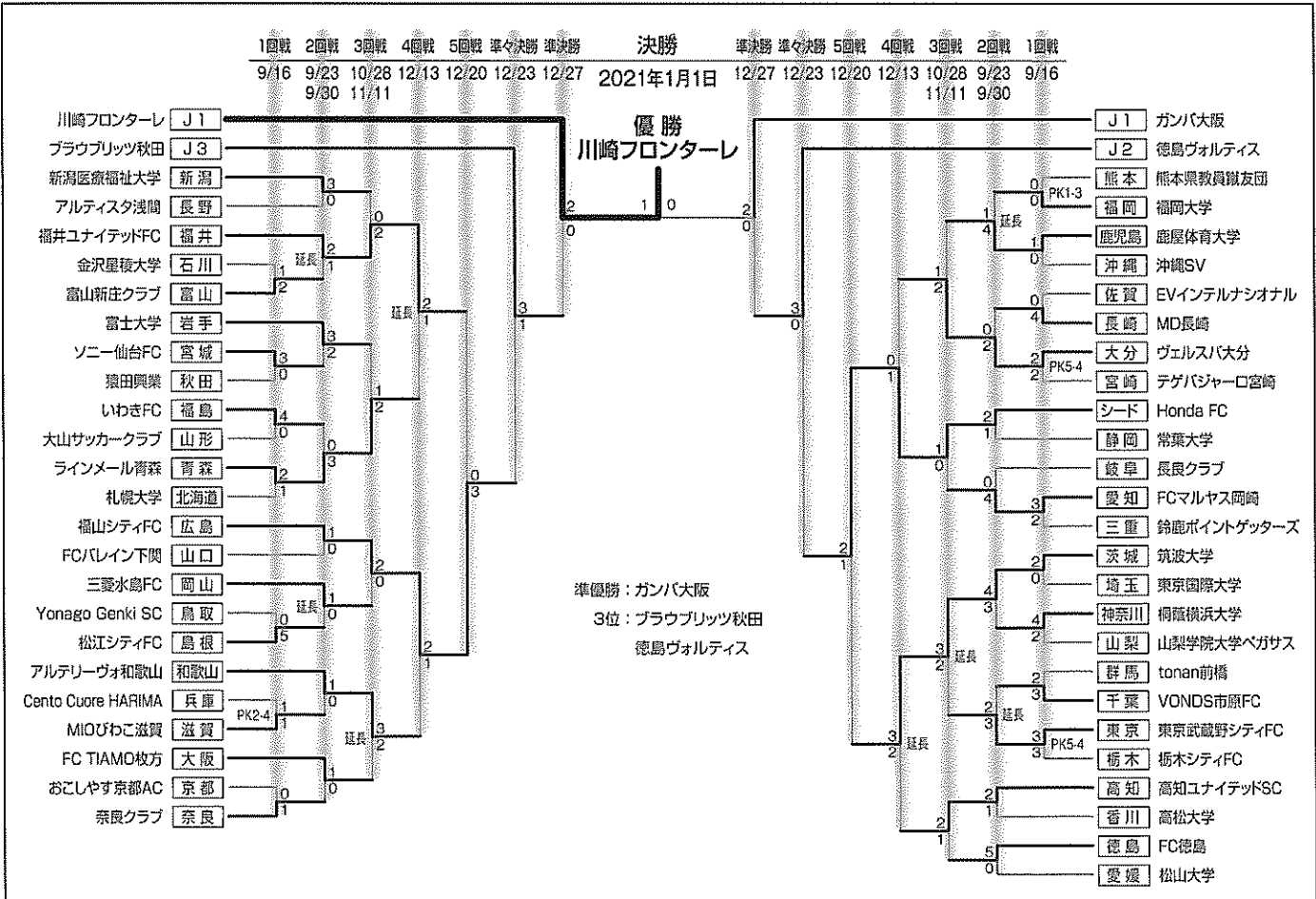


天皇杯 JFA 第100回 全日本サッカー選手権大会

第1部 大会結果一覧 P54 第2部 全試合公式記録 P55 第3部 参加52チーム・登録選手 P61

大会概要

主催	公益財団法人 日本サッカー協会 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ	大会日程	1回戦 9月16日(水) [予備日: 9月23日(水)] ※都道府県代表 32チーム出場
共催	NHK 共同通信社 ※上記に加え、1回戦～準々決勝は各開催会場の都道府県に所在する共同通信加盟新聞社が共催	2回戦	9月23日(水)・30日(水) [予備日: 9月30日(水)] ※アマチュアシード、都道府県代表 15チーム出場
主管	都道府県サッカー協会	3回戦	10月28日(水)・11月11日(水) [予備日: 11月11日(水)]
協賛	特別協賛: ニチバン株式会社 JFA Youth & Development Official Partner アイリスオーヤマ株式会社、トヨタ自動車株式会社、ニチバン株式会社、株式会社モルテン 協賛: 株式会社クレディセゾン	4回戦	12月13日(日) [予備日: 12月14日(月)]
大会方式	52チームによるノックアウト方式	5回戦	12月20日(日) [予備日: 12月21日(月)]
出場チーム	全52チーム J1・2チーム (2020 明治ア田田生命 J1 リーグ成績上位 2チーム) J2・J3・各 1チーム (2020 明治ア田田生命 J2・J3 リーグ成績上位各 1チーム) アマチュアシード 1チーム (※) 都道府県代表 / 47チーム ※日本フットボールリーグ (JFL) から選出 / Honda FC	準々決勝	12月23日(水) [予備日: 12月24日(木)] ※ J2・J3 リーグ各 1チーム出場
		準決勝	12月27日(日) [予備日: 12月28日(月)] ※ J1 リーグ 2チーム出場
		決勝	1月1日(金祝)
		表彰	優勝 天皇杯、JFA 杯、FA シルバークップ、表彰状、メダル、NHK 杯、共同通信社杯、JOC 杯、ドイツ杯 準優勝 表彰状、メダル、NHK 杯、共同通信社杯
		チーム強化費	優勝 100,000,000 円 準優勝 30,000,000 円 第3位 10,000,000 円 (1チームあたり)





第2部 全試合公式記録

7 1回戦

東京武蔵野シティFC 3 [前半0-0 後半3-3] 3 橋本シティFC
PK5-4

●2020年9月16日 16:04 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:90分・延長30分・PK戦 ●【主審】徳元希【副審】長谷川雅/増山晃【第4の審判員】大村拓馬 ●マッチコミッショナー:永井利幸 ●観衆:0人

[GK] 41 本田 出	[GK] 1 大石文弥
→ 120'(1)西岡佑馬	[DF] 7 鈴木隆雅
[DF] 22 全井洵樹	[DF] 2 内田隼平
→ HT(16)中川諒真	[DF] 22 永見麻
[DF] 2 高慶汰	[DF] 27 丹野裕太
[DF] 30 望月湧斗	[DF] 4 岡本洵
[DF] 17 小口大貴	[MF] 19 関戸裕希
[MF] 23 差波優人	→ 83'(33)阿部巧
[MF] 7 岩田啓佑	[MF] 14 清水貴文
→ 74'(26)後藤準弥	→ 71'(17)若杉好輝
[MF] 5 鈴木裕也	→ 101'(6)高地泰治
→ 104'(8)小林大地	[MF] 20 飯島翼
[MF] 14 本田圭佑	→ 71'(18)田中輝希
→ 71'(9)田口光樹	[FW] 23 吉田篤志
[MF] 28 池田直樹	→ 83'(15)田中寛己
[FW] 18 石原幸治	[FW] 24 黒石川瑛
→ 88'90+4'田口光樹(1-3)(3-3)90+1'石原幸治(2-3)	→ 75'(13)岡庭裕貴
得点	60'内田隼平(0-1), 73'永見麻(0-2), 78'吉田篤志(0-3)
102'鈴木裕也、118'石原幸治	警告: 46'吉田篤志、67'永見麻
18x、90、230、80、20、160	PK [先]70、180、20、13x、220、4x

8 1回戦

金沢星稜大学 1 [前半1-0 後半0-2] 2 富山新庄クラブ

●2020年9月16日 15:00 ●金沢市民サッカー場 ●試合時間:90分 ●【主審】上原直人【副審】小野裕太/塚原優【第4の審判員】表慶 ●マッチコミッショナー:館野宏之 ●観衆:0人

[GK] 28 島山諒介	[GK] 31 穴戸綾
[DF] 7 中川俊逸	[DF] 3 坂本雅哉
[DF] 22 佐山徹	[DF] 18 五百崎和幸
→ 69'(2)河村拓海	[MF] 4 平原隼也
[DF] 5 小園悠馬	[MF] 11 中田大貴
[DF] 13 前田亮太郎	[MF] 13 平野甲斐
→ 69'(10)窪田開	[MF] 17 齊藤和也
[DF] 6 羽二生将人	→ 80'(10)細木勇人
[MF] 14 杉本峻斗	[MF] 23 牛田敦也
[MF] 17 山崎推智	[MF] 32 森泰次郎
[MF] 9 青木駿汰	[FW] 6 山田貴仁
[MF] 4 内海三矢	[FW] 20 山田哲也
→ 69'(21)花枝龍之介	→ 80'(27)田口泰哉
[MF] 8 河野隼平	
→ 74'(25)船戸一輝	
25'山崎推智(1-0)	得点
	67'山田哲也(1-1), 90'細木勇人(1-2)
	警告: 61'中田大貴

9 1回戦

FCマルヤス岡崎 3 [前半2-1 後半1-1] 2 鈴鹿ポイントゲッターズ

●2020年9月16日 19:00 ●パロマ瑞穂スタジアム ●試合時間:90分 ●【主審】宇治原拓也【副審】舟橋崇正/安川公規【第4の審判員】土井貴弘 ●マッチコミッショナー:西牟田明夫 ●観衆:448人

[GK] 41 角井崇太郎	[GK] 30 セルヒオ・アレナス
[DF] 37 飯田真輝	[DF] 34 野口遼太
[DF] 33 多々良敬斗	[DF] 3 川里光太郎
[DF] 22 森本大貴	[DF] 4 キロラン木鈴
[MF] 16 地主園秀美	→ 51'(11)遠藤純輝
[MF] 15 青木翼	[MF] 14 遠沼翔太
→ 90+2'(6)大塚勇気	[MF] 6 藤田浩平
[MF] 13 塩見仁	→ 73'(28)小澤司
[MF] 7 阪本将基	[MF] 10 和田篤紀
→ 81'(23)サムエル・アウバス	[MF] 19 海口彦太
[MF] 30 船谷圭祐	→ 80'(16)小口大司
[FW] 36 犬飼翔洋	[MF] 18 佐藤和馬
→ 90+2'(18)高橋優希	→ 51'(20)中村俊貴
[FW] 14 平井将生	[MF] 25 出岡大輝
→ 62'(8)寺尾憲祐	→ 51'(7)エフライン・リタロウ
	[FW] 15 菊島卓
7'平井将生(1-0), 29'64'船谷圭祐(2-1)(3-1)	得点
22'角井崇太郎、90+4'森本大貴	24'和田篤紀(1-1), 88'遠藤純輝(3-2)
	警告: 試合後ミラゴス・マルティネス

4 1回戦

筑波大学 2 [前半0-0 後半2-0] 0 東京国際大学

●2020年9月16日 19:00 ●ひたちなか市総合運動公園陸上競技場 ●試合時間:90分 ●【主審】山下良美【副審】伊勢裕介/小室博明【第4の審判員】住吉圭介 ●マッチコミッショナー:金澤聡 ●観衆:299人

[GK] 1 櫻庭立樹	[GK] 21 林祥太郎
[DF] 2 山原啓音	[DF] 2 石川綾祐
[DF] 23 森佑里	[DF] 5 塩野清輝
[DF] 3 角田涼太郎	[DF] 3 山原康太郎
[DF] 28 遠藤海斗	[DF] 30 森賢太郎
→ 90'(8)知久航介	→ 80'(15)森大輝
[MF] 5 井川空	[DF] 24 高橋大
[MF] 4 山内翔	→ 80'(14)西野隼男
[MF] 17 加藤匠人	[MF] 13 落合隆
→ 90'(12)田嶋翔	[MF] 6 小林友也
[MF] 9 小林幹	→ 64'(25)川島日明
→ 79'(6)三浦雅人	[MF] 20 福島健太
[MF] 15 池谷祐輔	→ 72'(10)有水亮
→ 79'(27)瀧良俊太	[FW] 9 伊谷陽生
[FW] 13 和田育	→ 64'(11)岡崎相生
→ 70'(11)森海遼	[FW] 7 宇高魁人
57'加藤匠人(1-0), 87'山原啓音(2-0)	得点
	警告: 20'小林友也、51'高橋大

5 1回戦

桐蔭横浜大学 4 [前半1-0 後半3-2] 2 山梨学院大学ベガサス

●2020年9月16日 19:03 ●Shonan BMW スタジアム平塚 ●試合時間:90分 ●【主審】梅田智哉【副審】若松亮/前田理行【第4の審判員】本多文哉 ●マッチコミッショナー:八巻智男 ●観衆:246人

[GK] 1 早坂勇希	[GK] 21 辻岡拓真
[DF] 13 上田駿斗	[DF] 16 小澤恭也
→ 66'(2)浅野嵩人	→ HT(26)池澤輝輝
[DF] 3 遠藤凌	[DF] 5 児玉征哉
[DF] 25 中野就斗	→ 73'(20)佐々木龍生
[DF] 5 岩下航	[DF] 22 大塚輝士
[MF] 7 神垣陸	→ 56'(33)西雅人
→ HT(28)井出真太郎	[DF] 17 河辺壮雄
[MF] 32 高木俊希	[MF] 7 樋口希望
[MF] 6 橋田健人	[MF] 15 中村臣
→ 88'(8)加々美登生	→ 66'(34)早坂卓巳
[FW] 15 園田将良	[MF] 2 丸山圭太
→ 69'(9)松本幹太	→ 56'(11)増澤陸斗
[FW] 24 寺沼星文	[MF] 10 大塚前太郎
→ HT(26)山田新	[MF] 8 小野真稔
[FW] 10 鳥海芳樹	[FW] 18 本多啓佑
7'寺沼星文(1-0), 71'遠藤凌(2-1), 86'山田新(3-1), 90+1'中野就斗(4-1)	得点
	67'樋口希望(1-1), 90+3'早坂卓巳(4-2)
	警告: 79'山田新

6 1回戦

tonan前橋 2 [前半0-0 後半2-3] 3 VONDS市原FC

●2020年9月16日 14:00 ●群馬県立敷島公園サッカーラグビー場 ●試合時間:90分 ●【主審】大橋尚祐【副審】加藤正和/橋本真光【第4の審判員】三田隆幸 ●マッチコミッショナー:中村祐 ●観衆:0人

[GK] 1 高田鴻	[GK] 1 原田直樹
[DF] 6 田中淳	[DF] 13 原田大雅
[DF] 21 マルキーニョス	[DF] 2 橋田周作
[DF] 2 深瀬大貴	[DF] 26 藤田大道
[DF] 28 帖佐知樹	[DF] 27 齋藤亮太
[MF] 16 澤田貴史	[MF] 16 大木暁
[MF] 20 濱谷幹汰	[MF] 6 北原毅之
→ 75'(11)宮崎明浩	→ 78'(22)西敏裕太
[MF] 15 亀井一	[MF] 20 関口直人
→ 90'(9)山腰泰博	→ 70'(10)野田卓宏
[MF] 7 額賀優斗	[MF] 32 齋藤悠馬
[FW] 19 吉内雅人	→ 70'(7)小野祐輔
→ 74'(13)遠藤佑真	[FW] 17 沼大希
[FW] 32 キリエルミ	→ 59'(15)二瓶賢
	[FW] 8 峯勇斗
	→ 59'(9)池田晃太
50'79'額賀優斗(1-0)(2-1)	得点
	58'齋藤亮太(1-1), 81'87'池田晃太(2-2)(2-3)
	警告: 20'大木暁、52'原田大雅

1 1回戦

ソニー仙台FC 3 [前半1-0 後半2-0] 0 狹田興業

●2020年9月16日 19:00 ●ユアテックスタジアム仙台 ●試合時間:90分 ●【主審】佐藤誠和【副審】宇田川泰弘/中村一貴【第4の審判員】杉野吉紗 ●マッチコミッショナー:齋藤仁 ●観衆:203人

[GK] 26 佐川雅寛	[GK] 1 安田健太
[DF] 25 石上輝	[DF] 4 木内隼
→ 73'(15)鈴木啓太郎	[DF] 14 熊谷瑛登
[DF] 14 吉野達	[DF] 23 林拓希
[DF] 23 金子貴裕	→ 78'(13)五十嵐知弘
→ 78'(3)萩原健太	[DF] 26 藤澤勇太郎
[DF] 16 松本拓海	[MF] 7 鎌田一平
[DF] 24 吉川佳介	[MF] 11 土屋健太
[MF] 5 平田健人	[MF] 16 佐藤勇矢
[MF] 7 吉森恭兵	[MF] 19 菅原嵩
[MF] 17 藤原元輝	[FW] 6 日黒貴大
→ 66'(13)金井冬士	[FW] 8 伊賀谷昂貴
[MF] 18 秋元佑太	
→ HT(11)丹代政彦	
[FW] 2 三浦祐希	
→ HT(10)山崎一航	
45'秋元佑太(1-0), 61'平田健人(2-0), 89'鈴木啓太郎(3-0)	得点

2 1回戦

いわぎFC 4 [前半1-0 後半3-0] 0 大山サッカークラブ

●2020年9月16日 15:00 ●Jヴィレッジスタジアム ●試合時間:90分 ●【主審】塚原健【副審】荒上修人/渡辺隼人【第4の審判員】中村悠二 ●マッチコミッショナー:川原敏弘 ●観衆:0人

[GK] 31 似鳥康太	[GK] 23 阿部寛心
[DF] 4 ウェズレイ・ロドリゲス	[DF] 3 佐藤孝俊
[DF] 20 黒澤丈	→ 53'(14)名古祐介
→ HT(17)谷村海那	[DF] 4 森田瑞樹
→ 70'(19)岩淵弘人	→ 81'(2)阿部和樹
[DF] 26 増嶋大樹	[DF] 5 佐藤新
[DF] 6 平澤俊輔	[DF] 16 齋藤龍
[MF] 25 寺村浩平	[MF] 8 池田大郎
[MF] 33 前田尚輝	[MF] 6 本間礼史
[MF] 13 松本健太郎	→ 81'(10)佐藤貴浩
[FW] 10 平岡将泰	[MF] 11 梅木拓
[FW] 11 滝沢昂司	[MF] 7 渡部翔吾
[FW] 7 片山幹	[FW] 21 伊勢陽平
	[FW] 9 木村比呂
29'松本健太郎(1-0), 60'谷村海那(2-0), 77'滝沢昂司(3-0), 90+4'平岡将泰(4-0)	得点

3 1回戦

ラインメール青森 2 [前半0-1 後半2-0] 1 札幌大学

●2020年9月16日 13:00 ●プライアーススタジアム ●試合時間:90分 ●【主審】植松健太郎【副審】清水拓/高橋悠【第4の審判員】山崎智貴 ●マッチコミッショナー:品川信道 ●観衆:130人

[GK] 41 末次敦貴	[GK] 1 園田将平
[DF] 29 水野隼人	[DF] 3 中山和紀
[DF] 18 井上友也	[DF] 5 佐藤祐那也
[DF] 13 石澤善己	→ 73'(4)山田広大
→ 83'(17)廣瀬智行	[DF] 10 相田勇樹
[MF] 6 西宮隆規	[MF] 7 高橋耕平
→ 90'(19)松岡ジョナタン	[MF] 8 山内陸
[MF] 9 堀研太	[MF] 11 野瀬陸
→ 90'(22)阿部龍月	[MF] 14 高橋歩武
[MF] 14 法蘭人裕大	→ 58'(18)藤塚達
[MF] 25 中島亮	[MF] 23 藤本録城
[FW] 16 和岡輝	→ 90+1'(19)山本大
[FW] 23 田中康平	[MF] 26 向井ひなた
→ 65'(8)柳原啓輔	→ 73'(17)南谷陽介
[FW] 27 新田裕平	[MF] 38 小笠原大将
→ 65'(26)浜田幸哉	→ 73'(24)和田悠世
70'柳原啓輔(1-1), 88'浜田幸哉(2-1)	得点
	18'向井ひなた(0-1)
	警告: 38'相田勇樹、60'齋藤達

24 2回戦

長良クラブ FCマルヤス岡崎
0 [前半0-3 後半0-1] 4

●2020年9月23日 19:00 ●岐阜メモリアルセンター長良川競技場
●試合時間:90分 ●[主審]大橋祐祐[副審]橋本真光/中村学[第4の審判員]新開啓太郎 ●マッチコミッショナー:尾関孝昭 ●観衆:459人

[GK] 1 升形康太 [DF] 7 伊藤大輝 → 78'(17)市川兼伍 [DF] 3 渡邊良太郎 [DF] 6 村瀬大地 [DF] 35 岸本英障 [DF] 5 大村海太 [MF] 13 小出知広 → 65'(18)井上健二 [MF] 29 酒井航希 → 78'(11)田口風真 [MF] 9 佐藤優 → 65'(10)杉山和希 [MF] 8 丸山義貴 [FW] 28 松山大成 → 53'(14)向井洗	出 場 選 手	[GK] 41 角井崇太郎 [DF] 37 飯田真輝 [DF] 33 多々良敦斗 [DF] 22 森本大貴 [MF] 2 小野雅史 → 58'(8)寺尾憲祐 [MF] 13 塩見仁 → 80'(23)サムエル・アウベス [MF] 7 阪本将基 → 69'(6)大塚勇気 [MF] 15 青木翼 [MF] 30 船谷圭祐 [FW] 27 津田知宏 [FW] 36 大飼翔洋 → 69'(18)橋橋優希	出 場 選 手
---	------------------	---	------------------

14'43'大飼翔洋(0-1)(0-3)、
得点 40'津田知宏(0-2)、72'寺尾憲祐(0-4)

48'丸山義貴、73'杉山和希 警告 83'青木翼

25 2回戦

アルテリヴェオ和歌山 MIOびわこ滋賀
1 [前半1-0 後半0-0] 0

●2020年9月23日 18:15 ●和歌山県紀三井寺公園陸上競技場
●試合時間:90分 ●[主審]花川雄一[副審]柳田翔/井出本雄[第4の審判員]辻本征浩 ●マッチコミッショナー:川島健 ●観衆:393人

[GK] 21 桑水流拓也 [DF] 14 三浦修 → 69'(2)中濱颯斗 [DF] 3 加納隼 [DF] 22 白明哲 [DF] 18 村上拓人 [MF] 26 堀野翔 → 90+1'(5)松野大輝 [MF] 7 大北啓介 [MF] 23 加藤健人 → 90'(6)石垣徳之 [MF] 13 井ノ内拓也 → 78'(19)安川常聖 [MF] 20 辻村剛史 → 78'(8)山本大樹 [FW] 11 久保裕一 27'大北啓介(1-0)	出 場 選 手	[GK] 21 笠原淳 [DF] 29 西口諒 [DF] 22 内野貴志 [DF] 26 角田駿 [DF] 3 菅谷政博 → HT(14)小畑勝人 [MF] 30 品川侑輝 [MF] 6 松田悠佑 → 58'(24)小山北斗 [MF] 8 園部凌平 → HT(32)久保史久斗 [MF] 11 坂本一輝 [MF] 25 長谷川寛之 [FW] 17 竹下玲王	出 場 選 手
---	------------------	---	------------------

得点

26 2回戦

FC TIAMO枚方 奈良クラブ
1 [前半1-0 後半0-0] 0

●2020年9月23日 19:00 ●ヤンマースタジアム長居 ●試合時間:90分 ●[主審]須谷雄三[副審]村田裕紀/谷弘樹[第4の審判員]松崎涼 ●マッチコミッショナー:岡野雅夫 ●観衆:507人

[GK] 36 武田博行 [DF] 18 阿部翔 → 87'(19)石神直哉 [DF] 4 樋口純 [DF] 22 松浦航洋 [DF] 29 小谷健悟 [MF] 28 井上翔太 [MF] 25 宮城和也 [MF] 14 加藤博人 → 78'(6)田中英雄 [MF] 17 福森大樹 → 78'(11)木田直樹 [MF] 24 佐藤隼 → 87'(13)道上隼人 [FW] 7 チョ・ヨン Chol 11'加藤博人(1-0)	出 場 選 手	[GK] 1 上田智輝 [DF] 4 中村謙吾 [DF] 24 金聖基 [DF] 5 西村洋平 [DF] 23 寺島はるひ → 90'(3)部並優太 [MF] 17 吉田直矢 → HT(11)加藤徹也 [MF] 6 吉田大河 → 70'(19)田宮隼人 [MF] 27 山本宗太郎 [MF] 25 早坂翔 [FW] 20 齋藤雄大 → HT(26)島田拓海 [FW] 7 菅野哲也	出 場 選 手
--	------------------	--	------------------

得点

67'阿部翔 警告 17'菅野哲也、64'山本宗太郎

21 2回戦

新潟医療福祉大学 アルティスタ浅間
3 [前半0-0 後半3-0] 0

●2020年9月23日 17:00 ●新潟市五十公野公園陸上競技場グ
リーンスタジアムしばた ●試合時間:90分 ●[主審]佐藤誠和[副審]
伊勢裕介/手塚優[第4の審判員]小林健太郎 ●マッチコミッショナー:
佐藤圭司 ●観衆:220人

[GK] 1 宗像利公 [DF] 22 森田慎吾 [DF] 5 橋本恭輔 [DF] 20 神田悠成 → 86'(16)ンダウ ターラ [DF] 3 沼田皇海 [MF] 7 塚田裕介 → 57'(15)オナイウ情滋 [MF] 18 野間ティラン [MF] 6 松本雄真 [MF] 10 シマブクカズヨシ [FW] 9 佐々木快 → 70'(19)田中翔太 [FW] 13 小森隼納 → 57'(11)有田朱里	出 場 選 手	[GK] 21 鈴木透 [DF] 13 木村太貴 [DF] 20 鈴木雄大 [DF] 25 工藤貴大 [DF] 24 金澤卓巳 [DF] 2 長谷澤杜 [MF] 6 大根佳記 → 74'(23)清水夢希 [MF] 8 山下浩也 → 76'(7)岡田季徳 [MF] 14 岡本裕樹 [FW] 3 永松廉 [FW] 26 加倉広海 → 77'(11)塩沢勝吾	出 場 選 手
---	------------------	--	------------------

75'83'有田朱里(1-0)(2-0)、
84'田中翔太(3-0)

得点

警告: 69'工藤貴大

22 2回戦

福井ユナイテッドFC 富山新庄クラブ
2 [前半0-0 後半1-1] 1

●2020年9月23日 19:00 ●テクノポート福井スタジアム ●試合
時間:90分、延長30分 ●[主審]松澤慶和[副審]小野裕太/榎波亮介
[第4の審判員]榎波俊太 ●マッチコミッショナー:広部雅之 ●観衆:
263人

[GK] 21 リュウ・ヌグラハ [DF] 4 吉田旭陽 [DF] 15 篠原和希 → HT(18)石川智也 [DF] 2 恩田巧巳 → 延前(5)橋本真人 [DF] 13 木村健佑 [MF] 16 福田航太 → 37'(6)鶴野太貴 [MF] 30 奥野将平 [MF] 3 大木竜平 → 77'(20)安川誠人 [FW] 10 山田雄太 [FW] 39 全村賢志郎 → 58'(9)我那覇和樹 [FW] 14 石塚功志 → 58'(24)宮地裕二郎	出 場 選 手	[GK] 31 穴戸綾 [DF] 18 五百崎和幸 [DF] 28 高橋翔太 [MF] 4 平原隼也 [MF] 10 細木勇人 → 84'(15)青島陸晃 [MF] 11 中田大貴 [MF] 13 平野甲斐 → 80'(3)坂本雅哉 [MF] 17 斎藤和也 → 104'(24)高木裕喜 [MF] 23 中田成也 [MF] 27 田口泰誠 [FW] 6 山田貴仁	出 場 選 手
---	------------------	---	------------------

86'山田雄太(1-1)、116'奥野将平(2-1)
72'恩田巧巳 警告 33'99'山田貴仁、103'五百崎和幸、113'平野甲斐

得点

退場: 99'山田貴仁

23 2回戦

Honda FC 常葉大学
2 [前半2-0 後半0-1] 1

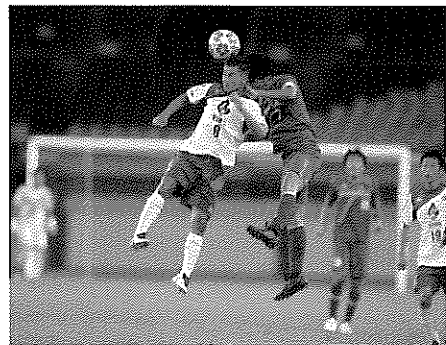
●2020年9月23日 19:05 ●エコパスタジアム ●試合時間:90分
●[主審]松本康之[副審]安川公規/北沢倫章[第4の審判員]中村忍
●マッチコミッショナー:永田亨 ●観衆:879人

[GK] 1 橋本祐規 → 70'(20)白坂優馬 [DF] 11 堀内颯人 [DF] 7 松本和樹 [DF] 3 三浦誠史 → HT(16)川浪龍平 [MF] 24 佐々木俊輝 [MF] 22 石田和希 [MF] 8 山藤健太 → 62'(23)清水航輔 [MF] 19 八戸雄太 [MF] 14 川畑卓人 → HT(4)富田湧也 [MF] 15 原田開 → 83'(10)古橋達弥 [FW] 9 大野母梧 → 89'(10)古橋達弥	出 場 選 手	[GK] 1 坪步夢 [DF] 16 野中歩真 [DF] 5 速水修平 [DF] 4 山下柊哉 [DF] 7 中道慶人 [MF] 8 野中新史 → 87'(3)勝村永遠 [MF] 6 山田温人 [MF] 10 加藤肇登 → 87'(20)古長谷千博 → 101'(12)岸孝宗郎 [FW] 11 小松悠 → 87'(9)新里勇人 [FW] 30 前田翔菜 → 80'(19)平野琢馬	出 場 選 手
--	------------------	---	------------------

14'26'大野母梧(1-0)(2-0)
59'山藤健太 警告 75'岸孝宗郎

得点

90+2'山下柊哉(2-1)



2回戦-Honda FC vs 常葉大学

19 2回戦

筑波大学 桐蔭横浜大学
4 [前半2-2 後半2-1] 3

●2020年9月23日 19:00 ●ひたちなか市総合運動公園陸上競技場
●試合時間:90分 ●[主審]宇田川泰弘[副審]原崇/外岡将司
[第4の審判員]阿久津駿 ●マッチコミッショナー:宮本正紀 ●観衆:
274人

[GK] 1 櫻庭立樹 [DF] 2 山原怜音 [DF] 23 森祐皇 [DF] 3 角田涼太郎 [DF] 6 三浦雅人 → 73'(28)遠藤海斗 [MF] 17 加藤匠人 → 73'(13)和田育 [MF] 8 知久航介 [MF] 5 井川空 → 90'(12)田嶋翔 [FW] 11 森海渡 [FW] 9 小林幹 → 62'(27)瀧良俊太	出 場 選 手	[GK] 1 早坂勇希 [DF] 2 浅野嵐人 → 90+2'(13)上田駿斗 [DF] 3 遠藤凌 [DF] 4 鍋田純志 [DF] 5 岩下航 [MF] 7 神垣陸 → 79'(32)山田新 [MF] 6 橋田健人 [MF] 9 松本幹太 → 79'(28)高木俊希 [MF] 8 加々美登生 [FW] 10 島海芳樹 [FW] 11 藤原友哉 → 87'(24)寺沼星文	出 場 選 手
--	------------------	--	------------------

3'三浦雅人(1-0)、18'森海渡(2-0)、77'和田育(3-3)、81'井川空(4-3)
28'三浦雅人 警告 33'松本幹太、77'早坂勇希

20'51'加々美登生(2-1)(2-得点: 3)、35'松本幹太(2-2)

20 2回戦

VONDS市原FC 東京武蔵野シティFC
2 [前半0-0 後半0-0] 3

●2020年9月23日 17:00 ●セトエーオリブスタジアム ●試合
時間:90分、延長30分 ●[主審]原田雅士[副審]梅田智起/永島淳平
[第4の審判員]小西和幸 ●マッチコミッショナー:山田次男 ●観衆:
0人

[GK] 31 高井悠貴 [DF] 13 原田大雅 [DF] 2 物田尚作 [DF] 26 藤田大道 [DF] 27 齋藤亮多 [MF] 11 野上拓哉 → 78'(7)小野祐輔 [MF] 6 北原誠也 → 99'(10)野田卓宏 [FW] 20 関口直人 → 101'(22)西袋裕太 [FW] 24 遠藤翼 → 85'(15)二瓶翼 [FW] 32 齋藤悠馬 → 85'(8)塚勇斗 [FW] 23 井上翔太郎 → 85'(9)池田晃太	出 場 選 手	[GK] 41 本田沙 [DF] 2 高慶汰 [DF] 17 小口大貴 → 120'(10)金守賢紀 [DF] 28 池田直樹 [DF] 30 望月湧斗 [DF] 4 小野寺湧紀 → 75'(9)田口光樹 [MF] 7 岩田啓佑 → 延後前(26)後藤準希 [MF] 8 小林大地 → HT(18)石原幸治 [MF] 14 本田圭佑 → HT(5)鈴木裕也 [MF] 23 斎藤優人 [FW] 16 中川諒真	出 場 選 手
--	------------------	---	------------------

105'塚勇斗(1-1)、119'西袋裕太(2-3)
98'石原幸治(0-1)、109'中川諒真(1-2)、111'田口光樹(1-3)

得点

警告: 120+2'本田沙

41 4回戦

福井ユナイテッドFC | ラインメール青森

2 [前半1-0 後半0-1] 1

●2020年12月13日 13:00 ●テクノポート福井スタジアム ●試合時間:90分、延長30分 ●[主審]山岡良介[副審]蒲澤淳一/大矢充[第4の審判員]上原直人 ●マッチコミッショナー:広部雅之 ●観衆:344人

[GK] 1 千葉泰汰 [DF] 5 橋本真人 → 102'(2)恩田巧巳 [DF] 17 洪潤極 [DF] 18 石川智也 [MF] 20 安川誠人 → 78'(24)宮地裕二郎 [MF] 4 吉田旭陽 [MF] 30 奥野将平 [MF] 13 木村健佑 [FW] 10 山田雄太 [FW] 39 全村賢志郎 → 96'(14)石塚功志 [FW] 25 角野翔汰	出 場 選 手	[GK] 41 末次敦貴 [DF] 29 水野真人 → 延前(17)廣瀬智行 [DF] 24 阿波真也 [DF] 2 野田紘史 [MF] 11 小幡純平 [MF] 7 太田康介 → 101'(5)西山大雅 [MF] 8 榊原慧悟 [MF] 18 井上友也 → 70'(6)西室隆規 [MF] 28 菊岡拓朗 → 延前(9)堀研太 [FW] 33 進藤誠司 → 105+3'(27)新田裕平 [FW] 26 浜田幸輔 → 70'(16)和田馨稀	出 場 選 手
3'オウンゴール(1-0)、106'石塚功志(2-1)	得点	46'進藤誠司(1-1)	警告
		36'榊原慧悟、91'廣瀬智行、106'和田馨稀	

42 4回戦

福山シティFC | アルテリーヴォ和歌山

2 [前半1-0 後半1-1] 1

●2020年12月13日 14:00 ●広島広域公園第一球技場 ●試合時間:90分 ●[主審]柿沼亨[副審]清水崇之/中澤涼[第4の審判員]花川雄一 ●マッチコミッショナー:谷本和之 ●観衆:596人

[GK] 31 平田陸 [DF] 2 椎智行 [DF] 6 高田健吾 [DF] 4 田中憧 [DF] 33 徳永椋太 [MF] 7 曾我大地 [MF] 14 磯江大勢 → 85'(11)伊藤圭斗 [MF] 20 田口駿 → 90+4'(18)飛田裕大 [MF] 10 隅田航 → 65'(19)太田泰河 [FW] 39 高山剛 → HT(16)高橋大樹 [FW] 23 吉井佑将 → 65'(32)ソノ・ホギョン	出 場 選 手	[GK] 21 桑水流拓也 [DF] 14 三浦修 [DF] 25 高橋寛太 [DF] 22 白明哲 [DF] 18 村上拓人 [MF] 8 山本大稀 [MF] 10 高瀬龍舞 [MF] 23 加藤健人 → 82'(17)中西倫也 [FW] 26 堀野翔 → 59'(27)千川原慎 [FW] 11 久保裕一 → 59'(9)林祥太 [FW] 13 井ノ内拓也 → HT(16)松尾瑛太	出 場 選 手
33'高山剛(1-0)、47'高橋大樹(2-0)	得点	90'林祥太(2-1)	警告
16'田中憧、59'曾我大地		21'井ノ内拓也、54'白明哲	

43 4回戦

ヴェルスバ大分 | Honda FC

0 [前半0-1 後半0-0] 1

●2020年12月13日 13:00 ●大分市営陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]吉田哲朗[副審]穴井千雅/イ・サンギ[第4の審判員]緒方孝浩 ●マッチコミッショナー:大久保邦彦 ●観衆:502人

[GK] 1 姫野昂志 [DF] 30 村田勉 [DF] 3 浦島貴大 [DF] 4 西村大吾 [MF] 14 西笠植嶺斗 [MF] 8 篠原宏仁 → 90+1'(21)中野匠 [MF] 6 高橋宏季 → 80'(15)金子雄祐 [MF] 5 本多琢人 → 70'(11)利根瑠偉 [MF] 10 瓜生昂勢 [FW] 9 数内健人 [FW] 33 前田央樹 → HT(18)中村真人	出 場 選 手	[GK] 20 白坂楓馬 [DF] 5 鈴木雄也 [DF] 3 三浦誠史 [DF] 11 堀内颯人 [MF] 24 佐々木俊輝 [MF] 7 松本和樹 [MF] 22 石田和希 → 90+1'(2)池松大騎 [MF] 19 八戸雄太 [MF] 9 大町将梧 [FW] 13 岡崎優希 [FW] 4 富田湧也 → 82'(15)原田開	出 場 選 手
25'篠原宏仁	得点	14'富田湧也(0-1)	警告

39 3回戦

高知ユナイテッドSC | FC徳島

2 [前半1-1 後半1-0] 1

●2020年11月11日 19:00 ●Pikaraスタジアム ●試合時間:90分 ●[主審]堀善仁[副審]横山卓哉/柳田翔[第4の審判員]友政利貴 ●マッチコミッショナー:小河雄磨 ●観衆:202人

[GK] 22 池上高季 [DF] 15 玉川健太 [DF] 3 藤崎将汰 [DF] 5 中山和弥 → 66'(27)中舛健人 [DF] 24 平田孝一朗 [MF] 10 横竹翔 [MF] 4 松本将一 → HT(6)青木捷 [FW] 9 長尾善公 [FW] 8 西村勇太 → 71'(18)泉光輝 [FW] 19 赤星彪麻 [FW] 7 田口遼 45+1'田口遼(1-1)、76'長尾善公(2-1)	出 場 選 手	[GK] 99 萩野賢次郎 [DF] 2 天羽良輔 [DF] 24 林田隆介 [DF] 33 石川雅博 [DF] 39 新田巳裕 [MF] 8 奥村南斗 [MF] 10 松本圭介 → 82'(16)廣井隼人 [MF] 22 後藤卓磨 → 72'(6)是枝真伍 [MF] 26 高島淳也 [MF] 40 中林一樹 [FW] 9 下田康太 → 63'(29)中田剛尊 7'松本圭介(0-1)	出 場 選 手
26'平田孝一朗	得点	7'松本圭介(0-1)	警告



3回戦・高知ユナイテッドSC vs FC徳島

36 3回戦

Honda FC | FCマルヤス岡崎

1 [前半0-0 後半1-0] 0

●2020年10月28日 16:04 ●エコパスタジアム ●試合時間:90分 ●[主審]大橋佑祐[副審]伊勢裕介/谷弘樹[第4の審判員]安川公規 ●マッチコミッショナー:興津純男 ●観衆:521人

[GK] 1 楠本祐規 [DF] 11 堀内颯人 [DF] 2 池松大騎 [DF] 6 中村桐那 [DF] 19 八戸雄太 [MF] 24 佐々木俊輝 [MF] 7 松本和樹 [MF] 5 鈴木雄也 [MF] 4 富田湧也 [FW] 13 岡崎優希 [FW] 18 児玉怜音 → 68'(10)古橋達弥	出 場 選 手	[GK] 41 角井崇太郎 [DF] 37 飯田真輝 [DF] 33 多々良敦斗 [DF] 22 森本大貴 [MF] 16 地主園秀美 [MF] 7 阪本将基 → 70'(8)寺尾憲祐 [MF] 13 塩見仁 [MF] 15 青木翼 [MF] 30 船谷圭祐 [FW] 36 大飼翔洋 [FW] 14 平井将生 → 70'(25)水野翔太	出 場 選 手
80'岡崎優希(1-0)	得点		

37 3回戦

アルテリーヴォ和歌山 | FC TIAMO枚方

3 [前半0-1 後半2-1] 2

●2020年10月28日 19:03 ●ヤンマースタジアム長居 ●試合時間:90分、延長30分 ●[主審]松本康之[副審]堀善仁/橋本真光[第4の審判員]川勝彬史 ●マッチコミッショナー:岡野雅夫 ●観衆:785人

[GK] 21 桑水流拓也 [DF] 14 三浦修 [DF] 25 高橋寛太 [DF] 22 白明哲 [DF] 18 村上拓人 [MF] 7 大北啓介 → 58'(17)中西倫也 [MF] 10 高瀬龍舞 → 84'(16)松尾瑛太 [MF] 23 加藤健人 [MF] 26 堀野翔 → 58'(27)千川原慎 [MF] 8 山本大稀 → 113'(20)辻村剛史 [MF] 13 井ノ内拓也 → 84'(9)林祥太	出 場 選 手	[GK] 36 武田博行 [DF] 25 宮城和也 [DF] 22 桶浦航洋 [DF] 4 樋口総 [DF] 18 阿部翔 → 69'(19)石神直哉 [MF] 6 田中英雄 [MF] 28 井上翔太 → 33'(29)小谷健悟 [MF] 14 加藤博人 → 86'(17)福森大樹 [MF] 24 佐藤諒 [MF] 7 チョ・ヨン Chol [FW] 11 木田直樹 → 延後前(10)二川孝広	出 場 選 手
68'オウンゴール(1-2)、70'山本大稀(2-2)、109'林祥太(3-2)	得点	42'チョ・ヨン Chol(0-1)、53'木田直樹(0-2)	警告
87'林祥太、117'白明哲			

40 3回戦

鹿屋体育大学 | ヴェルスバ大分

1 [前半0-0 後半1-2] 2

●2020年10月28日 19:00 ●えがお健康スタジアム ●試合時間:90分 ●[主審]宮原一也[副審]松尾明徳/原田大輔[第4の審判員]向井修也 ●マッチコミッショナー:星津章博 ●観衆:191人

[GK] 1 安田惟太郎 [DF] 27 片桐羽馬人 [DF] 3 濱口功聖 [DF] 6 宮内真輝 [MF] 20 比嘉将貴 → 83'(11)伊藤龍生 [MF] 7 山口卓也 [MF] 14 木橋朋輝 [MF] 13 城戸社 → 70'(18)山本廉 [MF] 10 藤本一輝 [FW] 9 根本凌 [FW] 15 五十嵐理人 → 61'(8)森重輝	出 場 選 手	[GK] 31 長谷川凌 [DF] 4 西村大吾 [DF] 3 浦島貴大 [DF] 30 村田勉 [DF] 5 本多琢人 → 82'(16)福元考佑 [MF] 21 中野匠 → 68'(9)数内健人 [MF] 6 高橋宏季 → 82'(10)瓜生昂勢 [MF] 8 篠原宏仁 [MF] 17 藤本拓臣 → 82'(14)西笠植嶺斗 [MF] 7 宮内寛斗 [FW] 33 前田央樹 → 82'(22)餅山大輝	出 場 選 手
90+2'伊藤龍生(1-2)	得点	52'前田央樹(0-1)、62'宮内寛斗(0-2)	警告
32'濱口功聖			

38 3回戦

福山シティFC | 三菱水島FC

2 [前半1-0 後半1-0] 0

●2020年10月28日 13:00 ●広島県みよし運動公園陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]横山卓哉[副審]柳岡拓磨/柳田翔[第4の審判員]山口隆平 ●マッチコミッショナー:谷本和之 ●観衆:275人

[GK] 31 平田陸 [DF] 2 椎智行 [DF] 6 高田健吾 [DF] 4 田中憧 [DF] 33 徳永椋太 → 62'(5)植田涼吾 [MF] 7 曾我大地 [MF] 14 磯江大勢 [MF] 20 田口駿 → 87'(11)伊藤圭斗 [MF] 10 隅田航 → 62'(19)太田泰河 [MF] 16 高橋大樹 [FW] 23 吉井佑将 → 63'(32)ソノ・ホギョン	出 場 選 手	[GK] 30 滝裕徳 [DF] 4 内田健太郎 [DF] 14 山部晃 [DF] 3 安田拓馬 [DF] 2 前原辰徳 [MF] 29 山本孝志 → 90+2'(5)嶋海達也 [MF] 17 中川知也 [MF] 15 鶴丸貴之 → 90+4'(28)秋守蓮 [MF] 13 原田颯介 → 90+4'(23)岸本風 [MF] 7 齋藤和磨 → 90+2'(8)森田良太 [FW] 9 中井アス → 56'(11)高瀬翔太	出 場 選 手
5'田口駿(1-0)、90'伊藤圭斗(2-0)	得点		警告
45'田口駿			

第3部 参加52チーム・登録選手

①東京国際大学

- ②前田秀樹
- ③ 7回
- ④ 1回戦
- ⑤村上駿、石川峻祐、山原康太郎、湯澤拓士、塩野清雅、小林友也、宇高魁人、荒木秀太、伊能玲生、水光亮、師岡将生、志賀一允、落合隆、西野隆男、森大輝、関根瑠楓、小崎魁、山田優介、福島健太、林祥太郎、大野広通、横江祐樹、高橋大、川島日明、長岡龍之介、塩見雄志郎、重野祥輝、森賢太郎、松田亮、佐藤直人、丸山友輝、田村聖人

①VONDS市原FC

- ②岡山一成
- ③ 3回
- ④ 2回戦
- ⑤原田直樹、鶴田周作、斎藤広野、藤井竜、北原毅之、小野祐輔、峯勇斗、池田晃太、野田卓安、野上拓哉、原田大雅、山岸智、二瓶寛、大木暁、沼大希、杉本真、遠藤敬佑、関口直人、佐藤健、西袋裕太、井上翔太郎、遠藤翼、戸谷飛鳥、藤田大道、嶋飼亮多、熊谷崇大、高井悠貴、齋藤悠馬

①東京武蔵野シティFC

- ②池上寿之
- ③ 5回
- ④ 3回戦
- ⑤西岡佑馬、高慶汰、小松崎雄太、小野寺湧紀、鈴木裕也、都丸弘弘、岩田啓佑、小林大地、田口光樹、金守貴紀、内山俊彦、森谷実、本田圭佑、金田拓海、中川諒真、小口大貴、石原幸治、鈴木翔、佐々木匠門、児玉潤、金井洵樹、差彦優人、澤野康介、片山修、後藤謙弥、玉川昂勢、池田直樹、大倉康隆、望月湧斗、諸貴雅弘、永露大輔、本田渉、伊藤旋太

①桐蔭横浜大学

- ②安武亨
- ③ 4回
- ④ 2回戦
- ⑤早坂勇希、浅野嵩人、遠藤凌、鍋田純志、岩下航、橋田健人、神垣隆、加々美登生、松本幹太、鳥海芳樹、篠原友哉、佐々木大樹、上田駿斗、千葉東泰共、園道将良、熊谷誠也、河内涉真、木村鷹之、高橋圭汰、古谷綾太郎、古瀬圭佑、田中匠、佐藤藍大、寺沼星矢、中野就斗、山田新、白輪地敬大、井出真太郎、山内日向汰、渡邊寿樹也、木戸雄登、高木俊希、西村俊佑、神田洗樹、中村洗太、奥村周太、古谷優斗、松井直人、丸山佑大、大森幹太

①山梨学院大学ベガサス

- ②五十嵐盛作
- ③ 3回
- ④ 1回戦
- ⑤中村謙、丸山圭太、鈴木太智、興石将希、児玉征哉、大本謙、樋口希望、小野真穂、中瀬圭太郎、大塚創太郎、増澤陸斗、岸田良大、大胡郁哉、舟波葵弥、中村匠、小澤恭也、河辺壮樹、本多啓佑、岡田悠人、佐々木龍生、辻岡拓真、丸山輝士、齋藤聖、ジョン・サンチェス、小宮山慶成、池澤飛輝、米原良介、細田望夢、菅尚偉、堀内一彦、瀧尾虎ノ介、望月康平、西雅人、早坂卓巳、大野未来、諸角駿、小野真真、内藤寿哉、滝矢涼平

①アルティスタ浅間

- ②埴田健
- ③ 初出場
- ④ 2回戦
- ⑤田中雄球、長谷澤杜、永松康、大槻佳記、岡田幸徳、山下浩也、高橋悠太、喜屋武聖矢、塩沢勝吾、木村太貴、岡本裕樹、長野駆、玉林隆実、加地玄季、流谷世成、鈴木雄大、鈴木透、伊集院雷、清水夢希、金澤卓巳、工藤貴大、加倉広海、吉内博也

①新潟医療福祉大学

- ②佐熊裕和
- ③ 5回
- ④ 3回戦
- ⑤宗像利公、常盤悠、沼田皇海、二階堂正哉、橋本恭輔、松本雄真、塚田裕介、脇崎峻平、佐々木快、シマツク カスヨシ、有田朱里、三文字瑠衣、小森飛純、田中凌汰、オナイウ情造、ンダウ ターラ、高沢帆、野間ティラン、田中翔太、神田悠成、土屋佑太、森田慎吾、沼田航征、森英希、長谷川琢作、小野田涼、小池陸斗、櫻庭晴人、坂下桂悟、坂岸寛大

①富山新庄クラブ

- ②高橋勇希
- ③ 7回
- ④ 2回戦
- ⑤高藤隆治、菅田峻平、坂本雅哉、平原隼也、山田貴仁、竹澤昂樹、原田力、森川雄二、細木勇人、中田大貴、宮越竜大、平野甲斐、松井大樹、青島隆晃、金澤瑠佳、齊藤和也、五百崎和幸、中山大樹、山田哲也、吉田裕司、牛田敦也、高木裕喜、今野大輔、小野寺諒、田口泰誠、高橋翔太、酒井秋、奥戸綾、森泰次郎、中野信志

①金沢星稜大学

- ②小松崎保
- ③ 2回
- ④ 1回戦
- ⑤岩村航輝、河村拓海、今村優、内海三矢、小園悠馬、羽二生将人、中川健温、河野隼平、佐賀野修吾、窪田開、谷口海斗、折田雄志、前田亮太郎、杉本峻斗、山崎真吾、森田直、山崎推智、青木誠汰、木村響、笠原涼太、花枝龍之介、佐山徹、石川藩、橋本義紀、西川知広、吉田大裕、上田駿佑、島山諒介、岩瀬蒼生、矢野真真

輝、川又理久、高橋歩武、兩宮広夢、松井彰良、南谷陽介、菅塚蓮、山本大、広瀬大夢、田中優太郎、江口七望、藤本諒祐、和田悠世、成手木勇貴、向井ひなた、中村陸人、林下颯、小畑太陽、佐藤勘太、原田拓真、小笠原大将、中村蓮新、広瀬幸太

①ラインメール青森

- ②望月達也
- ③ 3回
- ④ 4回戦
- ⑤神山竜一、野田純史、木下高彰、西山大雅、西室隆規、太田原介、榊原慧悟、堀研太、小嶋純平、石澤善己、法師人将大、菊池大樹、和田響橋、廣瀬智行、井上友也、松岡ジョナタン、神山泰一、小栗和也、阿部龍月、田中康平、阿波真也、中島流、浜田幸雄、新田裕平、菊岡拓朗、水野隼人、萬代宏樹、横山卓司、行武大希、末次教貴、進藤諒司(※2)

①富士大学

- ②高藤雅也
- ③ 2回
- ④ 3回戦
- ⑤木村樹、阿部裕良、平中忠慶、谷地朝日、志村湊、吉田光希、松倉玄樹、岩村遊、緒方悠太、阿部亮太、中川和彦、関友斗、水野拓海、佐藤大雅、伊藤魁莉、岡崎繁人、遠山南海、福山智仁、松野史、戸羽達希、菅原佑哉、藪中海皇、門脇大、田中平午、安野天士、金野泰治、阿部将斗、芝西大希、千葉希、伊藤将里、菅原新、粟畑玲優、折川輝樹

①ソニー仙台FC

- ②中村元
- ③ 21回
- ④ 2回戦
- ⑤古川裕貴、三浦祐希、萩原健太、宮本鉄平、平田健人、富澤右京、吉森泰兵、佐藤碧、内野裕太、山崎一航、丹代爽弥、金井冬士、吉野蓮、鈴木啓太郎、松本拓海、藤原元輝、秋元佑太、菅原啓祐、山本アマティン、鴨川優斗、吉田吏次、金子貴裕、吉川佳介、石上輝、佐川雅寛

①狹田興業

- ②齊藤隆
- ③ 初出場
- ④ 1回戦
- ⑤安田健太、木内瑛、日黒貴大、鎌田一平、加賀谷昂貴、伊藤大、土屋健太、五十嵐知弘、熊谷琢登、佐藤勇矢、菅原嵩、中村真裕、林拓志、藤澤弘大

①大山サッカークラブ

- ②鈴木永
- ③ 初出場
- ④ 1回戦
- ⑤佐藤匠、阿部和樹、佐藤孝俊、森田瑞樹、佐藤新、本間礼皇、渡部翔甫、池田大郎、木村比呂、佐藤貴浩、梅本拓、佐藤翔平、名古祐介、佐川勇貴、齋藤龍、七森秀、小林大樹、本間光、山本貴、伊勢勇樹、佐藤浩希、阿部真心、長谷川健太郎、今野大和、阿部明男、井上史輝、齊藤久人、齊藤祐希、鈴木謙、難波広樹

①いわきFC

- ②田村雄三
- ③ 4回
- ④ 2回戦
- ⑤白岡テモシ、今吉晃平、田中龍志郎、ウェスレイ・ロドリゲス、平澤俊輔、片山紳、日高大、鈴木翔太、平岡将豪、滝沢昂司、松本健太郎、山口大輝、金大生、谷村海那、岩淵弘人、黒澤丈、坂田大樹、吉田知樹、山下優人、寺村浩平、増崎大虎、黒宮丈、似鳥康太、前田尚輝

①筑波大学

- ②小井土正亮
- ③ 31回
- ④ 5回戦
- ⑤櫻庭立樹、山原怜香、角田涼太郎、山内翔、井川空、三浦雅人、利平賢大、知久航介、小林幹、生地慶充、森海渡、田崎翔、和田育、渡邊陽、池谷祐輔、石川吉輝、加藤匠人、駒崎公一、窪田翔(※1)、栗原秀輔、三沼慶太、高橋豪、森佑里、岡野匠真、藤正憲(※1)、鈴木瑞生、瀧良俊太、遠藤海斗、林田魁斗、高山沙生、加藤零太、岩田佑成、増淵利樹、植谷大河、江田光之介、加藤太一、松田康平(※1)、宮松竜士、長岡道、庄司夢ノ介、加藤琉都(※2)、若浅歩丈(※2)、谷畑孝亮(※2)

①栃木シティFC

- ②中村敦
- ③ 11回
- ④ 1回戦
- ⑤大石文弥、内田隼平、増田修斗、岡本洵、大島嵩弘、高地系治、鈴木隆雅、レジーニョ、山村佑樹、井澤輝、藤田祥史、岡庭裕貴、清水貴文、田中寛己、古波津辰希、若杉好輝、田中輝希、関戸裕希、飯島翼、菅原大道、永見康、吉田篤志、黒石川瑛、鈴木隼斗、丹野裕太、シュナイダー潤之介、ユン・ソンヨル、原田鉄爾、阿部巧

①tonan 前橋

- ②澤田博之
- ③ 5回
- ④ 1回戦
- ⑤高田鴻、深瀬太貴、田中淳、額賀優斗、大塚遼太郎、山腰泰博、フイビニョ、遠藤佑真、宮崎明浩、亀井一、澤田貴史、吉内雅人、濱谷幹汰、マルキーニョス、林純、船佐知樹、休石陸、ギゼルミ、一泉恒汰

①チーム名

- ②監督名
- ③天皇杯出場回数(今大会含む) / 過去優勝回数
- ④第100回大会成績
- ⑤第100回大会登録選手(30名)

本大会の大会登録選手は30名。ただし、準々決勝に進出したチームは、準々決勝で登録された選手も掲載(※1は4回戦以降外れた選手、※2は4回戦以降登録された選手)

2020 明治安田生命 J1 リーク 2 チーム

①川崎フロンターレ

- ②鬼木達
- ③ 37回
- ④優勝
- ⑤チョン・ソンリョン、登里夏平、ジェジエウ、谷口彰悟、守田英正、車屋紳太郎、脇坂泰斗、レアンドロ・ダミアン、大島僚太、小林悠、山根視来、中村憲剛、イサカ セイン、長谷川竜也、ジゴウ マテウス、三笠薫、齋藤学、宮代大聖、下田北斗、安藤駿介、田中碧、神谷颯士、丹野研太、原田紅輝、旗手怜央、山村和也、イ・キョン、家長昭博

①ガンバ大阪

- ②宮本恒靖
- ③ 40回 / 5回
- ④準優勝
- ⑤東口順昭、島子源、藤春廣輝、三浦弦太、小野瀬康介、倉田秋、菅沼駿哉、福田湧矢、井手口陽介、一森純、新里亮、マルク・キム・ヨングワン、高木大輔、矢島慎也、黒川圭介、石川暉、奥野耕平、高尾耀、タビナス ジェファーソン、山本悠樹、塚元大、芝本蓮、宇佐美貴史、川崎修平、山口竜也、松田陸、唐山翔白、渡邊千真、シン・ウォン、伊勢航、萩野元伸、坂本一彰、當麻颯、中村仁郎、村上景司、平川拓斗、菅野隆星、イ・ユノ

2020 明治安田生命 J2 リーク 1 チーム

①徳島ヴォルティス

- ②リカルド・ロドリゲス
- ③ 32回
- ④準決勝
- ⑤小川拓也、田向泰輝、ドクジャン、ジエゴ、石井秀典、内田航平、小西雄大、岩尾憲、河田篤秀、渡井理巳、島屋八徳、清武功輝、押谷祐樹、岸本武流、榎本大輝、表原玄太、佐藤晃大、垣田裕唯、福岡将太、上福元直人、藤田征也、鈴木徳真、西谷和希、安部崇士、秋山拓也、吹ヶ徳喜、松澤晋輝、武田太一、長谷川徹、奥田雄大、藤原志樹、川上トオシヨシ、智恵、浜下瑛、梶川諒太、後東尚輝、森田温、杉森孝起

2020 明治安田生命 J3 リーク 1 チーム

①ブラウブリッツ秋田

- ②吉田謙
- ③ 27回
- ④準決勝
- ⑤渡辺泰広、谷奥健四郎、鈴木準弥、齋藤瑞生、千田海人、輪笠祐士、前山泰平、茂平、中村亮太、下澤悠太、久富賢、林谷平、三上陽輔、江口直生、井上直輝、韓浩謙、北脇健慈、青島拓馬、田中雄大、沖野将基、小池大喜、山田尚幸、小野敬輔、田中直基、齋藤恵太、安田拓生、田中雄大、鎌田翔雅、半田航也、加賀健一

シート

①Honda FC

- ②井嶋博康
- ③ 40回
- ④準々決勝
- ⑤備本祐規、池松大騎、三浦誠史、富田湧也、鈴木雄也、中村桐耶、松本和樹、山藤健太、大町将祐、古橋達弥、堀内颯人、岡崎優希、川崎隼人、原田開、川浪龍平、小野寺偉志、児玉怜音、八戸雄太、白坂楓馬、高村弘尚、石田和希、清水航輔、佐々木俊輝、鈴木久久、平川貴也

都道府県代表

①札幌大学

- ②河端和哉
- ③ 24回
- ④ 1回戦
- ⑤國田将平、神田知哉、中山和紀、遠山広大、佐藤玲那也、島山暁充、高橋耕平、山内陸、半田航也、相田勇樹、野瀬龍世、成田佳

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていきつなげづくりやサポートも、サッカーならできる。私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい



日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。



日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。



日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。



日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。



日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。



日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。



日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけでなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



パートナー



城南信用金庫

支援団体



住友ベークライト

General Partners

東京海上日動

Bewith

McDonald's

MSOL

三菱商事

なでしこリーグ便り

ノルディーア北海道
<https://www.norddea.jp/>



サッカーを通して恩返しをしたい

一般社団法人ノルディーア北海道 チーフマネージャー 金子 弘恵

女子サッカー界にとって飛躍の年になる2021年、私たちは「なでしこリーグ2部」という新しい舞台で戦います。

昨年は新型コロナウイルスの影響が全世界を襲いました。活動自粛、行動制限、大幅なスケジュール変更、さまざまな困難が降りかかってきました。私たちも例外ではありませんでした。雪が融けて「外でサッカーができる!」という喜びを感じた直後に緊急事態宣言が発令され、活動を自粛することとなりました。その中でもオンラインでトレーニングを実施するなど、コミュニケーションを取りながらの日々は続いてきました。直接会うことのできない歯がゆさはありましたが、オンラインでも顔を見ることができて安心したことを鮮明に覚えています。

昨シーズンはクラブとしてSNSを活用し、私たちの活動や北海道の素晴らしさを多くの方に知っていただくことを目的に、選手4人で「SNS班」を新たに結成しました。誕生日やイベントなどアイデアを出しながら、撮影、編集を行いました。最初は手探りではありましたが、徐々に慣れてきたと同時に選手たちはやりがいを感じてくれていました。

コロナ禍において、北海道独自の生活様式である「新北海道スタイル」を多くの方に知っていただくための動画をクラブで作成。その取り組みは新聞等にも取り上げられました。

働きながらサッカーをしている選手たちが仕事をする中で、社会への貢献、サッカーを通して夢や希望を与えることができること、そして今回のように動画作成などを通して多くの方にメッセージを与えられる存在であることは、私たちができることはサッカーだけではないこと証明してくれたように思います。

無観客試合を経験し、応援してくださる方の声や拍手、手拍子が私たちがどれだけ後押ししてくださっていたのかということあらためて実感しました。あの日常が一日でも早く戻ってきてほしいと願いながら、一つ一つが当たり前ではないことを再認識し、深く感謝しながら過ごさなければいけないと思いました。

私たちはサッカーを通して応援してくださる方への恩返し、そして、少しでも私たちの活動で笑顔になる方が増えたらという思いで引き続き活動をしていきます。



コロナ禍の中で新たな取り組みにも挑戦。引き続き、サッカーができることへの感謝を忘れずに活動していく

なでしこリーグ便り

愛媛FCレディース
<https://ehimefc.com/ladies.html>



サッカーを通じて全国に愛媛の情報を発信していきたい

愛媛FCレディース 監督 赤井 秀一

われわれ愛媛FCレディースは、チーム立ち上げから今年で11年目を迎えます。選手たちはサッカーが大好きで、愛媛FCレディースの一員としての自覚と責任を持ち、このクラブでプレーしたいという強い思いと決意を持って活動しています。日頃は主にスポンサー企業さまの職場で勤務させていただきながらトレーニングや試合をする日々を送っています。プロサッカー選手とは異なり、決して恵まれた環境ではありませんが、ピッチでは真摯にサッカーに向き合い、ひたむきに最後まで諦めず戦っています。そして四国、愛媛県女子サッカーのレベルアップや普及に努め、女子サッカーのシンボルとして地域に愛され多くの方々に応援されること、また、一社会人として社会に貢献し成長することを目指して活動しています。

育成においても愛媛FCレディースMIKAN U-15に加え、U-18チームを立ち上げて5年目を迎えました。県内の高校と提携して育成年代の選手を拡大し、一貫した指導でトップチームとの連携も図っており、MIKAN所属選手でありながら、なでしこリーグへ出場するなど活躍しています。今年はU-18から2人の選手がトップチームへ昇格して地元の大学に通いながらプレーします。

立ち上げ当初からのチームスタイルである「ボールを大切にサッカー」を継続し、進化させながら戦ってきました。昨年はなでしこリーグ1部で戦いましたが、初挑戦となった1部の壁は厚く、10位という悔しい成績に終わってしまいました。しかし、3勝した全てをホームの愛媛で挙げており、日頃から支えてくださる方々の応援が選手の力になっていることをあらためて感じました。

2021シーズンは女子サッカー界の転換期となり、プロリーグ(WEリーグ)が始まります。愛媛FCレディースは新たに設立される新なでしこリーグ1部で戦うこととなりますが、昨年に続いて日本女子サッカーのアマチュア最高峰のリーグでわれわれのサッカーを存分に披露するとともに、サッカーを通じて全国に愛媛の情報を発信していきたいと思えます。今後さらに愛媛県女子サッカーのシンボルとして地域に愛され、応援されるチームになるとともに、子どもたちに夢や希望、感動を与えられるよう、精いっぱい頑張っていきたいと思えます。



現状に満足することなく、常に向上心を持ち、個人・チームとして成長していく

全日本大学サッカー連盟便り

全日本大学サッカー連盟
https://www.jufa.jp/



#atarimaeni CUP サッカーができる当たり前、ありがとう！

一般財団法人全日本大学サッカー連盟 理事 櫻井友

2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、スポーツの年になるはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、東京オリンピック・パラリンピックは延期となり、さらに政府から緊急事態宣言が発令され、今まで当たり前であった日常が大幅に変わってしまいました。

本連盟でも新型コロナウイルス感染症拡大の影響から春先のデンソーカップチャレンジサッカー、夏の総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント、冬の全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)を史上初めて中止としました。三つの全国大会中止を受け、選手の出場機会創出のために2020年度限定の特別大会として「#atarimaeni CUP サッカーができる当たり前、ありがとう！」を1月6日から開催することにしました。

大会名称にある「#atarimaeni」は、2018年に本連盟が始動させた「#ATARIMAENI」プロジェクトから取っています。同プロジェクトは「暴力・差別・不正行為の撲滅を目指し、それがない社会を当たり前にしよう」というメッセージを社会に対して発信する啓発活動です(詳細はJFAnews2019年2月号蹴球通信を参照)。

冒頭でも記した通り、新型コロナウイルス感染症は今までの日常を大きく変えてしまいました。当たり前に行われていたサッカーが当たり前ではなくなってしまいました。当たり前とは何か、多くの方が今回考えたのではないのでしょうか。サッカーができることは当たり前ではなく、今当たり前でできていることに感謝しようという思いが大会名には込められています。

同大会は期間中に一都三県に緊急事態宣言が発令される中、新型コロナウイルス感染症による離脱チームが出ることなく、東海大学の優勝で無事終了しました。

人は1人では生きていけません。

理解しつつも出てこない感謝の言葉

だから今この瞬間支えてくださる方々に

ありがとう

この文章は本大会への私の思いです。日常には感謝しなければいけないことが多くあるにも関わらず、案外出てこない感謝の言葉を皆さんもぜひこの機会に伝えてみてください。最後になりましたが、本連盟のみならずサッカーを支えてくださっている全ての方々に感謝申し上げます。

#atarimaeni CUP

サッカーができる当たり前、ありがとう！



コロナ禍により2020年度限定の特別大会を開催。東海大学が頂点に立った

日本障がい者サッカー連盟便り

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟
https://www.jiff.football/



インクルーシブフットボールフェスタ広島2020

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 山本 康太

日本障がい者サッカー連盟(JIFF)は、今年1月16日に「インクルーシブフットボールフェスタ広島2020」を開催しました。本イベントは、障がいの有無にかかわらず混ざり合える共生社会の実現に向け、サッカーを通じて障がい児・者と健常児・者との相互理解の機会をつくることを目的とするもので、広島県内での同イベント開催は2019年に続く2回目となります。新型コロナウイルス感染拡大の影響で一度は延期となりましたが、オンラインプログラムとして無事に実施することができ、参加者・見学者を合わせて79人が参加しました。

当日は、ゲストとしてサンフレッチェ広島からクラブリレーションズマネージャーの森崎和幸氏(午前の部)、アンバサダーの森崎浩司氏(午後の部)が出演、広島エフ・ドウ(Fリーグ)、アンジュヴィオレ広島(チャレンジリーグ)、地元の障がい者サッカーチーム・A-pfeile広島の選手と指導者にも出演いただき、広島市内の体育館から参加者が自宅で楽しめるさまざまなコンテンツを配信しました。

コート上では、ゲスト、選手、指導者らが前半はダンス、ジェスチャーゲーム、ボールタッチなどを説明し、参加者は自宅等それぞれの場所で一緒に体を動かしながら楽しみました。また、オンライン上にコミュニケーションコーチと手話通訳を配置することで、言葉の理解や同じ動きが難しかったりする子どもにも声掛けや情報のサポートをすることで、一緒に楽しむことができました。後半はPK、歩いてサッカーを行うまぜこぜスマイルウォーキングサッカーを行い、ブラインドサッカーボール、電動車椅子サッカーボール等さまざまなボールを使用し、各競技の解説もしながら障がい者サッカーの理解を促しました。

オンラインでのイベント開催となりましたが、障がいの有無にかかわらず多くの方に参加いただき、例年と変わらないたくさんの笑顔が溢れました。イベント開催にあたり、主管いただいた広島県インクルーシブフットボール連盟、協力いただいたサンフレッチェ広島、広島エフ・ドウ、アンジュヴィオレ広島、A-pfeile広島、協賛いただいた地元企業28社、メディア、その他関係者の皆さまに感謝いたします。



今年はオンラインでの開催となったが、例年と変わらず笑顔が溢れたイベントとなった

自分たちに合う
価値観を持つ

手段を選ばない勝利には
あまり意味がない

指導者にとつて成功とは何だろうか。優秀な選手を育てること、結果を残すこと、柔軟に戦術を組み立てられるようになることなど、さまざまな要素が考えられる。

私が価値観を重視する理由は、大きく分けて三つある。

第一にそのチームに合った価値観を持つことが自分たちを唯一無二の存在にするからだ。システムや戦術だけでは、独自性を出すことはできない。優秀な選手がそろったとしても、その根底にチームが目指すものがなければ、単なる寄せ集めになってしまう。チームのアイデンティティーを際立たせるためには、そのチームの哲学や価値観を共有することが絶対条件。フットサル日本代表の場合、私は選手たちにリスペクト、コミットメント(全力を注ぐこと)、謙虚さ、寛容であること、パッション(情熱を注ぐこと)を要求してきた。

第二に、価値観は逆境でのガイドラインにもなる。例えば、大事な大会を控えたチームに人がいるとする。その選手はチームの主軸で、回復しているが、完治はしていない。チームに「リスペクト」や「謙虚さ」、「寛容であること」が浸透していれば、この選手は

うと戦ってきた。自分のアイデアを仲間とすり合わせ、共感し、同じ方向に向かう。こうしたプロセスを楽しむことに、チームとして歩む意義がある。

試合に出場できなくても、チームに貢献するための別の方法を探すだろう。こうした価値観を個々が備えたチームは多少のピンチにも動じない、本当に強い集団だと言える。

私は、手段を選ばずにもぎ取った勝利にはあまり意味がないと思っている。私のそういう価値観を、選手やスタッフにも理解してもらった上で一緒に成功をつかも

そして最後に、正しい価値観は現実への適応力を与えてくれる。コロナ禍の現在、チームが辛抱強さ、そして時には物事を楽観視できる柔軟性を持つことで、そのチームは状況に応じた答えを導くことができると思う。

価値観や哲学は
才能よりも重要

良いチームは何かしらの価値観を持っている。その一歩上を行くエクセレントなチームは、自分たちのためにカスタマイズした価値観を持っている。だから指導者には自分たちの状況、環境に合ったチーム哲学を考え、議論し、確立してほしい。

自分の考えに選手を当てはめるのではなく、選手のポテンシャルを最大限に引き出すための哲学を考えること。それが見つければ、ただの良いチームとは一線を画す、最高のチームに成長できるはずだ。

指導者として、これまで才能あふれる選手をたくさん見てきた

「確固たる価値観を持つことが、良い結果や才能の開花につながる」とブルーノ監督。その信念は日本代表監督に就任したときから変わらない



が、うまい選手が必ず成功するかどうかという点、そうではない。成否を分けているのは、その選手が確固たるものの見方を持っているか、いないかだと思ふ。裏を返すと、実力と価値観の両方を備えていれば最高の選手になれるし、一線を退いた後も充実した人生を送ることができるといえる。

価値観や哲学を持つことは、才能よりも重要。私はフットサル日本代表にもそれに通じるものをもたらしたいという思いで活動してきた。今回のコラムでも引き続き、自分が日本のフットサル界に残したいと思っているものについて触れたい。



Bruno GARCIA
Formoso

フットサル日本代表のブルーノ・ガルシア監督の連載は隔月の掲載となります。

隔月連載

日本サッカー タイムスリップ

1921年に誕生した日本サッカー協会（JFA）は、2021年に創立100周年を迎える。

本連載では、JFA各種事業や日本サッカーの歩みを振り返っていく。

第15回は引き続き日本女子サッカーリーグをテーマにお届けする。

※本連載は隔月の連載になります



2011年のFIFA女子ワールドカップ優勝後には多くの観客がスタジアムに押し寄せた（写真はINAC神戸レオネッサのホームゲームより）

第15回

日本女子サッカーリーグの変遷（4）

文：大住良之（サッカージャーナリスト）

2011年7月、「なでしこジャパン」がドイツで開催されたFIFA女子ワールドカップで優勝。日本のサッカーにとつて年代制限のない世界大会での初優勝は、ただの「世界一」ではなかった。

この年の3月11日に東日本を襲った大震災。襲いかかった大津波と2万人を越す犠牲者だけでなく、津波に起因する重大な原発事故、そして突然の電力不足など、日本中が大きな打撃に襲われ、消沈していた。その最中、なでしこジャパンのチーム一丸、

どんな状況にもくじけず顔を上げて戦う姿勢に、日本中が大きな感銘を受けたのだ。そして女子サッカーは突然国民的関心事になった。

前年3位だった東京電力マリーゼが原発事故によって活動停止になり、9クラブで行われたこの年の日本女子サッカーリーグ（JLFL）、愛称「プレナス」なでしこリーグ。ワールドカップの1週間後に再開されると、スタジアムには驚くほどの多くの観客が詰めかけた。特にワールドカップで得点王とMVPを

ダブル受賞した澤穂希らワールドカップ代表選手7人を擁するINAC神戸レオネッサの試合は人気で、8月6日のアルビレックス新潟戦（新潟）には2万4546人も入場者が訪れ、Jリーグに負けない雰囲気となった。このシーズンの平均入場者数は2796人だった。なでしこジャパンは翌12年にもロンドンオリンピックで銀メダルを獲得、女子サッカーの人気をけん引していく。

この時期に圧倒的な強さを誇ったのが、積極的な選手補強により人気とともに実力もつけた「神戸」だった。なでしこジャパンの中心選手に韓国代表のチ・ソヨン、ア

メリカ代表のゴベル・ヤネスなどを加えた布陣は盤石で、1部に昇格して4シーズン目の11年に無敗で初優勝を飾ると、翌年も無敗で連覇。13年まで3連覇の偉業を達成する。

JLFLは14年に大会方式を一新し、10クラブの2回戦総当たりが続いて上位6クラブと下位4クラブに分けた「エキサイティングシリーズ」で最終順位をつけることにした。「神戸」の牙城を崩し、浦和レッズレディースが09年に次ぎ優勝を飾った。

15年には1部（10クラブ）、2部（10クラブ）の下に東西のチャレンジリーグ（EAST・WEST）、6クラブ、WEST・6クラブを置く「3部制」の計32クラブとなり、リーグ戦も充実していった。1部のクラブを中心に各国代表クラスの外国籍選手の獲得も再び活発になり、華やかさを増す。

出身で16年から4年連続得点王のF.W田中美南がMVPに選ばれた。

そして21年からのWEリーグスタートが発表され、日本の女子トップリーグとしての最終シーズンとなった20年。コロナ禍で開幕が4カ月以上遅れ、厳しい日程になる中で優勝を飾ったのが浦和レッズレディース。エース菅澤優衣香の得点力が、3度目の優勝をけん引した（前身のさいたまレイナス「04年優勝」時代を含めると通算4度目の優勝）。

1989年の第1回大会から2020年まで日本のトップリーグとして32シーズンの戦いが行われたJLFL。うち過半数を上回る17回の優勝を達成したのは日テレ・ベレーザだった。90年代には日興證券ドリムレディースが、そして、20年代には「神戸」が有力選手を集めてそれぞれ3連覇と一時代を築いたが、ベレーザは一貫して育成組織の「メニナー」に力を注ぎ、育った選手で日本の女子サッカーのトップを走り続けてきた。育成こそタイトルへの力ギがあり、そして「未来」がある。それはWEリーグ時代にも通じる真実だ。

日本サッカーミュージアム **11+**

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)
Tel:050-2018-1990

- 営業時間 火～金曜日 13:00～17:00(最終入場16:30)
土・日・祝日 10:00～17:00(最終入場16:30)
特別営業期間 10:00～17:00(最終入場16:30)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
年2回のメンテナンス期間
- 入場料 一般大人:550円、小中学生:300円、幼児:無料
団体(20名様以上)・障害者の方:
大人450円、小中学生200円
※割引については、入場ゲートスタッフまでお問い合わせください。
- URL https://www.jfa.jp/football_museum/



2020年度の実績報告～感染対策を講じて営業再開

2020年の日本サッカーミュージアムは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により2月29日(土)から臨時休館し、6月13日(土)から段階的に営業を再開。感染症予防、拡散防止対策を徹底しながら、常設展示に加え、特別展示や夏季特別開館等のイベントを実施しました。

特別展示では、6月から「東京1964から東京2020」を、創立100周年を1年後に控えた9月から「ファンが選ぶサッカー日本代表ベストイレブンユニフォーム」を開催しました。10月から「天皇杯JFA 第100回全日本サッカー選手権大会記念特別展示」、12月からは11月に亡くなったディエゴ・アルマンド・マラドーナさんを追悼する展示を行いました。

イベントは例年とは違う形で実施しました。日本サッカー協会の「Sports assist you～いま、スポーツにできること～」(※)の一環として、過去に夏休み自由研究で使用した学習教材を3月から5月の期間にJFA公式ウェブサイト上で公開し、無料でダウンロードできるようにしました。毎年恒例の夏休み自由研究イベントは、自宅で楽しみながら取り組めるオリジナルグッズを作成し、来場者にプレゼントしました(一部ダウンロード配布あり)。年末には、元日本代表の城彰二さんと中澤佑二さんを迎え、オンラインによるトークショー開催しました。

年間を通して実施している「お仕事レクチャー」や「学校・サッカークラブ学習プログラム」といった教育プログラム、キャリア教育の一環として行われる「職業体験プログラム」はコロナ禍の影響がある中で、前者は40校(379人/1都1道30県の小学校～大学/自由見学のみ)、後者は3校(12人/都内の中学校)にご利用いただきました(学習プログラムは2020年12月31日時点、職業体験プログラムは1月21日～

2月19日期間)。

2021年も引き続き感染対策をしながら、さまざまな展示やイベントを開催していく予定です。

※新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、健康の維持、促進につながるコンテンツや休校期間中の自宅学習に活用いただけるコンテンツの一部を無料で公開。

<2020年入館者数>

- 2020年度総入館者数…………… **8,891人**
期間:2020年1月1日～2020年12月31日
※入館者数:無料フロア(地下1階)または有料フロア(地下2階)に来られた方
- 入館者の内、有料フロア(地下2階)に入場された方…………… **5,657人**
- 有料入場者…………… **5,306人**
- 招待者…………… **351人**
- 開館から17年間の総入場者数…………… **677,242人**
期間:2003年12月12日～2020年12月31日
- 一日最高入場者:2011年7月27日(水)…………… **3,217人**

■メンテナンス臨時休館のお知らせ

日本サッカーミュージアムは、2月24日(水)～26日(金)までの3日間、館内展示品、映像機器のメンテナンスのため臨時休館いたします。

日本サッカーミュージアムを支援いただいている企業(五十音順) ※2021年2月1日現在

株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ
アスカ美装株式会社
キンビール株式会社
キンビパレッジ株式会社
KDDI株式会社
広友物産株式会社
J-GREEN 堺・DREAM CAMP

株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル
株式会社Jリーグ
株式会社ジエブ
株式会社シミスアウト
株式会社スケール
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
株式会社テレビ東京

株式会社電通
株式会社電通ライブ
西鉄旅行株式会社
日本テレビ放送網株式会社
株式会社野村総合研究所
びあ株式会社
株式会社ビッグ・バーン

ホテル東京ガーデンパレス
マッシュコーポレーション株式会社
株式会社マッス
株式会社ムラヤマ
株式会社モルテン
ヤマザキビスケット株式会社
株式会社ユース・プランニングセンター



2020 JリーグYBCルヴァンカップ



FC東京が3度目のリーグカップ制覇!

予期せぬ事態にも柔軟に対応

2020年のJリーグYBCルヴァンカップは昨年2月16日に開幕を迎えた後、グループステージ第1節を終えた時点でコロナ禍の影響により一時中断を余儀なくされた。大会方式は大きく変更され、グループステージは2回戦総当たりから1回戦総当たりへ。従来のプレーオフステージは取り止め、プライムステージは各グループ1位の4チームと2位の上位1チームおよびAFCチャンピオンズリーグ(ACL)に出場する3チームの計8チームによるトーナメントを実施することになった。

グループステージは8月5日に再開。Aグループは4試合で10得点を挙げた前回王者の川崎フロンターレ、Bグループは3試合1失点と堅実な守備が光ったセレッソ大阪が突破。Cグループからは前回優勝の北海道コンサドーレ札幌、DグループではJ2から復帰したばかりの柏レイソルが抜け出した。残る1枚の切符は、各グループ2位のうち、最も成績が良かった名古屋グランパスがつかんだ。

9月に開催された準々決勝で勝利を収めたのはACL出場組の横浜F・マリノスとFC東京、さらに柏と川崎Fも4強に駒を進めた。迎えた10月の準決勝は堅陣を誇る2チームが本領を発揮した。柏が横浜FMを1・0で退け、FC東京は川崎Fに2・0の完封勝ち。決勝は11月に開催する予定だったが、柏に新型コロナウイルスの集団感染が発生したことにより、延期となった。

堅守速攻の2チームが聖地・国立で対戦

年が明けた2021年1月4日、柏とFC東京の両軍が決勝で顔を合わせた。7大会ぶりとなる国立競技場での大一番では、手に汗握る

熱戦が繰り広げられた。

堅守速攻を持ち味として勝ち上がった両チーム、決勝でも立ち上がりから鋭いカウンターアタックを見せる。先に試合を動かしたのはFC東京だった。0・0で迎えた16分、柏のGKのキックを自陣でカットすると、一気に逆襲。レアンドロが勢いそのままに相手ゴールまで突き進み、あつという間に先制点をマークした。FC東京は前半の終了間際に混戦から柏の瀬川祐輔に同点弾を許したが、後半も手数をかけずに好機をつかむ。74分には途中出場のアダイウトンが敵陣ゴール前でこぼれ球を拾い、値千金の勝ち越し点。1点のリードを奪うと、強固な守備でそのまま逃げ切った。

FC東京は11大会ぶり3度目のリーグカップ制覇。就任3シーズン目で初のタイトルを手にした長谷川健太監督は満足そうな笑みを浮かながらも、「このルヴァンカップ優勝が第一歩」と2021シーズンのさらなるタイトル獲得を見据えていた。



柏との決勝で見事なドリブルから先制弾を決め、FC東京に勢いをもたらしたレアンドロ(写真中央)。大会MVPに輝く活躍を見せた

2020 JリーグYBCルヴァンカップ 大会方式

<グループステージ>

ACLに出場する3チーム(横浜FM、神戸、FC東京)を除くJ1の15チームとJ2松本(※)の16チームを4グループに分け、各グループで1回戦総当たりのリーグ戦を行う。各グループの1位チームの4チームと2位チーム内上位1チームの5チームがプライムステージに進出する。

※Bグループの松本はグループステージ第2節以降の試合を実施しない
※Bグループは3チーム(仙台、浦和、C大阪)で1回戦総当たりのリーグ戦を行う

<プライムステージ>

グループステージを勝ち上がった5チームおよびACLに出場する3チーム(横浜FM、神戸、FC東京)を加えた計8チームにより、ノックアウト方式のトーナメントを行う。



準優勝: 柏レイソル

第3位: 横浜F・マリノス、川崎フロンターレ

MVP: レアンドロ(FC東京)

ニューヒーロー賞: 瀬古歩夢(セレッソ大阪)

令和2年度第99回全国高等学校サッカー選手権大会



【大会概要】

2020年12月31日~2021年1月11日、東京、神奈川、埼玉、千葉の9会場で開催。各都道府県の予選を勝ち抜いた48チームが参加し、ノックアウト方式のトーナメントで戦う。試合時間は1回戦から準々決勝は80分、準決勝と決勝は90分。勝敗が決しないときはPK方式を行う(決勝のみ20分の延長戦を行う)。



山梨学院高校が 11年ぶり2度目の全国制覇

高校サッカーの日本一を決める第99回全国高等学校サッカー選手権大会が12月31日から1月11日にかけて首都圏の各会場で開催された。新型コロナウイルス感染拡大防止のため12月30日に予定していた開会式は中止となり、準決勝と決勝も無観客で行われた(1回戦から準々決勝は保護者と学校関係者のみ会場で観戦を可とした)。

35回の出場回数を誇る仙台育英(宮城)や全国最多5回の優勝経験を持つ市立船橋(千葉)のほか、学法石川(福島)を含む初出場6校を加えた48チームが参加し、ノックアウト方式で優勝を争った。大会序盤は点差が開く試合も多かったが、トーナメントが進むにつれ、僅差のゲームが増えていった。ベスト4には2度のPK戦を制した矢板中央(栃木)、初戦から2試合連続で逆転勝ちを収めた帝京長岡(新潟)、前回大会準優勝の青森山田(青森)と、4チームのうち3チームが前年度の4強と同じ顔ぶれに。もう1校は、第88回大会で初出場初優勝を果たした山梨学院(山梨)となった。

無観客で行われた準決勝の第1試合は山梨学院が2点を先行する展開となったが、後半に猛攻を仕掛けた帝京長岡が追い付く。迎えたPK戦は、両GKが2本ずつを止める好プレーを見せたが、山梨学院が3-1で制して決勝進出を果たした。矢板中央と青森山田

の第2試合は、安齋颯馬の先制点を皮切りに5点を奪った青森山田が制し、3大会連続となる決勝戦に駒を進めた。

決勝戦は相手のビルドアップを徹底して押さえた山梨学院のペースで試合が進む。12分に広澤灯喜が先制点を奪ってからも、今大会の得点源となった青森山田のサイド攻撃を封じ、山梨学院が1点をリードして折り返した。

後半は青森山田が攻勢を強め、57分に内田陽介のロングスローから藤原優大が同点弾をマーク。63分には後半から入った藤森颯太のパスから安齋が逆転ゴールを奪ったが、78分には山梨学院が野田武瑠の得点で追い付いた。延長戦でも決着はつかず、迎えたPK戦で4人のキッカーが成功した山梨学院が勝利した。

11年ぶり2度目の優勝をつかんだ山梨学院の長谷川大監督は、「各校の選手がコロナ禍の中で我慢を強いられながら頑張ってきた。決勝に残った2チームが彼らの思いを代表して、勝ち負けを超えた試合をしてくれたと思う」と激闘を振り返った。



PK戦にもつれ込む激闘の末、勝利を手にして喜びに沸く山梨学院の選手たち。ピハインドに陥っても、粘り強く、冷静に戦った



青森山田のディフェンスラインを統率した藤原優大(写真左)。2大会続けて決勝でゴールを挙げるも、優勝はならなかった



2年生の松木玖生が突破を仕掛ける。決勝戦、青森山田は一度は逆転に成功したが、試合を終わらせる3点目を決めることができなかった



山梨学院のGK熊倉匠は、キャプテンとして最後尾からチームを鼓舞。PK戦でも存在感を示し、チームの全国制覇に大きく貢献した

第29回全日本高等学校女子サッカー選手権大会



ALL JAPAN HIGH SCHOOL
WOMEN'S FOOTBALL CHAMPIONSHIP

【大会概要】

1月3日から10日にわたってノエピアスタジアム神戸、三木総合防災公園など兵庫県内9会場を舞台に開催。全国9地域から選出された31チームと開催県（兵庫県）代表の1チームを合わせた計32チームがソックアウト方式で対戦する。3位決定戦は行わない。



藤枝順心高校が 2大会連続5度目の日本一に

29回目を迎えた全日本高等学校女子サッカー選手権大会は、1回戦から接戦が続き、16試合のうち8試合でPK戦を含む1点差以内の勝負となった。

初出場の神村学園高等部伊賀（東海3／三重）は、29回連続出場で過去3度の優勝を誇る聖和学園高校（東北1／宮城）と対戦。前半に先制したものの、後半、聖和学園に2得点を許して敗れた。同じく初出場の暁星国際高校（関東2／千葉）は快進撃を続けた。2回戦は1点ビハインドの状況から残り15分で3点を決めて逆転し、初出場にしてベスト8に進出した。また、8年連続8度目の出場となる開志学園JSC高等部（北信越2／新潟）も初の8強入りを果たした。

準々決勝、新潟勢同士の顔合わせとなった開志学園と帝京長岡高校（北信越1／新潟）は、2020シーズンで3度目の対戦となる。互いに手の内を知る両チームは主導権を奪い合ったが、末次結依の2得点で最後までリードを守った帝京長岡が、2-1で勝利して初のベスト4進出を決めた。

準決勝では、帝京長岡が前回優勝の藤枝順心高校（東海2／静岡）に立ち向かった。帝京長岡は開始8分にCKから惜しい場面をつくったが決められず、20分にCKから藤枝順心に先制を

許すと、その後も流れを引き寄せることができず、0-2で敗れた。

常連校同士の対戦となったもう1試合

は、大商学園高校（関西1／大阪）が前半終了間際に先制するも、後半に岡山県作陽高校（中国1／岡山）が追いつく。互いに得点を重ね、2-2で迎えたPK戦を岡山県作陽が4-3で制し、2度目の決勝進出をつかんだ。

2連覇を目指す藤枝順心と初優勝を狙う岡山県作陽の決勝戦は、藤枝順心が序盤からハイプレスで押し込む展開となった。両チーム無得点で迎えた後半、ショートコーナーから藤枝順心の窓岩日菜が先制点を挙げる。すると藤枝順心は52分、63分にも素早い攻守の切り替えから2点を追加。3-0で勝利した藤枝順心が初の連覇、そして、5度目の優勝を飾った。主将の柳瀬楓菜は「完璧な優勝にしたいという意識はあった」と、大会を通じて無失点で到達した栄冠を喜んだ。



決勝戦、岡山県作陽が無得点に抑えた藤枝順心。ベースをつかんで後半に得点を重ねた



初の連覇となった藤枝順心。「今年の武器であるハイプレスとカウンタープレスで戦おうと選手たちに話した」と多々良和之監督



互いに譲らぬ作陽と大商学園の準決勝は2-2のままPK戦へもつれ込む接戦となる



準決勝、初のベスト4進出となった開志学園（緑）と連覇を目指す藤枝順心の対戦は、2-0で藤枝順心に軍配が上がった

XF CUP 2020 第2回 日本クラブユース女子サッカー大会 (U-18)

【大会概要】

1月9日から17日にかけて、群馬県前橋市で開催。全国9地域の予選を勝ち抜いた16チームが4グループに分かれてグループステージを行い、各グループ上位1チームがトーナメントに進出し、ノックアウトステージを行う。グループステージは80分(40分ハーフ)、ノックアウトステージは90分(45分ハーフ)で実施。2002年4月2日から2008年4月1日生まれの選手が対象で中学生も出場できる。



多彩な攻撃を見せた JFAアカデミー福島が初優勝

昨夏に開催される予定だったXF CUP 2020 第2回 日本クラブユース女子サッカー大会 (U-18)も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年明けの1月9日～17日に群馬県前橋市で開催された。9地域代表の16チームが出場し、4チームずつに分かれてグループステージを戦い、各グループ1位の4チームがノックアウトステージに進んだ。

グループステージのAグループは、日体大FIELDS横浜U18(関東1/神奈川)が、1FC川越水上公園メニーナ(関東7/埼玉)と勝点で並びながらも得失点差1で上回り、1位通過を決めた。3チームが勝点6で並び混戦となったBグループは、開幕戦で8-0と圧勝したちふれASエルフェン埼玉マリ(関東3/埼玉)が得失点差で他チームを退けて首位となった。CグループのJFAアカデミー福島(東海1/静岡)とDグループの横須賀シーガルスJOY(関東2/神奈川)は、3連勝で1位となりノックアウトステージに進んだ。

準決勝1試合目は、日体大がPK戦の末にちふれに勝利した。日体大はPK戦でフィールドプレイヤーの海老名琴美がGKを務め、ちふれのPK2本をセーブする活躍を見せた。準決勝2試合目のac福島とシーガルの対戦は、松窪真心の2得点などで

5-0としたac福島が決勝に進んだ。

日体大とac福島の決勝は、高い攻撃力を誇るac福島が終始リード。城和怜奈の先制点を皮切りに太田萌咲が2得点を決めるなど、多彩な攻撃を仕掛けた。日体大は前半に熊田季海が得点を決めたが、ac福島の波状攻撃を防げず。

ac福島が7-1で勝利し、初優勝を飾った。大会MVPには決勝で3得点を演出した伊藤めぐみ(ac福島)が選ばれ、MIPは海老名(日体大)が受賞。10得点の松窪(ac福島)が得点王となり、ac福島はフェアプレー賞も受賞した。

※JFA 第24回全日本U-18 女子サッカー選手権大会JOCジュニアオリンピックカップに出場するチームは本大会に出場できない



JFAアカデミー福島の松窪真心は10得点を挙げて大会得点王に輝いた



準決勝の接戦を制して決勝の舞台に立った日体大FIELDS横浜U18



横須賀シーガルスJOYは森田優乃の2得点を挙げる活躍で3位に



同時期に開催されたJFA 第24回全日本U-18 女子サッカー選手権大会に引けを取らない白熱した戦いを見せた

JFA 第11回全日本U-15女子フットサル選手権大会



【大会概要】

1月10日と12日に三重県営サンアリーナで開催。全国から選出された9チームを3チームずつ3グループに分けてリーグ戦(1次ラウンド)を行い、各グループの首位チームと、2位の中で成績上位の1チームが決勝ラウンドに進出する。4チームによるノックアウト方式で勝敗を決める。3位決定戦は行わない。

白岡SCLが初出場初優勝を達成!

JFA第11回全日本U-15女子フットサル選手権大会が、1月10日、11日に三重県営サンアリーナで開催された。全9チーム中6チームが初出場とフレッシュな顔ぶれが集まった中で、白岡SCL(関東/埼玉)が初出場にして初優勝を果たした。

初日の1次ラウンドでは、AICシーガル広島レディース(中国/広島)、FCストーリー徳島メニーナ(四国/徳島)、白岡SCLが、それぞれ2連勝でグループの首位に立ち、決勝ラウンド進出を決めた。一方で大会最多5度の優勝を誇る福井丸岡ラク(北信越/福井)が2連敗で敗退する波乱も起きた。

3グループの2位の中で最上位となり、ベスト4に進んだのはグループCの名古屋FCルミナス(東海/愛知)だった。直近2大会で3位となったAICシーガル広島以外の3チームは、初出場が決勝進出を決めている。

AICシーガル広島は初の決勝進出を目指したが、シンプルにロングボールを送り込む白岡SCLに苦戦を強いられた。白岡SCLは、1分に先制点を挙げた小島爽、ハットトリックを達成した高橋亜優の活躍もあり、7-2で勝利した。また、FCストーリー徳島と名古屋FCルミナスの試合は、どちらも譲らず3-3のままPK戦に突入。これを4-2で制した名古屋FCルミナスが決勝進

出を決めた。決勝戦では、両チームがダイレクトプレーを多用し、スピーディーな攻防が繰り広げられる。白岡SCLが先制するものの、18分には名古屋FCルミナスが3-2と逆転。しかし、白岡SCLも諦めない。試合終盤に木綿彩芭のミドルシュートで追いつくと、最後は、キックインからロングボールをゴール前に蹴る攻撃から小島がゴールを決めて逆転する。このゴールが決勝点となり、白岡SCLが日本一に輝いた。

小島哲広監督は、大会を戦いながらたくましさを増していった選手たちの成長を喜び、「来年も戻って来られるように頑張りたい」と、連続出場を新たな目標に据えた。



大会最多優勝を誇る福井丸岡ラク(ユニフォーム赤)だが今大会は1次ラウンド2連敗で大会を後にした



名古屋FCルミナス(ユニフォーム赤)は初戦の11得点が物を言い、グループ2位ながら決勝ラウンドに進出した



2010年のプレ大会以来となる四国勢の決勝進出を目指したFCストーリー徳島メニーナ(ユニフォーム赤)だったが、準決勝でPK戦の末に敗れた



コロナ禍において予防対策が徹底された今大会。表彰式ではメダルを選手自身が受け取った(写真は3位のAICシーガル広島レディース)



「全てにおいて安全が優先される。万一のことがあれば中止する覚悟だった」と話す須原専務理事

事態宣言が発令されるタイミングでした。全体スケジュールにも余裕がありましたし、まずは安全サイドに立つべきと考えました。一方、その後の変更は能動的な決断です。

比較の対象としてJリーグは、全試合をクラブと協業し自ら運営していますから、何かあれば少し延ばして考え、また何かあればもう少し延ばして考えてというアプローチができません。しかし、天皇杯は都道府県協会(47FA)にお願いして運営して

いただいています。その時々で頻繁な変更は不可能です。ですから、思い切って究極の方法は何かを考え、Jリーグとも協議し、これ以上(の変更)は無理なレベルまで振り切った提案をしました。一方で、天皇杯はJFAの第1種登録全チームのトップを決める大会であり、全チームに

対して優勝の可能性を担保しなければなりません。従い、J1、J2、J3は各リーグの上位チームに出場権を与えました。この方式であれば全チームに優勝の可能性を提供できます。同時に、厳しい状況の中でJリーグがしっかりと日程を消化できることも重視しました。JFAとしてどのようなサポートをすればJリーグが成立するかを意識して考えた結果が今回の方式です。

——大会が佳境に入った12月23日、東京を中心に感染が拡大している地域ではイベントの収容人数を上限5000人にするという政府からの発表がありました。

須原 政府発表の数日前、われわれは政府と会話することができました。それを踏まえた上で、決勝に向けて4つの選択肢を検討しました。一つは、何も変えずに開催すること。上限5000人といっても、販売済みチケットはその内数ではありませんでした。その対極にある選択肢は、決勝を中止すること。その中間の考え方として、一つはリモートマッチの実施。もう一つは、実際にわれわれが採った方法ですが、来場の判断をお客さまに委ね、販売済みチケットの払い戻しをギリギリまで受け付ける。この4つの中で、中止の

選択肢をまず除外しました。選手やチーム関係者、会場で働くスタッフらもPCR検査を受けていましたし、運営上の安全確保については自信を持っていました。残りの3つについては侃々諤々の議論になりました。入場料収入や視聴率、興行としての在り方など理由はさまざまですが、ここまでくると理念、ビジョンの話になります。

——先ほど「国民に受け入れてもらうことが重要」というお話もありましたが、今大会を運営する上でのどのような指針を掲げられたのでしょうか。

須原 全てにおいて安全が優先されるということ。天皇杯には興行やフェアネス、あるいはFIFAクラブワールドカップやAFCチャンピオンズリーグ(ACL)の予選という位置づけなど、いろいろな側面があります。通常は試合環境やインテグリティなどさまざまな要素を考慮しバランスを取りながら運営方針を決めますが、今回は何よりも安全を重視しました。本大会のみならず、都道府県予選も同じです。

——異例づくしの今大会を終え、JFAとして得たものとは。

須原 このような状況下でも大会は開催できると証明できたことは大きい。その中で学んだことも多かったです。それよりもあらためて確認できたことが重要だと思っています。それは47FAとのネットワークです。強く、盤石である、と

地域によって感染の状況や知事の考えが異なるため、ある程度の上位レベルの基準は決めた上でそれぞれの状況に応じて柔軟に対応してくださいとお見せざるを得ませんでした。厳しいご意見をいただいたのも事実ですが、皆さん見事に全うしてくださった。これは日本サッカー界が持つ47FAの強さです。緊急事態だからこそ再確認できたことだと思えます。われわれにとつて本当に大きな財産です。

何が正しいか常に考え議論し、積み上げていく

——大会全体の盛り上がりについてはどのようにお考えですか。

須原 第99回大会と比較すると入場者数は前回の方が多かったです。Jクラブの出場試合数が少なくなつたのは興行面ではマイナスでした。にも関わらず、今回(第100回大会)は大いに盛り上がりました。"おらが町のチーム"が初めて上

位に進んだ、あと何回勝てばJリーグの優勝チームと戦える、そういった内面的な要素は予想以上に大きかったです。

——今回も前回に続いて元日に決勝が行われました。天皇杯が継続していく上で、「元日決勝」についてはどのようにお考えですか。

須原 元日決勝については、多くの方が「風物詩」「伝統」と捉え、それ故に「天皇杯決勝は元日に行うべきだ」とおっしゃいます。しかし、私は別の視点から元日開催に強いこだわりを持っています。それは、コア層、ライト層を問わず多くの方に楽しんでいただくためには、テレビの全国ネット、無料放送でお届けすること、しかも視聴者にとつて観戦



大会方式の変更により初出場チームが増加。福山シティFC(白)は準々決勝に進出し、J3王者のブラウブリッツ秋田と対戦した

サッカーファミリー広場



メールマガジンサービス「JFAメールマガジン」を配信開始

日本サッカー協会（JFA）は1月27日からメールマガジンサービス「JFAメールマガジン」の配信を開始しました。

サッカーファミリーの皆さまにサッカーをより身近に感じていただけるよう、日本代表の最新情報をはじめとする各種サッカーの活動をお伝えるほか、日本代表戦やJFAが主催する大会のチケット情報、プレゼントキャンペーンやクーポンなどのお得な情報もお届けしていきます。

ぜひJFAメールマガジンをご登録ください！

【JFAメールマガジン概要】

●サイトURL

新規登録はこちら ▶▶▶ <https://www.jfa.jp/mail/>

●メールマガジン配信予定

1. レギュラーメール（毎月1回 第4水曜日に配信）
 2. パースデーメール（毎月1日 誕生日該当者に配信）
 3. 試合情報メール（日本代表戦の前後に配信）など
- ※配信メールは随時増やしていく予定



2021 WEリーグ プレシーズンマッチの開催概要が決定 ●WE LEAGUE

1月28日、日本女子プロサッカーリーグより、2021 WEリーグ プレシーズンマッチの概要と日程が下記の通り発表されました。4月24日から6月5日、WEリーグの11クラブはホームで2試合、アウェイで2試合の計4試合に出場します。各節の対戦カードやキックオフ時間、会場等はWEリーグのウェブサイトをご参照ください（決定次第発表）。

【2021 WEリーグ プレシーズンマッチ 概要】

大会名称：2021 WEリーグ プレシーズンマッチ

主催：一般社団法人日本女子プロサッカーリーグ

主管：各ホームクラブ

試合方式：90分間（前・後半45分）の試合を行い、勝敗が決しない場合は引き分けとする。順位の決定は行わない。

試合数：全6節、22試合

各クラブはホーム2試合、アウェイ2試合の計4試合に出場する。

日程：第1節 4月24日（土）、25日（日）

第2節 4月29日（木祝）

第3節 5月8日（土）、9日（日）

第4節 5月22日（土）、23日（日）

第5節 5月29日（土）、30日（日）

第6節 6月5日（土）

※上記日程以外に下記日程については当該クラブ間の合意をもってプレシーズンマッチの開催を可能とする。

4月17日（土）、18日（日）

5月1日（土）～5日（水祝）、15日（土）、16日（日）

6月19日（土）、20日（日）、26日（土）、27日（日）

7月3日（土）、4日（日）、10日（土）、11日（日）

【書籍紹介】『スポーツSDGs概論』

～ポストコロナ時代のスポーツをSDGsの視点から考えるための1冊

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後のスポーツ界において重要なキーワードとなる「スポーツSDGs」。同書は国内のさまざまな関係機関等の取り組みを紹介した書籍です。今後、SDGsを掲げて取り組んでいこうとするスポーツ関係団体にとって参考資料となる一冊になっています。

SDGsの概要や政策レベルでの取り組みに加えて、スポーツ界で取り組んでいる先進事例として、JリーグやJリーグクラブ（浦和レッズ、Y.S.C.C）、国際協力機構（JICA）、日本スポーツ振興センター（JSC）、日本スポーツ協会などのほか、JFAのSDGsや社会貢献事業などの取り組みも紹介。スポーツSDGsの現在と未来を視野に入れた全18章で構成されています。

・書籍名：スポーツSDGs概論

・出版社：学術研究出版

・販売価格：紙書籍1,980円（税込）

電子書籍1,870円（税込）

・構成：B6判、282ページ（モノクロ）

※紙書籍はBookWayサイト、アマゾン、書店での注文販売、電子書籍はBookWayコンテンツ店にてご購入が可能です



●本書を5名様にプレゼント!!

応募方法等は次ページをご参照ください。



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005）渋谷支店（135）
普通預金 口座番号0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法：

【電話】03-5276-8838

【FAX】廃止

【フォーム】https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TrrvO-Leh64Nomkz4YOCQAVouVhmtWtVs3EGjIW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link

利用時間：平日12:00～18:00（土日祝、年末年始等除く）



よろこびがつなぐ世界へ

KIRIN

新しい応援、ひろがる。



KIRIN

2019年6月~9月A代表戦出場時間トップ11 © JFA

#届けてキリン



SAMURAI BLUE